

高 校 生 の た め の グ ル ー プ ・ カ ウ ン セ リ ン グ

北 島 丕

人間関係研究会資料 №. 6

グループ・カウンセリングに参加して1年たった今……

金沢二水高校3年生 村 中 喜美江(グループC)

去年、「話し合い合宿」に参加して、ほんとによかったと思っています。参加の直接の動機は北島先生や浦田先生に触れたことだと思うけれど、1年たった現在、ふりかえて考えてみると、私なりに何か悩みがあったのかもしれないかもしれません。それは、ほんのささいなことだったかもしれないけれど、私たち高校生にとっては、小さな悩みが、大きな心の重圧になったりすることがよくあります。

参加申し込みをする前に、「話し合い合宿について」の時間割を見て、朝から晩まで、ほとんど話し合いの時間だったので、間がもてるかとても心配だったし、正直いって、中学校以来もっていた相談室に対する暗いイメージから、こわさも少し感じていたと思います。ところが、想像と実際とは全然ちがっていて、みんな好きなことを言ったり、言われたし、たまには沈黙もあったし、その間がとても心静かな時間だったりして、とても有意義だったと思います。私の大好きな本の話、進学問題や、それぞれの人生観などもちょっぴりのぞいたりして、楽しかった。先生とダンスを踊ったり、夜はみんなでさわいだりもしました。

表面的なおもしろさは、グループによってまだまだあったと思いますが、私の精神的な面では、とにかくプラスになったと思っています。うまく言えないけれど、人それぞれに顔があるように、いろんな考え方があるんだと、まざまざ見せつけられた感がありました。そして、そう感じたたん、何か目の前が広がった気がしました。こう生きなきゃいけない、そういうものは何もないのです。規定がないとなれば、自由に、自分の思うまま、のびのびと生きられます。自分の道を見つけることができたと思いました。これが、私の合宿での収穫だったと思います。

最後に残念だなあと思うことは、合宿後の仲間との話し合いの機会がもう少しあったらいいのということです。でも、何十年か後に、この仲間が集まったら、楽しいだろうなあと考えています。

(1975年10月)

あれは、去年の11月の事だったと思う。私は初めてグループカウンセリングに参加した。二水に入って来た時から、グループカウンセリングのあることは知っていたが、ただ皆と話しをして、ゲームをしてなどと、カウンセリングの先生方は言っていたが、私は研修旅行のようなものと誤解をして、初年は参加しなかった。しかし、2年になって、文化祭も終り、忙しかった日々も過ぎ、気がぬけたようになって何かおもしろい事はないかと思っていたら、身近の友だちが、カウンセリングに参加するといっているので、どんなものかと、相談室へかよう日が続いた。

気はあまり進まなかったけど、先生方のすすめもあって、当日、カウンセリング旅行に参加した。合宿所につくと、3つのグループに分れた。グループごとに2・3人の先生がつき、話し合いを始めることになった。しかし、「会話を録音する」といって、テープをまわし始めたのには、いくら私でもとまどいがかくせなかった。

私のグループは、他のグループも同じだが、知らない生徒がおもだった。下級生はもちろんのこと、同級でも、「こんな生徒がいたかな」と思えるほど、知らない生徒がおもだった。

自己紹介を終えても、まだ皆は黙りこんでいた。「しかたない」と思い、その時、自分の人生に対する考え方を、一説論じたのをおぼえている。後で思えば何とばかなことをしたのだらうと、後悔している。私は人に自分自身を見せることを、特にきらうたちなので、いつものように、ふざけていればよかったと思っている。しかし、私が口をきいたということで、一人一人が、自分の事や意見を話しだしたので、しらけたムードも、何とかなったようだった。しかし、私のグループ内での会話は、人生についてとか、自分の思想についてとか、

まじめな話ばかりには、さすがの私もまいってしまった。しかし、下級生で、幼い顔をしていると思われる子から、一人前の大人みたいな考え方や意見が、出てくるのにはまいったな。私は「なるほど、なるほど」と、首をうなずかされた。でも、話しに出てくる言葉で、「やはりまだあまいな」と思われる所も多分にあった。やはり温和に育った人間から出てくるあまさというものかもしれないと思ったりした。

まったくといって知らないもの同志、下級上級にかかわらず、ある事について話し合い、そして、知り合いになり、友になる。なんと素朴で、素晴らしいことだろう。

しかし、私は、自分の考え方や思想を、親友と語り合うということはよくあるが、他の人に話しをするというのは抵抗を感じた。それで、終わった後も、しっくりこなかったが、皆は満足気な様子だった。

といっても、楽しくなかったわけではない。研修旅行では、味わえなかった楽しさがそこにあったと思う。先生とも親しくなるし、生徒とも知り合いになる。

いろんな事について話し合った人、それは自分に対してはもう友だちである。このグループカウンセリングがなかったら、知りあいになれなかったであろう人たちと、知り合いになれた、友だちになれた。これにまして、素晴らしい事があるだろうか。この人間社会において一人きりでいることは、苦痛である。友や恋人がいてこそ楽しいのだと思う。

グループカウンセリングは、先生と生徒が一体になる、とても素晴らしい場だと思う。私は、ひまを作り、最後のグループカウンセリングに参加したいと思っている。

高校3年の秋、辰口金大共同研修センターでのグループ・カウンセリングに参加してから、もう1年が経ちました。1年前をふり返り、正直なところ、話し合いの内容は細かく覚えてはいません。けれど、友人たちと恋愛論や宗教論などを語るとき、ふと、「そういえば、あのとき、誰かがこう言ってたなあ」と断片的ながら思い出すことがあります。また無意識のうちに誰かの考えが、そっくりそのまま私の考えになっていたり、多分に影響されているのです。私の場合、話し合いに参加するというよりも、みんなの討論を傍聴に行ったような形になりました。それだけみんな、いろんなことを考えているのです。3年生だからがんばらなければと意気込んでいたのに、みんなに圧倒されて、ただ聞くばかり。けれど、私はそれでも参加してよかったと思っています。いい意味でいろいろと感化され、なんとなく、暖かい気持ちで帰って来ました。

先生方が寝静まったあとで、2・3年生が1部屋に集まり、気楽にフランクにいろんなことをおしゃべりしたことも楽しい思い出です。

そんな中で、学年の壁を越えた（と思っているのは私だけかもしれないけれど）仲間的な関係を持てたことも、1つの収穫だと思います。

卒業する私たちのために追い出しコンパもしてもらいました。楽しいゲームや、みんなの心のこもったプレゼントや色紙もとても良い思い出です。けれど3年生ばかりがいい思いをしているようで悪い気もします。できれば、これからも同窓会風に会合をもてればよいのですが、無理でしょうか。

グループカウンセリングは参加することに意義があると思うのです。これからも多くの後輩達にその意義を味わってもらいたいと願っています。

序 章

グループ・カウンセリングの必要性

私たち金沢二水高校相談室のスタッフが、はじめてグループ・カウンセリングにとりくんだのは、1971年12月のことであった。当時、私たちの学校には、学校嫌悪症の生徒が何人かいて、ホーム主任（ホームルーム担任）をはじめとして、私たちはその指導に困ってきていた。特に、相談室のスタッフは、それまでおこなってきた個人面接（週に1回の面接を継続していく）の限界さえ感じ始めていた。ある特定の教師（カウンセラー）が、相談室という場で面接している時には、ある程度自由な気持で話しのできる生徒であっても、教室に戻って、50名ちかい同輩の中に入ると、依然として身動きのとれない状態になるといったような場面が、しばしば起った。

たしかに、1対1のカウンセリング関係を経験して、勇気が湧き、立ち直りをみせる生徒も沢山いる。あるいは、通院しなければならない程の神経症的生徒にとっては、1対1のカウンセリング面接を長期にわたっておこなわねばならないこともある。しかし、教室というひとつの集団の中で生ずるマイナス現象（不安、緊張、無気力など）は、1対1のカウンセリング経験によつての立ち直りを期待することもできるが、むしろ集団の中において、生徒自身が、自己受容、自己理解、自己への挑戦、そして更に、“他者に支えられながら自分は生きている”というよろこばしい体験によつて、そのマイナス現象を克服していくことの方が、より自然な姿であり、より効果的であると私たちは考えたのである。

高校生たちは、“自分を尊重してくれている”と感じる場があたえられるならば、私たちの経験によると、かならずといっていいほど、相互作用、相互援助によつて、自己理解、他者理解へと向っていくようであった。これが、グループ・カウンセリングを数回実施してみて得た私の感想であり、そのことがグループ・カウンセリングの特色であり、また利点だと考えられる。もっとも、私たち相談室の教師こそ、この“安全な場”（生徒ひとりひとりが「自分は尊重されている」と感じることでできる場）をつくる責任者であり、それは大変骨の折れる仕事であった。はじめて、グループ・カウンセリングを行なった1971年においては、私たちはグループ・カウンセリングの内容や方法についてほとんど何も知らなかったけれど、その後3年間にわたって年に1回～2回、学校行事として実施してきたことによつて、今では、グループ・カウンセリングにおける教師の役割の中で、いくつか留意すべき基本線が明確になってきたように思っている。この過去4回行なってきたグループ・カウンセリングの記録（1回毎に、部分逐語記録をとり、教師たちの反省材料とし、その反省項目をノートした）の中から、反省事項14項目をとりあげて、今回のグループ・カウンセリング参加教師9名は、“安全な場”づくりの話し合いを、何回か重ねた。（参照 第1章 準備）

今回のグループ・カウンセリングの目標

ところで、私たちが、今回のグループ・カウンセリングの目標としたのは、“グループ・メンバーの相互作用による自己理解と他者理解”であり、また、参加をよびかけたいと考えた対象の生徒は、

“仲間からとり残されている生徒、

“情緒不安定な生徒、

“勉強意欲のない生徒、

たちであった。

1971年の第1回グループ・カウンセリングの目標は、“同じ悩みをもつ者同志の相互理解”においた。というのは、当時、登校拒否の生徒が各学年に1名ないし2名はいたし、学校生活の中で一声も発しない生徒もいたし、極度にこの学校を嫌って（高校進学の際の選択問題）いた生徒もいて、とにかく“学校生活を負担に感じている”という共通の悩みをもつ生徒たちが、そういう悩みをもっているのは自分ひとりではないのだということを知る場を、まずつくりたいというのが、私たちの目標であった。

その後、年に1回～2回、学校行事としてグループ・カウンセリングを行ってきた現在、以前にくらべて、長期欠席者は減少し、今年の場合、いわゆる登校拒否の生徒は1名もいなくなった。しかし、相談室を訪ねてくる生徒は、むしろ増加の傾向を示し、その生徒たちの多くは、学校という集団の一員として十分に活動できない生徒か、不適応状態がつづいているため、周囲（教師や級友）から軽蔑されたり、嫌われている生徒か、あるいは、家庭環境が他の生徒たちに比べて、かなり不幸であるため、重い気分を毎日を過している生徒か、成績不振のため自己嫌悪におちいっている生徒であり、やはり、“ひとりで悩む姿”には変りはない。そこで、私たちは、1年生全員に学校生活についてのアンケート調査（別紙(1)、(2)参照）を2回おこない、更に、校内カウンセリング委員会や生徒指導委員会を開いて、生徒の実態をできるだけ詳しく知ること努めた。そして、今回のグループ・カウンセリングの目標を“グループ・メンバーの相互作用による自己理解と他者理解”ということに決めたのである。

なお、今回のグループ・カウンセリングの特色のひとつに、非行傾向の生徒の参加をあげることができる。それは、相談室と生徒課（生徒指導部）との話し合いの中で、「非行傾向の強い生徒はかならずといってよいほど、情緒不安定であるから、試みに、一度グループ・カウンセリングに参加させてみてはどうか」という提案があった。相談室の私たちは、そのことが、他の参加者にあたえるかもしれない悪影響を考えると、とても気持が重かった。しかし、この新しい提案をうけて、この際、こうした非行傾向をもつ生徒たちの気持に——言動ではなく——徹底して触れてみようという心構えで、ひきうけることにした。

ところが、その生徒たちは、はじめは、グループ・カウンセリングの参加をしぶり、私たちはその生徒たちと何回も話し合った結果、何とか参加させるところまでこぎつけたが、そのうちのひと

りは、2泊3日のうち1泊だけしか参加しないとはいはった。しかし、その生徒も、1泊のつもりで参加したにもかかわらず、グループが気に入ったらしく、全日程参加した。

グループ・カウンセリング実施内容

1. 日 時 1974年11月2日～4日（2泊3日）
2. 場 所 石川県辰ノ口町下徳山 金沢大学共同研修センター
3. 経 費 4,000円（宿泊費、食費、交通費、その他すべてを含む）
4. 参加者 生徒 31名、教師 7名、協力者 1名、スーパーバイザー 1名。
5. グループ・カウンセリングの実際（実施方法）
 - (1) 3つのグループに分け、それぞれのグループで、12時間（4セッション）にわたって、話し合いをつみ重ねていくことで、“自己理解”と“他者理解”という目標を達成する。
 - (2) 参加者は、それぞれ、他者の指示に従って行動するのではなく、自己の選択、判断によって自由に行動することによって、自己と他者の関係を自ら知る。そのため、教師は食事とセッションの時間と場所だけを明示し、その他一切は、参加者の提案、実行にまかせる。また、教師も参加者のひとりとして、自由に提案したり、行動したりする。
6. 参加した生徒（性格や傾向）

	1 年	2 年	3 年	計
男	10	9	0	19
女	4	5	3	12
計	14	14	3	31

(A)	(問題の種類)		1年	2年	3年	小計	計
かなり大きい問題をもつ生徒	1. 学習意欲のない生徒	男	1			3	21
		女	2				
	2. 非行傾向のある生徒	男		2		2	
		女					
	3. 孤立傾向のある生徒	男	4	3		7	
		女					
	4. 情緒不安定な生徒	男	2			7	
		女	1	1	3		
	5. 環境が不自然な生徒	男				2	
		女		2			
(B) 自向生 己実っている計	6. 昨年のグループ・カウンセリング経験生徒	男		2		4	10
		女		2			
	7. 問題はあるが学校生活が一応やれている生徒	男	3	2		6	
		女	1				
			14	14	3	31	31

※ 自己実現に向っている生徒 — 問題はかかえているけれど、とにかく喜びも哀しみも自分のものとして、うけいれようと努めている生徒という意味であって、全く自由に大らかに生きている生徒という意味ではない。

7. 参加教師

相談室のスタッフ 4名、 数学担当教師 1名、 英語担当教師 1名、 養護教諭 1名、
外部協力者 1名、 スーパーバイザー 1名、 計 9名。

グループ・カウンセリングの効果測定

今回のグループ・カウンセリングが、その目標“自己理解”と“他者理解”を達成したか否かを知るために、私たちは2種類の方法を用いた。ひとつは、グループの前後に、SD法(Semantic Differential Method)をおこない、各自の「自分」「人」「父」「母」「男性」「女性」「先生」「友人」についての概念変化を調べた。もうひとつは、グループ終了後5日目に、Questionnaireをおこない、参加者各自がグループ・カウンセリングについて評価をおこなった。これらの結果を整理検討したところ、かなりプラスの変化がみとめられた。

SD法では、「先生」をはじめとして、「人」「友人」「男性」「女性」「自分」「父」「母」の順に、すべての概念がイメージ・アップしたことが明らかになった。これは、“自己受容”、“他者受容”を示すものであり、この“受容”こそ理解の態度そのものであり、“自己理解と他者理解”という目標を、ある程度達成できたものと、私たちは考えた。

グループが終って5日後におこなったQuestionnaireでは、「合宿に参加して、大変よかった」という感想が圧倒的に多く、その良かった点について、それぞれが自分の体験を具体的に述べていた。

SD法とQuestionnaireの結果から、今回の、グループ・カウンセリングを評価するならば、一応、成功したと言える。しかし、このグループ・カウンセリングの2泊3日の間に、プラスの経験ばかりがあったわけでもないし、グループが終わった時点でも、何となくしっくりこない気持ちのままの参加者もいた筈である。今回の場合、SD法とQuestionnaireの結果から、私たち教師の方に「どうもマイナスのまま終わったようだ」と思われたのは、G子ひとりであった。このように、「必ず、だれかがおちこぼれる」ということを、教師は知る必要がある。そして、そのおちこぼれた参加者のフォロー・アップを大切にしなければならない。

フォロー・アップ(グループ後、8ヶ月まで)

参加生徒が31名であったため、そのフォロー・アップは、たいへんな仕事であった。グループ

で「素晴らしい経験をした」と思っている生徒は、クラスメートや後輩（下級生）を連れて、相談室を訪れ、話しこむ日がしばらく続いたし、G子のように、教師の方が気にかかる生徒を、よび出して話し合ってみなければならなかったし、相談室は、翌年の3月まで連日満員で、とうとう、「第2相談室」として、応接室を臨時使用することになければならなかったほどであった。

今回のグループ・カウンセリングで、その言動が著しく変化したのは、E男、F男、H男、M男、O男、Q男、S男、A子、E子、L子の10名であった。M男は数学担当のY先生と同じグループであったため、それまで勉強しなかった数学に興味を示し、授業中積極的になった。A子は英語担当のS先生と仲良くなり、もっとも苦手の英語恐怖から救われた。L子は3年生の模擬試験で、トップ・クラスの成績をおさめた。F男、H男、O男、Q男、S男、E子は、ホーム主任や学科担任から、「おだやかな表情になった」とか「明るくなった」と評価された。またE男は、自分自身でも「なんだかおかしい。気がついてみたら机に向って、勉強なんかしている！」と言うくらいの変容ぶり、生徒課の先生もホーム主任の先生も、よろこんでくださった。

前述したように、今回のグループ・カウンセリングの特色のひとつとして、非行傾向のある生徒の参加があげられるが、これは、まず成功だったと思われる。しかし、その生徒の立ち直りの原因は、グループ・カウンセリングの効果だけではないと私たちは思っている。グループ・カウンセリングに参加させるまでの、ホーム主任や生徒課の先生方の暖かい指導があったことが、むしろ、大切なのではないかと思っている。10月に、相談室は生徒課によびかけて、「生徒指導のケース・スタディ」をおこなった。出席者は、相談室と生徒課の他にホーム主任と養護教諭、それに助言者として、金沢大学から多田治夫教授に来ていただいた。そこでは、「生徒の取り扱い方」についての討議よりも、むしろ「その生徒に対する自分の気持」を話し合った。そのため、「生徒の上手な取り扱い方法」を研究する場というよりも、教師同志の相互理解の場となり、相談室と生徒課とホーム主任の連けいプレイが容易になる基礎づくりをしたことになったのである。

グループ・カウンセリング終了後、6ヶ月くらいで、もう一度、SD法をおこなって、グループの評価をおこないたいと考えていたけれど、グループ後も、ほとんど参加者全員と顔を合せ、話し合っている関係の中で、いわゆるテストをおこなう気持には私たち教師の方がなれなくて、止めてしまった。全く、グループ・カウンセリングの終了は、人間関係の始まりである。4月をむかえて、それぞれ学年があがり、クラス編成もあらたになった時、ある生徒は再び、環境（新しいホーム主任、新しいクラスメート）に適応できず、1ヶ月近く欠席をつづけた。もちろん、相談室の私たちは、ホーム主任や養護教諭と連けいで、動き始めたが、グループ・カウンセリングに参加した生徒12名が、その生徒に電話をかけたり、手紙をかいったり、家まで訪ねたり、また、欠席中のノートを、全科目、手分けをして書きとったり、その生徒が学校へ出てくるまで、ねばり強く、みんなで励ましつづけた。また、父親が重病になった生徒に対しても、みんなやさしく慰め、励まして、私たち教師以上のことをやってくれた。

とにかく、グループ・カウンセリング8ヶ月後（第1学期終了時点）、参加者全員（卒業生も）は、金沢二水高校を、「私の学校」だと、胸をはって言えるのではないかと、私たちは思っている。

1年前、つまり、グループ・カウンセリングに参加しない前の、「群からはなれて、ボツンとしていた様子は消え失せてしまった感じがする。

ファシリテーター（グループ促進者）

参加した生徒が31名であったので、3つのグループに分け、— ひとつのグループに2人のファシリテーターを配置するのが普通であるが— 今回は、ひとつのグループに、3人の教師がはいった。それは、今回のグループを促進するということは、それほど簡単なことではないと思われるからである。参加者にとっての「安全な場」づくりは、なかなかむずかしい仕事である。「落ちこぼれ参加者」があっても大変である。最も敏感な、傷つきやすい性格や傾向をもつ参加者たちである。私たち相談室のスタッフは、多田治夫教授の御助言に従って、海野保男氏（児童相談所で長期間、ケースをもっておられた）の御協力もお願いすることにした。

学校の中で一番年令の若い村田先生、数学担当の西谷先生、養護教諭の中谷先生、それに、浦田、山口、横川、北島という相談室のスタッフと、海野氏と多田治夫教授、計9名というこれまでにない陣容であった。そして、今回のこの試み（ひとつのグループにファシリテーター3名）は、次の5つの点で、かなりの成果があったように思われる。

- (1) 生徒は、もっとも苦手とする教科（数学と英語）の西谷、村田両先生と成績ぬきで話し合えた。そのため、学校に戻ってからも、質問したり、相談したりできる関係がもてるようになった。
- (2) 参加した教師同志の相互理解が深まり、その後の生徒指導において、連けいプレイがしやすくなった。
- (3) はじめて、グループ・カウンセリングに参加された先生方が、カウンセリングの実際を体験され、その効果を認めてくださることになった。そして、他の先生方に、カウンセリングの重要性をPRしてくださった。
- (4) 教師間で、カウンセリングに関する文献などをよんでみたいとか、個人面接について知りたいという研究熱が出てきた。
- (5) 相談室のスタッフ、協力教師、外部者（心理学者）という立場の異った3者のファシリテーター・チームは、グループを、ダイナミックな動きにした。

参加者の感想（グループ・カウンセリングから1年たって……）

グループ経験直後は、「素晴らしかった」と思っていたのに、1年たったら「あれ？ 何だった？」という、いわゆるパイパイ・エフェクト（一時的効果）ということもあるだろうと考え、感想文を書いてもらったのが、この小冊子の巻頭に載せた文である。各グループ、ひとりずつに依頼して書いてもらったが、ひとり卒業生、ひとは3年生の男子、ひとは3年生の女子のものである。これらの文によれば、この3人の気持の中には、未だに1年前のグループ経験の余韻が残っているように思われる。

目 次

	ページ
第1部 グループ・カウンセリングの実際	12
第1章 計画・準備	12
第2章 実 施	19
第3章 結果（効果測定）	32
第4章 フォロウ・アップ	43
第5章 スーパーバイザーによる考察	47
第2部 グループ・プロセス（部分逐語記録）	52
グループ A	52
グループ B	57
グループ C	78
付 録	98

第 1 部

グループ・カウンセリングの実際

第 1 章 計 画 ・ 準 備

グループ・カウンセリングの準備

計 画	4 月	○校内課長会議。 学校行事として、グループ・カウンセリングを11月 2 日～4 日（2泊3日）承認。
	5 月	○校内カウンセリング委員会。1学期の間に、“群からはなれている生徒”と接近しておくことを、お互い努力目標とする。
準 備	10月 1 日	○1年生を対象にアンケート実施。1年生が最近思うこと、考えること、悩むことを知る。参照 別紙(1)
	10月 8 日	○多田治夫教授を通して、会場使用願い提出。
	10月11日	○1年生を対象にアンケート実施。（アンケート(1)を基盤に作成） 参照 別紙(2)
	10月14日	○アンケート(2)の中で「話し合い合宿に参加してみたい」と書いた生徒に参加よびかけのプリント配布。参照 別紙(3)
	10月17日	○参加希望者に申込用紙配布。参照 別紙(4)
	10月18日	○参加希望者にアンケート実施。参照 別紙(5)
	10月中旬	○相談室係以外の教師参加依頼。 ○マイクロバス交渉。 ○参加希望生徒の個人面接。 ○参加依頼生徒（教師の方から参加をすすめる生徒）の個人面接。
	10月25日	○第1回ファシリテーター・カンファランス（役割分担）。
	10月28日	○会場下見。
	10月29日	○第2回ファシリテーター・カンファランス（教師の条件について）。
	10月31日	○第3回ファシリテーター・カンファランス（グループ分け）。 ○参加決定者へ、アンケート結果報告。参照 別紙(6)
実 施	11月 2 日	○参加生徒 31名。 参加教師 7名。 参加協力者 2名。
	11月 4 日	○石川県辰ノ口町下徳山 金沢大学共同研修センター。

グループ の後	11月8日	○参加者全員に Questionnaire 実施。参照 別紙(7)
	12月9日	○第4回ファシリテーター・カンファランス (SD資料と Questionnaire を中心に)。
	12月21日	○グループCを中心に reunion (再会合)
	1月2日	○参加生徒全員による新年会。
	2月9日	○3年生の送別会。
	3月中	○フォロー・アップ面接。

グループ・カウンセリング実施プログラム

- 目的 相互作用による自己理解と他者理解。
- 日時 1974年11月2日～4日(2泊3日)
- 場所 石川県辰ノ口町下徳山 金沢大学共同研修センター
- 参加者 生徒 31名。教師 7名。協力者 1名。スーパーバイザー 1名。

時 日	11月2日(土)	11月3日(日)	11月4日(月)
7:00		起床	起床
8:00		朝食	朝食
9:00		第2セッション(3時間)	第4セッション(3時間)
↓		(グループ別話し合い)	(グループ別話し合い)
12:00		昼食	昼食
13:00	金沢二水高校出発	*全体集会(2)	*全体集会(3)
14:00	会場到着		
↓	*全体集会(1)		会場出発(14:30)
17:00			金沢二水高校到着
18:00	夕食	夕食	(15:30)
19:00	第1セッション(3時間)	第3セッション(3時間)	
↓	(グループ別話し合い)	(グループ別話し合い)	
22:00			
23:00	就寝	就寝	

- * 全体集会(1) ○オリエンテーション(金沢大学共同研修センター事務長より)
- グループ・カウンセリングの目標について説明および確認。
- SD法実施(グループ前の概念調査)
- 全体交流(リーダーレス・グループ、教師は参加しない)の時間。

- * 全体集会(2) ○食堂に集合して、歌、ゲーム、ダンス。
- * 全体集会(3) ○講義室に集合して、SD法実施(グループ後の概念変化調査)
 - 合 唱
 - 写真撮影

＜計 画＞

1 グループ・カウンセリングを学校行事としておこなうための手続き

- (1) 校内課長会議(学校長、教頭、事務長、各課長)にはかり、賛同を得る(4月中旬)
- (2) 職員会議にはかり、全職員の賛同を得る(4月下旬)
- (3) 会議にはかった内容は
 - グループ・カウンセリングを学校行事として、11月2日～4日(2泊3日)でおこなう。
 - 生徒募集人員は、約20名とする。
 - 金沢大学多田治夫教授に、スーパーバイザーとして参加を依頼する。
 - グループ・カウンセリングの計画、実施の責任者は、相談室の浦田、山口、北島、横川の4名である。

2 校内カウンセリング委員会(5日例会)で話し合った内容

- (1) グループ・カウンセリングへの参加をよびかけたい生徒は
 - 仲間からとり残されているようにみえる生徒
 - 無気力で学習意欲がないようにみえる生徒
 - 情緒不安定な生徒など
 特に、1年生に参加してもらいたい。
- (2) 今回のグループ・カウンセリングの目標設定は
 - 1年生全体の傾向を知るためのアンケート調査と、1年生各個人の具体的な問題を知るためのアンケート調査をした上で、決めたいが、
 - 現時点では、登校拒否の生徒もノイローゼ傾向の生徒も減少してきているので、特定の目標は、不要ではないだろうか。
 - 今回の場合、“深い落ちこみ”をしないためのグループ・カウンセリングということで、“グループ・メンバーの相互作用による自己理解と他者理解”という目標ではどうだろうか。
- (3) 1学期中、相談室係およびカウンセリング委員は、ペランダを歩いて、“群からはなれている生徒”と接触するように努力しよう。

校内カウンセリング委員会 とは、相談室係4名、各学年から1名ずつ、養護教諭1名、計8名の教師で構成している委員会、毎月1回、集まって、気になっている生徒について話し合ったり、ケース・スタディをおこなったりする。

＜準備＞

1 生徒の need（必要と感じているもの）を知るために

- (1) 校内カウンセリング委員会（9月例会）における情報利用
- (2) 相談室・生徒課有志共同研究会（10月例会）における情報利用
- (3) 1年生を対象にしたアンケート調査からのデーター

第1回 10月1日 実施（生徒全体の問題傾向を知るためのアンケート）参照 別紙(1)

第2回 10月11日 実施（生徒個人の問題を知るためと、グループ・カウンセリングに参加する気持の有無をたずねるアンケート）参照 別紙(2)

相談室・生徒課有志共同研究会とは、公的な研究会ではなく、全く私的なもので、“生徒指導で悩む教師の研究会”であり、1年に4回集まって、自分の生徒指導の限界を話し、お互い援助し合う。

2 グループ・カウンセリング参加生徒募集

- (1) 上述の情報を資料にして、“参加のよびかけ”と“参加の意味”を書いたプリントをつくり、1年生に配布。参照 別紙(3)
- (2) プリント配布の際、グループ・カウンセリング参加経験者（上級生）に協力を頼み、1年生の教室で、グループ参加の感想を話してもらう。
- (3) 教師側（校内カウンセリング委員会や共同研究会、あるいはホーム主任、相談室係など）が、特に参加をよびかけたい生徒には、個別カウンセリングを経た後に、グループ参加にさそう。その際、その生徒が「先生からマークされた」というふうに、うけとらないように配慮する。

3 協力ファシリテーター（グループを促進する教師）依頼

10月中旬の段階で、生徒の参加希望数が36になったので、ファシリテーターを増やさねばならなかった。グループは、ファシリテーターをふくめて12名以下でなければ、相互作用が不十分で、自己理解と他者理解という目標を達成することが、かなりむずかしくなる。しかも、2泊3日という短い期間でもあり、また、教室の中でほとんど発言しない生徒たちであるから、ひとつのグループに生徒が10名以上いたのでは、人のかげにかくれて自己を語る機会が極端に少なくなる。そこで、36人を4つのグループに分けて、9名ずつにし、それぞれのグループに、2名ずつの教師（グループ促進者）がはいることを考えた。しかし、4月当初の計画では、相談室係4名と多田治夫教授の5名しか、学校当局の承認を得ていないので、急拠、ファシリテーター増員を校長に申し出て、3名の教師を承認してもらった。校内カウンセリング委員である養護教諭、生徒がもっとも苦手とする教科である数学担当教師、全職員の中で最も若い英語担当教師の3名である。

4 ファシリテーター・カンファランス（参加教師の打ち合せ会）

(1) 第1回（10月25日）

○ 参加予定生徒について

特に、教師側が参加してもらいたいと考えている生徒のなかに、参加をしる生徒がいるので、その生徒へのアプローチについて話し合う。また、生徒課の先生方が指導にあたっておられる非行傾向のある生徒に、参加の誘いをするか否かについて話し合う。結論として、参加をしる生徒に対しては、参加を希望する教師が、自分の気持「なぜ、君に参加してもらいたいのか」をよく話すことと、その生徒のグループ参加への不安を、よく理解するように努めること。グループ・カウンセリング実施の当日まで、その生徒との接触をつづけること。生徒課から依頼された生徒に対しては、参加教師が協力して、その生徒がプラスの経験をするように、またグループ・カウンセリング後のフォロー・アップを十分にやることを確認し合った後、参加をすすめることに決定した。

○ 役割分担について

- | | |
|--------------------------|-------|
| (ア) 精神科医に協力依頼 | 多田 |
| (イ) グループ・カウンセリング・プログラム作成 | 浦田 |
| (ウ) 参加者の健康管理 | 中谷 |
| (エ) 全体集会で歌うための歌集作成 | 村田、横川 |
| (オ) 会計 | 山口 |
| (カ) グループの前後に使用するテストの準備 | 多田、北島 |

○ 1年生に対しておこなったアンケート調査報告

○ 参加希望者に対しておこなった「希望調査」報告 参照 別紙(5)

- (ア) グループは1年、2年、3年の男女混合がよい。
- (イ) 自由時間を十分に。
- (ウ) 全体集会をもちたい。
- (エ) 歌をうたったり、ゲームをしてあそびたい。
- (オ) グループでは、恋愛について話したい。
- (カ) グループでは、テーマを決めないで、その時思うことを自由に話したい。

(2) 第2回（10月29日）

○ “教師が心すること”について

ファシリテーター（グループ促進者）として、グループを前にして、心準備することは何かについて話し合う。主として、金沢二水高校で過去4回グループ・カウンセリングをおこなってきたが、その検討および反省の中から、次の14項目を“教師が心すること”としてとりあげて話し合う。

- (ア) 教師は、参加者ひとりひとりに積極的関心をもち、肯定的感情で発言できるように努める。

(例)もし、自分の内側で何の感情も湧いてこない場合は、そのような自分を、その場でなんとかする必要がある。何の感情も湧いてこない自分自身の状態に気づくと、次の瞬間には、自然に

参加者への関心をもち始めることが多いが、自分自身の内側ばかりをのぞこうとすると、益々、参加者との距離がひらき、関心がもてなくなる。

- (イ) 教師は、自己一致の状態（自由で自然な状態）で、グループにのぞみ、自分らしく言動する。
また、参加者ひとりひとりに自然に湧きおこってくる感情に対してできるかぎり反応できるように、自分自身を自由にやわらかくする必要がある。参加者の感情に対する自分の反応を、卒直に表現するとともに、参加者が言葉で表現しきれない感情を、教師は明確な言葉でかえすことも必要である。
- (ウ) 教師は、生徒が否定的自己（例：嫌な自分）を受容し、それと立ち向うことができるように、援助する。
- (エ) 教師は、自分を感じながら発言するように努める。（例）いわゆるお説教がしたくて話しつつけているのかどうか。（例）どの生徒に何が伝えたくて話しているのか。
- (オ) 教師は、“教師側の目標”を設定し、それを生徒におしつけなくて、生徒が自ら表明した問題を一緒に考えてみる。（例）“教師側の目標”とは“生徒に学習意欲をもたす”とか“生徒に基本的生活習慣を身につけさせる”というようなもの。
- (カ) 教師は、グループの中で、教師同志の相互理解もおこなうように努力する。
- (キ) 教師は、教師同志、共通の目標（参加者への援助）を確かめながら、それぞれユニークな動きをする。
- (ク) 教師は、参加者がいわゆる秘密（例：家庭内の不和）を語り出しそうになった場合、そのグループが十分にそれをうけとめられる状態にあるかどうかを、判断し、その発言者に対して、「どうしても、今、この場で、そのことが話したいか」をたずねる程の配慮をする。
- (ケ) 参加者のなかでグループからとび出す者（例：黙って室から出ていく）が出た場合、必ずひとりの教師がその参加者をフォローし、個別カウンセリング関係をもつ。
- (コ) グループが硬直状態もしくは、あまりにも感情的になった場合は、教師の方から、適当に休憩の提案などをする。
- (サ) 参加者全員、ひとりも落ちこぼれ（教師から無視あるいは理解されない）のないように、教師同志は、“複数性”（ファシリテーターが、ひとつのグループに2名以上いるということは、いろいろな角度から参加者を理解できるという利点がある）を、十分にいかすように努める。
- (シ) 休憩時間に、教師は全員集まって、そのセッションを検討したり、教師同志の相互援助をおこなう。（例「あの生徒の気持がわからない」とか「私は自分の思うことが言えない」とか、教師同志で話し合う）
- (ス) 教師は、グループ・カウンセリングの中で話された内容を、グループ解散後、決して他言しない。
- (セ) 教師は、グループ・カウンセリング後、参加者のフォロー・アップを大切にする。

以上の項目をひとつずつとりあげ、話し合った。また参考文献としては、次の2冊をあげ、各自が必要に応じて読むことにした。

カール・ロジャーズ著(皇瀬 稔・直子訳) 「エンカウンター・グループ」

(ダイヤモンド社 昭和48年)

M・オールセン著(伊東 博、中野良願訳) 「グループ・カウンセリング」

(誠信書房 昭和47年)

(3) 第3回(10月31日)

○ 生徒のグループ分けについて

参加予定の生徒は、36名であったが、家族に不幸があったり、課外活動(部活動)のため、不参加を申し出た者が5名あり、最終的には、参加者は31名になったので、最初の計画(4つのグループに分ける)を変更して、3つのグループに分けることにした。

グループの分け方は、10月18日におこなった参加希望者に対するアンケート調査(参照別紙(5)、(6))の結果を参考にして、男女混合、学年も1年、2年、3年とまじったグループにすることにした。

グ ル ー プ A	性別 学年	男	女	計	グ ル ー プ B	性別 学年	男	女	計	グ ル ー プ C	性別 学年	男	女	計
	1 年	3人	2人	5人		1 年	3人	1人	4人		1 年	4人	1人	5人
	2 年	3人	1人	4人		2 年	3人	2人	5人		2 年	3人	2人	5人
	3 年		1人	1人		3 年		1人	1人		3 年		1人	1人
	計	6人	4人	10人		計	6人	4人	10人		計	7人	4人	11人

○ 教師のグループ分けについて

参加予定教師9名は、全員参加することにしたので、ひとつのグループに3人ずつはいることになった。3人の組み合わせは、これまでグループ・カウンセリングに参加したことのある教師、あるいは、エンカウンター・グループやカウンセリング・ワークショップに参加したことのある教師と、一度もこのようなグループに参加したことのない教師とが、どのグループにも均等になるように考えた。また、教師の年齢、性別、担当教科などのバランスも考慮にいった。

第2章 実 施

- 1 目 的 相互作用による自己理解と他者理解
2 日 時 1974年11月2日～4日(2泊3日)
3 場 所 石川県辰ノ口町下徳山 金沢大学共同研修センター
4 参 加 者 石川県立金沢二水高校生徒 31名。 同校教諭 7名。 協力者 1名。
スーパーバイザー 1名。

5 実施内容

(1) 全体集会

- 全体集会(1) (11/2(土) 14:00—18:00)

(ア) オリエンテーション

金沢大学共同研修センター事務長から、本センターの使用上の注意、設備の利用方法などの説明。

(イ) グループ・カウンセリングの目標について

R先生から、この話し合い合宿の目標の説明、特にクラブや部の合宿との相異についての説明。また、"各自がこの合宿において達成したいと思う目標に向って、動いてほしい"という、相談室教師の願いを説明。

(ウ) SD法実施(Semantic Differential Method)

Z先生から、SD法というテストを用いる目的(合宿のあたえる影響を知る。合宿の意味をとらえる)の説明。特に、このテストは、"良い" "悪い"をみるためのものではなく、合宿参加による変化の有無をみるためのものであることを強調。Z先生から、SD法記入方法の説明。

参加者全員(生徒、教師)がSD法記入。

(エ) ファッションリテーター自己紹介

ファッションリテーターは、ひとりひとり自己紹介。

(オ) 全体交流の時間(Non-Directed Group)

夕食までの時間、約2時間は、リーダーレス・グループ(教師は参加しない)。生徒31名は、ほとんど、お互い初対面なので、胸につけている名札によって、名前だけはわかるが、その他は知らない状態で、だれからも指示をうけないセッション。

教師は、この2時間を利用して、食物の配分(果物、菓子、コーヒーなど持ちこみ)をすませた後、グループ分けを再検討。

- 全体集会(2) (11/3(日) 14:00—17:00)

天気が良かったので、外に散歩に出かけようという提案もあったが、あまり賛成者がなく、結局、食堂をかりて室内ゲームをやることになった。食堂のテーブルをかたづけて、椅子を円形にならべた。

(ケ) S先生は、V先生と共同で作成した歌集を配った後、参加者のリクエストに応じる方法で、次々と合唱をみちびき、参加者全員が、元氣よく、大きい声で歌った。

(イ) V先生は、「何かゲームをやりませんか」とみんなによびかけた。数名の生徒が「スキヤキ!!」と叫んだので、X先生が「スキヤキ? それなに?」とたずねた。そこで、数名の生徒は、かわるがわる「スキヤキ・ゲーム」の説明をした。このゲームは一種の「椅子とりゲーム」で、参加者はそれぞれ「スキヤキ」の材料である 肉、ねぎ、こんにゃく、豆腐になり、鬼が、「ねぎ!」と叫ぶと、「ねぎ」の人は自分の席から立ち上って、他の席をみつめて坐らねばならないが、椅子は必ずひとつ足りないようにしてあるから、席をみつめることのできない人が出てくる。そして席をみつめることのできない人は、鬼になるのである。「スキヤキ」がいろいろ変形して、「ズボンをはいている人!」とか「今朝、顔を洗わなかった人!」とか「自分を美人だと思っている人!」とか、なにがとび出すかわからないので、たのしい緊張感があつたし、身体を敏捷に動かさねばならないし、身体をぶつけ合うので、思わず我を忘れ、こだわりがとれ、お互い顔を見合せて、よく笑った。この「スキヤキ・ゲーム」を40分程つづけた。

(ウ) 「発電所・ゲーム」というのが、次に提案された。このゲームは、鬼を除く全参加者が腕をうしろにまわし、隣りの人と手をつなぎ、7人にひとりの割合で、「発電所」をおく。「発電所」になった人は、「電流」の方向を変えることができるが、その際「ビー」という信号を出す。

「電流」は、隣りの人の手を握って送る。左手を握られた人は右手で、隣りの人の手を握り、左から右へと「電流」を送るのである。しかし「発電所」の人だけは、その「電流」を逆方向に送ることができる。鬼は「発電所」の「ビー」という合図を手がかりに、だれのところに電流がいつているかをあてなければならない。このゲームは、手と手の接触があり、体温のある電流が、お互いを暖かく流れ動くので、親密感を増したようであった。

(エ) W先生が、ダンス曲のテープをかけ、クリエイティブ・ダンス(自由に身体を動かす)を始めた。しかし、男子生徒は次々と脱落し、最後には、1年生の男子数名と女子ばかりになった。しかし、K子などは、「生れてはじめて、はずかしさをのりこえて踊れて、とてもうれしかった」と話した程、このダンスを楽しんだ参加者もいた。教師側は、このダンスに関しては、自分たちの創造力の乏しさと準備不足を痛感し、次回のグループ・カウンセリングの反省材料にしようと思った。

○ 全体集会 (3) ($\frac{11}{4}$ (月) 13:00 — 14:00)

(ケ) 参加者全員は、グループの前におこなったのと全く同一のSD法(同じ項目、同じ段階)を記入。つまり、グループ前とグループ後に、同一のSD法を記入。

(イ) R先生から、次のことについて注意

- * この2泊3日の「話し合い合宿」で話し合われた内容や出来事を、いわゆるゴシップとして話題にしないように。みんな、それぞれのグループの人々と信頼関係をもったからこそ、なにか自分の内面を語ったのだらうと思う。それが、この合宿に参加しなかった人々の間に、語り

伝えられることは、不愉快なことであるから、お互い、気をつけるように。

* ベッド・ルームや廊下など、整理整頓するように。

- (ウ) 歌集の中から、いくつかの歌を、S先生がえらび、静かに合唱。みんなの声が、美しいハーモニーを創り出し、グループのフィナーレにふさわしかった。
- (エ) 最後に、みんな立ち上り、肩を組み、身体を左右に動かしながら、「若者たちの歌」をうたった。
- (オ) 参加者全員の写真と各グループの写真をうつした。

(2) グループ別話し合い

3つのグループに分かれ、3時間(1セッション)の話し合いを4回重ねた。つまり、グループ別の話し合いは、計12時間おこなった。

グループA、グループB、グループCの各グループの話し合いのプロセスの概要を、第1セッションから第4セッションまで、記述してみたのが次のものである。

グループ A

参加者	A男	B男	C男	D男	E男	F男
	A子	B子	C子	D子		
	R先生	S先生	T先生			

計 13名

第1セッション (11/2 (土) 19:00-22:00)

数分間雑談があったあと、R先生がセッションの時間を皆に確認したところから始まる。A男の議題を求める声に応じて、D男が「自己紹介をしては」と提案し、E男より座席の順に自己紹介をする。その中で、F男は、C男と同じ中学出身で、二水高校には合わせて数名しか来ていないし、2年では自分一人だけであることを語り、D男は「昨年もグループに参加したが、今回も何かやりたいと思って……」D子は、「何か充実した日が送れたら……」A男は、「なんとなく過ごしている高校生活……」などを話し、名前だけのB子、A子もいた。自己紹介の最後にE男は、「引っぱり来られて来た自分であるが、何かいい思い出ができれば……」と、つけ加えた。皆が、一言ずつでも言葉を出したことで少し安心できた様子が見られた。

A男、D男、E男、C子、D子らから、「何かテーマがあったら話しやすいのでは」と出たが、それらしいテーマを見つけるでもなく、しばらくの間、それぞれが何か手さぐりしている様であった。E男は、「S先生を試験の時にはじめて知った」と、S先生に語りかけ、試験問題が、自分にとってむづかしかったことについて話す。これを機に、S先生の英語のテストをしてみてもの感想や、

T先生の英語コンプレックス、C子は化学がよくわからないなど、学習についての話がなされ、その中でE男は、何んでもよくできる母親だが、英語だけはできない。そんな母に接し、何か今までと違って親が感じられると語り、「皆はどうか」と声をかけるが、応じる人がいなかった。A男からE男へ、2年での文科、理科系の違いについて質問があったり、男性対女性の話や、E男の浪人経験など、多くの話題が語られる。E男は、最近の自分のまわりでの多くの死についてふれ、自分は死ぬまでに何かやってみたい、自分の夢を達成してこそ安心して死ねる、そんな考えを述べた。このような話がなされている間、C男だけは、あまり聞いておらず、そのことを何人かが気にして、セッションなかばで、C男に「こんな話はおもしろい？」と尋ねたところ、「ばからしい。中学ですんでしまった……まじめな話はやらない、したくない、ふざけるのは好きなのだが……」としらけた表情で語る。D子、D男、E男は、C男に、それだけでなくもっと話して欲しいと声をかけるが、C男の気持には入ってゆかなかったようで、それっきりになってしまう。

E男は、さらに話題を提供し、二水での浪人生の心情や、大人と高校生の立場の違い、教師の生徒理解、親友論など、話題が転換とする。その後半に、A子がE男に、「親友が本当にいるのか…自分は一生、親友ができそうになく、うらやましい」と言う。この中で、話は一般論になりがちであったが、E男は、A子自身の悩みを聞いて、「自分には親友に近いものがある……」と、ぼつりと話す。E男は、なんとか楽しい雰囲気を作りたいと思って話題提供をし、そのことで皆が少しずつ打ちとけるようになってきた。一般論が多い中で、それぞれの発言の中に、自分が少しずつ顔を出してきた。

第2セッション (11/3 (日) 9:00-12:00)

昨日とは異なる場所に、それぞれ席を占め、昨夜のセッション後のことを中心に、あちこちで雑談が続く。そのうち部屋が寒いというので、毛布を持ちこみ、数人ずつがいっしょになって、ひざにかける。約20分程たち、「何について話そうか……」という声が数人から出る。R先生は「皆の気持が聞きたい……本当に話したいことを話す。そんなふうでいいのでは……」S先生は「1年生を中心に、話を聞きたい」と語る。E男は、1年生に、「昨夜どんな話をしていたのか」と尋ね、A男、B男がそれに答えるが、何か話がとぎれがちであり、E男は自分の友人の話を始めたり、話題がいくつか出るが、皆の関心が何かない。「今日、先生、話すことないね……」と言い、それでも沈黙を嫌ってか、無理をして語る。その後、D男は、文化祭で自分が中心になって企画したある計画が、結果的に実施できなかった過程を語り、先生の生徒に対する理解的姿勢の不足と、生徒同志も困難に直面するともろくもくずれさっていった、その孤独感を語る。しばらくは文化祭の話になり、「二水高校の男性」「二水高校の女性」の話題には1年生も参加してゆけたが、一般論に流れがちであり、R先生は、「この中で、実際に何かわからない人について聞いてみたら……たとえばF男君は、どんなふうに皆に感じられるか……」と問いかけ、R先生の感じるF男を語り、A子、E男などからも、F男イメージが語られる。F男自身も、「誰ともあまり話さない。自分から

何か働きかけないみたい……」自分を語った。そんなF男の話を聞いて、D子、E男、C子は、一人でおれない自分、しかし皆といて本当に自由に皆といる感じも持てない自分を話した。R先生はF男に話を戻し、F男は「入学してからずっと一人だけで……」と静かに話し、わずかな時間ではあるが、皆がすうっとF男に吸いこまれたような沈黙があった。D男も自分の孤独について語り、E男は人と接する仕事をしたいと話す。E男のアルバイト経験に重ねて、B男が、土方をして働らき、つらかったこと、初めてお金の価値を知り、それにもまして人間を知り大人を知ったこと、見かけと違う人間のよさに触れたことを語る。D子も、自分の進路の迷いの中で、働らいてみたい気もしていることを話し、D男は働らいている人に接して自分の浮わついた考えに気付く、親に対する気持ちが変わってきたようだ話す。親のことに話が移ったとき、C子がぽつりと「母親はおろかな方がいい……」ともらし、B男、A男、C男、B子も、自分と親との結びつきについて話す。

何か沈黙をきらって話していたE男も含めて、皆が、静かに、自分やまわりの人をみつめ、触れあっているような感じが、少し芽ばえてきたようなセッションであった。

第3セッション (11/3 (日) 19:00-22:00)

畳の部屋に変わって、皆ゆっくりくつろいだ姿でセッションが始まる。入浴していた数人が、D男を最後に、少しおくれて入ってくる。ここでR先生が、セッション終了時刻を確認する。D男は、風呂の中でのおんびりするのが好きだと話し、静かな沈黙が、時々おとずれる。E男は、このセッションを“恥の上塗りコーナー”にしようとか皆に提案する。それに応えてT先生が、自分の高校時代をふり返り、部活動や学習を通じての親や教師の自分とのつながりや、生きがいについて触れ、皆に、「生きたい道があるのなら、屈曲しないでまっすぐに行ってほしいと願っている」と語る。その言葉は皆の中に、静かに、T先生の姿として入ってゆく。しばらくの沈黙の後、R先生は「ある時期で自分の抜けたと思うことは、一生ついてまわるものなのだろうか……」とT先生に話しかけ、しばらくT先生とR先生のやりとりがある。この話にのせて、E男は、失敗したくない自分だが、失敗してでもやってみることがあると語り、1年生に、「二水高校に入学した当時どんなことを考えたのか」と尋ねる。B子、A男、D男が、それぞれ応えるが、R先生はE男に「1年生に何か言ってあげたい事があるのでは……」と返す。E男は、「1年生を見ていて、何かボケーっと3年間を過ごしてしまいそうに思える」と話す。B男は、「何か高校で有意義なことをしたい」と話す。E男は、「自分が学校で打ち込めるものが文化祭以外に何もない」ことを話して、A子、B男に声をかける。応えたB男の話から、授業の事が話題となり、これまでほとんど話さなかったF男が、楽しげに語る。また、A子は、「中学のはじめに、英語ですごくいやな経験をもってからずっと英語が嫌いになり、今は何とかしたいと思っているが……」と悩みを話す。そんなA子を、E男、C子、B子、A男、D男、S先生、R先生など多くの人が、はげます。

セッション終了25分前、R先生は、「言えないで残っていること、言いたい事があったら……」と皆に呼びかけ、C男に声をかける。C男は「むなしい、自分が不まじめで、皆がしっかりしてい

て、自分だけぐらぐらしている。皆が大人っぽく見え、自分がこわい」など話し、そんなC男に、E男、D男が、「もっとよく話してほしい」と声をかける。A子は「C男のむなしさをほりさげたら、ますますC男はむなしくなってしまう」とC男をかばう。C男は、中学の先生から言われた事で、相手の出方、言う事を計算してからものを言うということを守ってきた自分を話す。E男は、「この場ではそれが必要でないのでは」とC男に話すが、C男は皆から注目された感じを持ったようで、ひっこみがちになり、何かくい違いが残されたままに終わってしまった。

このセッションを通じて、グループの中にいる人に、直接つながってゆく動き、援助的な動きが少しずつみえてきた。あまり動きのなかったB子に対しては、S先生がよく後押しをして、話の中に入っていることを皆に知らせていた。

第4セッション (11/4 (月) 9:00-12:00)

D子が、どんぐりを拾いに行っていて少し遅れて入ってくる。沈黙がちで、雑談もとぎれがちである。R先生は、「これまでのセッションを振り返って、E男がよく自分の事を話してくれて、とてもうれしく、以前よりE男のことがよりよくわかってきたように思う」と語り、S先生もE男イメージの変化を語る。R先生は、「今までのセッションを通じて、よくわからない人、不鮮明な人に語りかけてみてほしい」と皆に促す。E男は、「C男とB子が自分にとってよくわからないが、A子は裏表のない人に感じられそんな人の方がいい」と、A子に語る。A子は、学校では逆のことを言われた経験があると話す。S先生、R先生も、A子に、A子について自分の感じているところを話す。また、A子はE男へ、「学校での姿とずいぶんちがってすごく考え深い人に感じる」と語る。B子はR先生に話しかけられ、質問されたら話せるような感じであると答える。B子より受ける印象をR先生、T先生、E男が話す。C男は、女性に振り回されて混乱している自分を語り、C子は、そんなC男に、「知りたいと思う気持ちがそうさせているのでは……」と暖かく話しかける。E男は、R先生に、「もっと生々しい人間を感じたい」と言い、R先生は、自分の問題として受け取る。T先生は、埋れがちなB子にかかわり、B子は、日々の自分の生き方を皆に話す。E男は、そんなB子にからめて、人間関係の中での自分をみつめてゆくことが大事なのでは……と思いつめて話す。D子は、誤解されがちな自分を、悩みとして語る。D男、E男、A子、C子が自分達にも同じ悩みがあることなど、D子に話しかけ、この中で、A子はE男に、「今までどおりの生活を学校でしつづけたら損をする」と、心配する。E男は、「今のままの自分のイメージで卒業したくない」と話す。F男のことも話題となるが、静かな沈黙がたびたびおとずれる。T先生は、「A子やD子の話を聞いて、何かホカホカとした気持ちになった」と、また、D子は、「最初皆の顔を見たときと今と違って見える」と語った。

残り時間が約30分ほどになって、R先生は、「グループをやってきて今のところどんな感じか、言い残した事や、皆にわかって欲しいところを言ってほしい」と皆に呼びかけ、S先生より順に感想などを語る。それぞれが、なんらかの形で得たもの、出発点に立ったことなどを静かに語る。

約15分を残して、一応セッションは終了したが、その場で皆ごろりと横になり、何か透明な感じにひたっている人や、話しの続きをしている人など、ゆったりと過ごした。

グループ B

参加者 G男 H男 I男 J男 K男 L男
E子 F子 G子 H子
U先生 V先生 W先生

計 13名

第1セッション (11/2 (土) 19:00-22:00)

最初、テーブルをとることについて、L男は難色を示したが、前回参加したG子から、「全然気にならなかった」などの発言があり、結局、テーブルをとることになる。不都合なことがあれば、後で消すことにして。このあと沈黙が続く。たまりかねたようにF子より、「U先生が司会ですか」との発言があり、それにつられたように、「テーマは何？」などという声が出はじめる。少し緊張がとれたようである。そこでU先生は、「何か言いたいことを、一言ずつ、各自述べることにしたら」という提案をする。各自、この合宿に参加した動機や、この機会に話したいことなどを述べる。話の中では、恋愛について話し合いたいという意見が多かった。(ひとまわりしたところで、再び沈黙が続く)。現代高校生の男女交際について、V先生が口火を切ると、それに関する話がスムーズに出る。特に恋愛と結婚についての話が中心となり、“結婚と恋愛は別として、今は考える”という男子の意見(ただしI男は反対意見を述べる)に対し、“ある程度、結びつけて考える”という女子の意見(ただしG子は前者の意見)に分かれる。現代高校生の男女それぞれの恋愛に対するあこがれと、実際どういう恋愛をすれば良いのか、そのもどかしさのようなものが表われていた。ここで休憩。(これによって話の内容が変わり、恋愛の話が途切れる。) H子の「この話し合いに参加できたことが幸せである」という話から始って、「幸福について」へ話に移る。(このあたりからL男とF子の話が多くなる。) この話の途中から「自分をみつめる」ことに話題に移る。

(このあたりは、話の流れが速くなって、焦点がどこにあるのか、わからずに、ついていけない人もでたようだ。J男、I男、H子などは、発言がほとんどなくなる。緊張がとれて、多弁になったものと、まだグループにとけ込めない者、両者の性格的違いが、ここにはっきり、表われてきたようだ。) 最後にL男より、グループの構成員を変えたらという意見があり、しばらく、そのことについて話し合いが行なわれたが、F子、G子より、「メンバーを変えると、はじめからやり直さなければならない」、「まだ、このグループの中の人達についても十分知り合えない」ことなどの理由から、反対意見があり、そこで、一応、その意見は先生達のあとのミーティングの中で、出して検討することを約束して、このセッションを終える。

第2セッション (11/3 (日) 9:00-12:00)

緊張感が薄れて、雑談がしばらく続く。寝不足気味の生徒もいる。さあ、これから本格的話し合いに入るぞということになった途端、沈黙状態になる。「今日は何を話そうか」と皆、考えているようである。それでも、依然として沈黙は続く。だれかが話し出すのを待っているようだ。互いにまわりの様子を見ている。きっかけに「他のグループでどういう話が出たか」V先生が尋ねたが、あまり反応がなく、更に沈黙が続く。突然、H男より、「二水高校の生徒は無気力ではないか。中途半端な面が多いのではないか」という意見が出る。それに関して、L男などから、修学旅行の事や、文化祭に先生の協力がいないことについての批判がでる。H子より、昨年の運動会の時の署名活動の例をあげて、生徒から先生への働きかけを行なったら良いという意見が出る。このあと再び沈黙が訪れる。(各自、今出た様々の意見に対し、自分の行動はどうであったか。自分はどう考えるかを、自分の心に問いかけながら、考えをまとめている様子である。)しばらく後に、生徒会についての意見が出はじめる。「執行部と一般生徒とのつながりが少ないのではないか」「生徒会の立候補の状態などにも無気力さが表われているのではないか」など。(皆、何かそういった無気力さが、学校の中にあるように感じているが、どこにその原因があるのか、それをどうすれば良いのだろうか、はっきりしないながらも、徐々に、かつ具体的に、その核心に近づいていっているようだ)ここで代議員をしているH男や、G男から議会と執行部および生徒とのつながりや、協力についての悩みなどが、具体的に出される。最近における、貸し傘の件についての議会や、執行部の動きなどの話が出る。L男より、再び他校の例から文化祭などに対する先生の非協力さが批判される。H子よりは、自分が3年間過ごしてきた校内の文化祭などの変化や動きについて話がなされる。I男は陸上競技大会についてL男などとの反対意見を述べ、クラスとしてのまとまりがあったとの意見が出る。H子より今年、文化祭の時にマイホームの見せた計画などを例として、後輩をはげます言葉が出た。このあと、クラス編成についての意見や互いの異性観についての話に移る。このあたり非常に軽く、浅く、話が進んでいく。深刻さが無くなって、少し気の抜けたような気楽な雰囲気が漂う。このため、話の変化についていけない生徒もいる。I男や、J男は発言なし。このあと、L男の恋愛観や男女交際についての話が出る。そして経験を積むことの大切さというものについて述べていく。L男は、自分の体験を交えて、今、できる限りの範囲で、色々なことを経験しなければならないのではないかという意見を述べる。終りに近づくにつれて、雑談風になっていった。

第3セッション (11/3 (日) 19:00-22:00)

風呂に入っている人がいたりして、始めしばらく雑談が続く。やがてL男が、他のグループでも話していることは一緒だという。L男もこのグループで頑張ろうとしているようであった。どうすればよいかわからないための沈黙が続いたが、V先生が「二水高校のイメージはどうか」と尋ね

たので、これをきっかけに、志望した理由や二水高校の特徴とと思っていることなどが話題になった。話がなんとなく変りばえがしなく感じられたところで、L男がアルバイトの話をして、学校外でもいろいろな体験をしておくべきだと、ちょっと大人っぽい態度で話した。そこでK男がアメリカで感じた人種的偏見について語り、V先生が日本にも差別があると指摘した。

話がどうしても話題中心となり、沈黙しつづけているメンバーもいるので、W先生が「だまっている人もいるが、どうなのかなあ」と誘いかけた。これに応じて「不幸な人達を助けたい」、”他人の不幸を強く感じられる自分でありたい”という願いが数人のメンバーから熱っぽく語られたがL男が「無理に感ずる必要はない」とか「生きていることはたいした価値がない」とか言い出したので、ちょっとしらけた感じになってしまった。しかし死ぬのは恐しいということから、生命のかなさが話題となり、かなり深い沈黙が訪れた。その沈黙はL男の銃でうたれた夢の話で破られ、しばらく夢が軽い話題となって続いた。W先生に夢の解説を求めたが、W先生は参考書を紹介するにとどめたので夢の話は一段落した。L男が全く別の話だということわって、自分の性格について語り、G男もやる気がなくなっている自分について語った。L男とW先生がG男のその気持について行こうとしたが、L男はそうすることで自分も関係してくるので、結局、力つきたようすであった。そのうち時間がきて、強く深い緊張がようやく解けたのであった。

第4セッション (11/4 (月) 9:00-12:00)

しばらく沈黙があって、U先生が「今まで入り切れなかった」といったのに対して、H男が、「好きなことが言えた」というが、W先生が「なんとなく変だ」と更に付け加えたので、なんとなくぐな感じになった。L男は「先生のとり方とぼくのとり方が違うようだ」というが、W先生がグループメンバーの気持を問いかけたので、メンバーが次々に発言し、グループ内での各自のあり方を反省した。それで充分思いを表わせた人もあるが、充分表わせなかった人や、空しい気持になった人もあったことがわかってきた。次第に重苦しくなって耐え切れぬように、「こんな話をしてもおもしろくない」とか「もう一日あったら良いのに」とかいう声も出て、どうしようもない息苦しさが続く。小休止が提案され賛成が多く休憩する。(ジュースなどを飲んで15分ほど休み、その後、再開する。)

再び息苦しくなるのを避けるように割と軽い話題が続く。G子が眠ってしまったのに気がついてちょっと驚きの空気もあったが、「去年のグループのことを思い過ぎるせいではないか」という意見もあって、割とおだやかにG子を見ることができた。

時間が大分超過してしまい、外が騒しくなり、これ以上続けられない状態だったので、U先生が「メンバーに言い残したことはないか」と聞いてから終りにした。

グループ C

参加者	M男	N男	O男	P男	Q男	R男	S男
	I子	J子	K子	L子			
	X先生	Y先生	Z先生				

計 14名

第1セッション (11/2 (土) 19:00-22:00)

最初に、Z先生から「このメンバーで、今の時間から明後日の午前までのセッションを共に過すことになっている。明日の午後だけは、全体で歌をうたったり、ゲームをしたりする予定である」と伝達した。

X先生が、「せめて名前だけでも知りたい」と言ったのに応えて、R男が“他人紹介”を提案し、早速 S男を紹介した。「S男はおとなしい男だ」とR男が紹介したので、S男は自分が他人から「おとなしい男」にみられていることに対する驚きを表明したが、この時点では、S男はそれを問題としてとりあげるには、自分があまりにも不明確だったため、それ以上言葉をつづけることができなかった。ついでS男はY先生を、Y先生はM男を、M男はZ先生を、というふうに“他人紹介”をおこなっていったが、1年生のN男とO男は、このグループの中で、だれも知人がいなかったのので、自己紹介をせざるを得なかった。

X先生は、「ここでどんなことがやりたいか、はっきりしていれば話してほしい。あいまいならば、あいまいのまま、やりたいことを、お互いやりましょう」と、メンバーにそれぞれの参加目的をたずねたが、メンバーはどのように応えてよいかわからず沈黙。そこで、X先生はZ先生に向けて、Z先生の参加目的を述べるように促した。Z先生は、「教室の中でやれないこと、教科という垣根をとりはらって、知り合いたい」と話した。そこで、K子が、「Z先生は F子さんや〇〇さんとすごく親しくしている。私もそんなふうになりたい気持と、反発したくなる気持とがある」とK子自身の感情を表明した。Z先生は「K子さんには、割合声をかけているつもりだったけど……この際、お互い垣根をとり払いましょう」と応えた。

この後、沈黙が2分15秒。L子は「せっかくテーブルがまわっているのに（録音している）…」と、Q男は「テーマを決めた方がいい」と、この沈黙を何とかしたいと思って発言したが、再び沈黙が生じ、1分間つづいた。この沈黙を破ったのは、J子の表情（口をとがらせ、眼を大きく開いて、何か言い出したい）をみていた数名の爆笑だった。J子はR男とX先生に促がされて、ダーウィンの生き方（いろいろなことを気楽にやっけていながら偉大な業績を残した）に、啓発されたと言った。それに対して、P男が少し反論した。R男は「昨年のグループ・カウンセリングに参加して、“肩の力をぬくこと”を知った。それから、学校生活に活気が出てきた」と話した。J子とR男は、「何か自分の固さに気づいた」ことをうれし気に語ったが、他のメンバーには、2人の言う“肩の力をぬくこと”の内容も、また、この2人の現在のよろこびも理解できなかった。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

小グループの最初のセッションであったが、発言の一番少かったN男でさえも、徐々に緊張をゆるめていっている様子がみえ、"場を確かめ合うセッション"として、役割を果たしたように、3人のファシリテーターは思った。

第2セッション (11/3 (日) 9:00-12:00)

定刻(午前9時)に、前夜と同じ室に、全員集合。座る位置は、それぞれ前夜と異っている。静かなスタート。沈黙が訪れたり、話が中途半端になりはしたが、第1セッションのような重苦しさや苛々した雰囲気ではなく、かなり気分が和らいでいるようだった。

このような雰囲気の中で、O男とL子が大学進学について話を交わしたり、I子、J子、K子を中心に、男女交際について、特に異性理解の困難さについて語ったり、詩やロマンティズムに関心をもつO男に、L子やR男が共感したり、位相数学の本をよんでいるM男にY先生が感嘆したりで、最初の1時間30分は、まさしく"お互いの発見アワー"であった。

話題として、"大学進学"が出てきた時、Y先生が自分の生き方、「僕の場合目的のない進学だった。しかし、人生はその時、その時、生きていくものだと思う。将来の夢のある人は、それはそれで素晴らしい。でも僕の場合、別に大学進学の目的なんてものは、あの当時、もっていなかったと思う。」と話した。このY先生の自己談によってメンバー全員は、Y先生の"正体"に触れた感じをもっと同時に、人生の目的がまだはっきりしない生徒たちは、勇気づけられた。そしてまた、この話し合いグループは、"自己を語る場" "自分である場"なのだということを、全員が認めるようになった。

このセッションの終り頃、Z先生は、他のメンバーと表情の異なる(眼はかがやかず、何か不満そうな)P男に声をかけた。P男は「自分のやりたいこと、その目標は、ここで話すわけにはいかないが……」と前置きして、現在の2年生、3年生のだらしさを嘆き、部(課外活動)のみならず二水高校全体、日本国民全体の墮落ぶりを、次々と指摘し、民主政治はまちがっており、すぐれたリーダーがみんなを統制する制度をつくるべきだと主張した。P男は、女性についても、平安時代の女性は美しかったし、男性に従順であったから、よかったけれど、現代の女性は全然よいところがないと述べた。このP男のスピーチに、全員が感情をゆさぶられ、L子とR男をはじめとして、熱心な会話が始まった。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

P男の発言によって、メンバー全員がP男に関心をもったが、それはP男理解というよりもP男批判だった。ファシリテーターは、次のセッションで、P男をメンバーがうけいれるように、援助することが自分たちの課題であることを確認し合った。

第3セッション (11/3 (日) 19:00-22:00)

このセッションは、グループAと室をかわった。第1、第2セッションは和室で行なったが、第3セッションは、洋室で行なった。夜は気温が低く、しかも洋室であるため足もとが寒く、みなベッド・ルームから毛布をもちこんで、肩からスッポリ毛布で包み、顔だけ出して、まるでエスキモーの子供たちのような恰好にみえた。男子生徒が事務局からストーブを借りてきたり、女子生徒がコーヒーや紅茶をいれてくれて、やっと身体もあたたまり、何となく「われわれのグループ」という感じになった。このような条件のもとに、約2時間、P男アプローチがつづき、やっとP男理解にまでこぎつけたが、みんなよく頑張ったセッションであった。

まずZ先生は、「R男君がP男君に『僕と同じだ』と言っているけれど、P男君の方では、何が同じなのか、むしろ全然ちがっているように思っているのではないか。R男君は、どの点がP男と同じなのか話してみても……」と口火をきいた。R男は、これまで(肩の力をぬくことをおぼえた飲気で浮き浮きした気分)とは全然ちがう表情で、考えるような、静かな口調で、P男に、自分の思い(肩の力をぬくということ)を、何とか理解させようと努めた。「円を描いてそれを消すこと」「ヒットを打つのではなくて、球にバットをあてること」「新聞部の2、3年生と対抗するのではなくて、一緒にやっていくこと」「才能のない自分だと思ふのなら、みんなと話し合っていく態度が出てくるはずだ」など、R男は一生懸命、説明した。また、S男は「自分自身はたしかに絶対だけれど、このグループのみんなが言っていることは、『助け合っていくこと』なのだ。事柄をうまく運ぶには独りの方がいい場合もあるけれど、僕は、みんなで作る新聞というものが好きだ」と述べた。このS男の発言は、眩くような、弱々しいものであったが、P男を批判しているというのではなく、自分を語っている感じで、むしろメンバーは、この発言によってS男をよく理解できた。しかし、P男は、再び独裁政治を主張し、R男に「僕のこと、何も理解してもらえない」と言った。I子、J子、K子、L子、M男は、P男の考え方に反発を感じ、思わず攻撃的になったりした。X先生は、「みんながP男君のことをわかりたいと一生懸命なんだけど、P男君の方は、何だか自分のやりたいことは、ここでは話さないなんて言って……」と言葉をはさんだが、P男は、全然、X先生の発言には応えないで、自分の主張を言いつづけた。X先生は、みんなから攻撃されても頑張りがつづけるP男に気づき、「みんな、P男君のこと、心配して話してるんでしょ」と、メンバーの気持を確認した。このX先生の言葉に助けられ、「責めてるような言い方をしたけれど、ほんとうは、P男君、それでは困るだろうなあ」と心配で、つい、きついこと言ってしまって……」とK子が発言、みんな、それに同意した。Y先生は、「P男君の思うようにやるといいと僕は思う。P男君の氣にくわんことがあったら、クラスの生徒に向かってどなってもかまわん。思っていることを言えばいい。新聞部だって自分の好きなようにすればいい。独裁的にやればいい。反発や反対も出るだろう。問題は、その時、P男君がどうするかだ」と発言。このY先生の発言は、これまでのメンバーの発言と異なる角度からのものであったため、P男は、ホッとした表情になり、坐っている姿勢もみんなと同じように、テーブルに肘をついて、らかな恰好になった。そして、X先生の「われわれ

このあとの1時間は、この話し合い合宿に参加した感想を、ひとりひとり全員が述べた。みんな「参加して、ほんとによかった！」と語ったが、なかでも、もっとも発言の少かったN男が、「僕は、Y先生の『推理小説のよろこび』を、この合宿で見出した」（Y先生は、推理小説をよんだことがキッカで、読書家になった。つまり、N男は『話し合うよろこび』をこの合宿で知ったということ、このような表現で言った）と述べたのが印象的だった。また、「相談室のPRをもっとやるべきだ。こんな合宿をみんなに教えてあげたい。」という発言が多かった。そして、R男が、「僕は2度目の参加で、また一転しなければと思っている」と述べたが、それは、まさしく高校生の成長の確実さ、回転のはやさ、柔軟さを象徴しているようで、ファシリテーターは、感動をおぼえた。

このグループ・カウンセリングの目標は、"自己理解と他者理解"であった。この目標達成度をみるために、今回は、SD法 (Semantic Differential Method) を、グループの前と後におこない、「自分」「人」「父」「母」「男性」「女性」「先生」「友人」についての概念変化を調べてみた。また、グループ評価の方法として、「合宿を終えて」と題する感想文を中心に、Questionnaire に記入してもらうという方法をとった。

(2) グループの前後で、変化（２段階以上）が認められた概念別項目数

グループ A

概念 メンバー	A 男	B 男	C 男	D 男	E 男	F 男	A 子	B 子	C 子	D 子	計
自分	3	2	5	8	0	2	6	2	1	5	34
人	4	5	2	5	5	4	10	0	4	9	48
父	0	1	2	9	0	0	9	1	4	3	29
母	0	0	1	5	2	3	7	2	1	0	21
男性	4	4	0	2	0	5	10	1	8	2	36
女性	1	3	2	2	0	1	9	1	1	8	28
先生	9	3	9	7	1	1	12	1	5	8	56
友人	4	3	1	1	1	0	2	0	4	3	19
計	25	21	22	39	9	16	65	8	28	38	271

グループ B

概念 メンバー	G 男	H 男	I 男	J 男	K 男	L 男	E 子	F 子	G 子	H 子	計
自分	6	1	4	0	5	1	2	1	7	3	30
人	6	8	8	0	3	1	3	0	8	4	41
父	2	5	3	0	3	0	5	3	5	0	26
母	5	3	5	0	3	1	3	0	8	0	28
男性	12	3	12	0	5	1	3	5	12	6	59
女性	6	5	3	0	5	0	7	1	5	1	33
先生	5	6	9	1	2	2	9	2	5	1	42
友人	4	1	4	1	3	0	1	1	9	0	24
計	46	32	48	2	29	6	33	13	59	15	283

グループ C

概念 メンバー	I 子	J 子	K 子	L 子	M 男	N 男	O 男	P 男	Q 男	R 男	S 男	計
自分	3	6	0	5	3	6	4	1	7	0	5	40
人	1	1	4	2	7	1	13	6	15	0	3	53
父	0	0	0	1	2	0	3	6	9	0	9	30
母	2	1	3	2	0	2	2	0	9	1	7	29
男性	0	2	2	2	2	0	17	3	16	1	6	51
女性	1	1	3	1	0	1	9	9	8	1	13	47
先生	0	3	6	0	2	6	10	9	15	1	16	68
友人	2	3	1	3	4	3	9	4	10	0	14	53
計	9	17	19	16	20	19	67	38	89	4	73	371

(3) 全体としての概念変化について

このSD法は、日常生活の中で一週間以内に繰り返し実施した場合、形容詞20対のうち、2段階以上変化する項目数は、2項目以下であるとされている。その基準値に照してみると、このグループ・カウンセリング参加者（生徒31名）全員が、多くの概念において、「変化」を示したことが認められる。

メンバー別にみると、8個の概念のいずれにおいても変化が認められない（変化が2以下であった）人は、ひとりもない。どれか2つ以上の概念で何らかの変化があったことになる。ただし、D男、A子、C子（グループA）やG男、H男、I男、K男、E子、G子（グループB）やO男、Q男、S男（グループC）のように、すべての概念に変化がみられたメンバーがあるのに対して、J男（グループB）のように、2つの概念について1項目ずつの変化しか認められなかったメンバーもあって、変化の程度や変化した概念の範囲には、大きな個人差がある。個人の変化の内容については、別項にまとめる。

全体として「変化」が著しいものからあげていくと、「先生」の概念変化が一番大きく、次いで、「男性」「人」「女性」となり、5番目に「自分」の概念変化があげられる。そして、「友人」「父」「母」という順位になるが、グループによって、この変化量の順位は多少異なるので、次に、グループ別の簡単なものを表にしてみた。

順位 グループ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
A	先生 56	人 48	男性 36	自分 34	父 29	女性 28	母 21	友人 19
B	男性 59	先生 42	人 41	女性 33	自分 30	母 28	父 26	友人 24
C	先生 68	友人・人 53		男性 51	女性 47	自分 40	父 30	母 29

変化項目の数
が大きいもの
から①②とす
る。
右下の数字は
変化項目数

3つのグループの共通性

「先生」概念の変化が非常に大きい。これは、それぞれのグループに、3名の先生が参加し、かなり自由に言動したからであろう。生徒たちは、これまでの学校生活では知ることのなかった「先生」を、この合宿で知ったのだと思う。

「父」「母」について、変化量が少ない。これは、たとえ、グループの中で話題になったとしても、父や母は、その場にいなかったわけだから、これはむしろ当然の結果だといえる。

3つのグループの相違点

「友人」概念の変化量が、グループAとグループBは、少いのに対して、グループCは、かなり多い。この相違が、何に起因するのかは、SD法ではわからない。また、たとえ、それぞれのグル

ープのプロセスを知ってみても、明確に言うことはむずかしいであろう。やはり、この相違は、そのグループの特色という以外に、言いようがないように思う。

今回のグループ・カウンセリングの目標達成度

今回のグループ・カウンセリングの目標であった“自己理解”と“他者理解”という観点から、このSD法の結果をみると、「先生」をはじめとして、人間観がプラスの方向へ大きく変化したといえるから、“他者理解”という点では、一応、目標を達成したといえる。一方、“自己理解”という点から、「自分」についての概念変化内容をみると、かならずしもプラス変化ばかりではなく、個人別の項でわかるように、複雑な様相をみせたメンバーもいるが、高校生という自分の内面に敏感である時期に、自己概念がプラス変化ばかりであったとなると、むしろ不自然な気もする。

以上、この2泊3日のグループ・カウンセリング評価を、SD法から試みたわけだが、普通の高校生活では、たとえ3ケ年かかっても、なかなかイメージ・チェンジしないであろう「先生」概念などが、この短時間で変化したということだけでも、大いに効果的であったと言えるようである。また、いずれの項目についても、かなり大きい変化、しかもプラス変化が多かったという点でも、一応、今回のグループ・カウンセリングは、その目標を達成したと言えるようである。

(4) 個人別の概念変化について

<グループA>

A男：「先生」が全項目にわたって、大きくイメージ・アップ。また「人」と「男性」もプラス変化。

B男：「人」について、プラス変化（少し個性的で、少し満足している）と、マイナス変化（かなりきびしい）が、みられる。

C男：「先生」がイメージ・ダウン。「少し冷たく」「無気力」で「たよりない」。

D男：「父」がイメージ・アップ。「積極的」「誠実」「地味」。「先生」については、プラス変化（地味で真面目）と、マイナス変化（かなりきびしい）が、みられる。

E男：「人」について、イメージ・アップ。「少し安定した」「暖かい」「満足した」。

F男：「人」について、イメージ・アップ。「少し誠実」「たのもしい」。

A子：全般に変化が大きい。なかでも、「母」はイメージ・ダウン（かなり不誠実で軽そつで不安である）、「男性」はプラス変化（非常に敏感）とマイナス変化（非常にきびしい）が混在。「女性」は、プラス変化（非常に満足）をみせている。

B子：ほとんど変化がみられない。

C子：僅かではあるが、「人」「男性」「父」「母」が好ましい方へ変化している。

D子：「人」と「先生」が、プラス変化（少し満足した）とマイナス変化（少し不安定）をみせて

いる。

＜グループ B＞

G男：「人」は大きくイメージ・アップ。「かなりやさしく」「暖かく」「意欲的で」「たのもし
い」。「男性」と「自分」はイメージ・ダウン。「かなりたよりなく」「暗く」「不安」。
「母」と「父」と「先生」は、僅かだが、好ましい方向へ変化。

H男：「人」が大きくイメージ・アップ。「非常にたのもし」「幸福な」「意欲的」「積極的」。
「父」については、プラス変化（少しやさしい）とマイナス変化（少し不幸）があるが、こ
れは、マイナス変化というよりも、「父」に対するH男の暖かい心からみた「父」の不幸で
あろう。「先生」イメージは、最初かなりマイナス（非常に暗く、冷たい）であったのが、
「少し暗く、冷たい」に変化している。

I男：「人」はイメージ・アップ。「かなり明るい」「暖かい」「勇敢な」「積極的」「たのもし
い」。「男性」については、プラス変化（たのもしく、安定して、誠実である）と共に、マ
イナス変化（個性がなく、鈍感で、不幸である）がみられる。「友人」と「女性」は、変化
項目が少ないが、全部マイナスである。

J男：ほとんど変化がみられない。

K男：全般に、僅かずつプラス変化。「男性」「女性」「自分」について、「かなりやさしい」と
いう共通の変化がみられる。

L男：ほとんど変化がみられない。

E子：「先生」が大きくイメージ・アップ。「個性的」「あかるい」「まじめ」「誠実」「たのもし
い」。次いで、「女性」も大きくイメージ・アップ。「やさしい」「地味」「慎重」「安
定した」。

F子：「男性」の概念が、どの項目も“非常に”から“中ぐらい”に変化している。これは、プラ
スともマイナスともきめかねる。

G子：全般に、マイナス変化が多い。特に「男性」「女性」「友人」「母」「自分」は、5項目以
上マイナス方向（意欲がなく、暗く、不真面で、冷たい）に変化している。

H子：ほとんど変化がみられない。

＜グループ C＞

M男：「自分」をふくめて、人間すべてイメージ・アップ。特に、「人」は「暖かく」「真面目」
である。

N男：全般にプラス変化。最も数量的に多く変化したのは、「自分」と「先生」であり、すべてプ
ラス変化（安定して、満足）である。特に「自分」は「かなり不満な」から「かなり満足」
だという4段階の変化をみせている。

O男：変化量が他の生徒にくらべて、非常に多い（2段階以上の変化をみせた項目が67）が、特

に、「男性」のイメージ・アップが目立つ。「男性」「人」「先生」「女性」「友人」の順で、大きくイメージ・アップ。「明るく」「真面目」「暖かい」「たのもし」。

P男：「先生」と「女性」がイメージ・アップ。しかし、**P男**の場合、合宿前の「先生」と「女性」は、かなり「好ましくない」存在であったので、その「好ましくない」のが「まあまあ」の程度になった項目数が多かったということであって、決して、単にイメージ・アップしたといて、安心できるところまでは、いかない。

Q男：変化量が他の生徒にくらべて、非常に多い（2段階以上の変化をみせた項目が89）が、特に、「男性」「人」「先生」「友人」のイメージ・アップが目立つ。「やさしく」「誠実」「勇敢な」「安定した」「意欲的」。

R男：ほとんど変化がみられない。

S男：「先生」「友人」「女性」「父」の順に、大きくイメージ・アップ。「暖かく」「満足」「積極的」「幸福」。

「自分」については、マイナス変化（弱気で、軽そつ）と共に、「のんびりした」自分を再発見。

I子：「自分」が大きなプラス変化をみせている。「個性的」「満足」「勇敢な」

J子：「自分」が大きく変化。プラス面（かなり敏感で、少し理性的で誠実）とマイナス面（これまでかなり個性的だと思っていたのに、中くらいに個性的）とがある。

K子：「先生」と「人」が大きくイメージ・アップ。「敏感な」「意欲的」「積極的」「たのもし」。

L子：「自分」が大きくイメージ・アップ。「少し個性的」「積極的」「安定した」「理性的」。

<比較的概念変化のなかった参加者について>

B子：彼女の関心が、ある男子生徒にむけられていたため、グループの他のメンバーと十分にからみ合わなかった。

J男：感情の起伏があまり大きくない性格。また、いつも自分をみている自分の眼がある。

Questionnaireによると、「実にすばらしい経験だった」。

L男：グループの中で、もっとも発言回数が多く、他の人に与えた影響は大きかったが、自分が他の人に啓発されることが、あまりなかった。

H子：8月に、クラスの合宿に参加し、その時に一度、大きく変化したので、今回はあまり変化しなかった。

R男：前回のグループ・カウンセリング（1973年）で、「肩の力をぬいた」ので、今回は、あまり変化していないが、今回は「もう一度、肩に力をいれて頑張る」ことを知ったという。

<マイナスの概念変化をみせた参加者について>

G子：休憩時間にハメをはずして、はしゃぐ男子を、うけいれることができなかった。そのため、

小グループの話し合いに身がはいらなかった。

A子：グループの中で、「母親」について話し合った時、A子は黙ってきいていたが、なぜか、「母」の概念がマイナスに変化している。他の母親をうらやましく思ったのだろうか。

C男：「先生」がイメージ・ダウン。3人のファシリテーターに受容されなかった結果。この問題は、ファシリテーター・ミーティングでも、とりあげて話し合ったが、うまくいかなかった。

2 Questionnaire によるグループ評価

グループ終了時から5日目の11月8日に、「合宿を終えて」のアンケートを実施した。(参照別紙(7))。その記述の中で、グループの評価としてうけとられるものをあげてみたい。各グループ圧倒的にプラスの表明が多いので、プラスのものは、目立つものだけをとりあげ、それに反してマイナスの表明はすべてとりあげて、教師の学習すべきこととして心に留めておきたい。

グループ A

<否定的>

- ひとつの話題に焦点をしばらくとする先生の態度があった。もっと多くの話題について話し合いたかった。
- 一度くらい先生ぬきで話し合ってみたかった。
- あまり面白くなかった。もっとスポーツをやりたいかった。スポーツを通じての交友も大事だと思う。
- 先生たちは、いったい、なぜあのような合宿を行なっているのか理解できない。
- 生徒に接する時、先生はもっと生徒になるべきである。
- あんな長い話し合いは、やはり少し苦痛であった。もっと明るく山に登りながら話し合いたかった。
- あの時自分はすごく不安定で、もっとも話し合いたいことが、みんなとちがっていて(進路のこと)、少しむなしかった。

<肯定的>

- 生徒数の多い高校では、こんな合宿を年に1回ではなく、もっとやったらよい。小人数で話し合ってみて、上級生や同級生に感心した。
- 先生方を少しだけ理解できた。
- 脈々と動きつづける人間の心に触れ、とてもうれしかった。とても充実した時間で、みんな卒直だったし、僕もまげずに心を開いて話して、ほんとうによかった。

- わりと心を開いて話したと思う。「人間の疑問」について、いつもいつも話していたら気が狂ってしまうのではないかと思ったりもするけれど、とにかく僕にとってこの3日間は楽しかったし、少し悟りをひらいた心境である。
- まだ合宿の気分によっている感じがする。自分自身が何か変わったようにも思える。とにかく何もかも素晴らしく思える。
- 先生方は合宿に参加した生徒のことをよくわかってくれた。
- 私の英語恐怖症について、みんなで話し合ってくれたし、私をよく理解してくれた。私も他の人のことを知ることができた。
- こんな先生もいたんだあって、満足です。

グループ B

< 否 定 的 >

- 想像していたよりも、もりあがりなかったように思える。
- 宗教問題は、自分にとって理解できない部分が多かった。しかし、それがきっかけで、宗教について考えるようになったが、もっと形のあるものを多くやってほしかった。
- どの先生も助言者といった感じだった。もう少し積極的に参加した方がいい。
- グループ・メンバーを変えた方がよい。
- もっと運動がやりたかった。
- 最後のセッションで、これまでの話し合いをまとめようとした先生の態度に、やっぱり生徒と立場がちがうなと感じた。でも来年の合宿の資料のためにまとめておくことも必要なだろうと思った。
- 他のグループの人たちと話し合いをすることができたらもっとよかった。
- ぼくたちの話し合いをきいて、先生方がどう感じていたのかよくわからなかった。
- 先生方の態度は、別に理解できないことはなかったけれど、活気があまりなかったと思う。
- 何となく、ものたりない。期待はずれの感じがあった。

< 肯 定 的 >

- 参加してよかった。宗教のことについて、今まで考えたこともなかったけれど、みんなの話をおもしろく思ったし、勉強になった。
- とてもよかった。いろいろな人のいろいろな面を知った。また友だちも増えたし、すごい収穫だった。
- 寝不足で疲れたが、とても楽しかった。わりとよく話し合いができたと思う。
- 学年のへだたりを超えて話せてよかった。先生方に対しても身近かなものを感じた。
- 心のモヤモヤがすっきりした。言いたい放題のことが言えた。今まで誤解していた人のことが

わかってうれしかった。

○V先生の結婚する過程をきいたため、先生をみる眼が変わってよかった。

グループ C

< 否 定 的 >

- 去年の合宿では、みんなのことがあんなにわかって感動したが、今年は同じグループの人たち以外は、あまりわからず残念だった。参加者が多かったせいだろうと思う。
- 先生にも生徒のなかにも、横になって寝ながらきいていたり、他の人が話しているのに横の人と話したりしていたのは、不謹慎だと思った。

< 肯 定 的 >

- 合宿に参加して、「肩の力をぬく」ことがわかった。これまで優等生ずらをしていて、恰好に気にしてできなかったことが、ほんとうに沢山あったと思う。参加してほんとによかった。
- 私にとっては初めての経験で、全く知らない人とこんなにも深く話ができるとは思ってもいませんでした。何か新しい自分を発見したようで、ちっぽけな心しかなかった私がこれからどう変わっていくのか、自分でも楽しみだ。
- Z先生に少しでも理解してもらえたことが、一番うれしかった。クラスの人たちとも、こんなふうに理解し合えたらどんなにすてきだろう。
- 討論が好きでなかった僕だったが、今度の合宿で、話し合いのおもしろさ、たのしさが何かわかって、参加してよかった。
- 上級生に、「仲間」「同類」を感じた。
- 女性と話し合えてすてきだった。
- 中学の頃から将来の計画をたてている人がいると知っておどろきだった。
- グループの中で、自分の考えが自由に述べられた。そして僕の考えに対する他の人の意見がきけてよかった。
- 規則にしばられなかったため、自由に行動した。そのため、僕がこれまで知らなかった同じ世代の人々の実態の一面に触れたように思った。
- 「高校の先生は冷たい」ときいていたし、今まで僕もそう感じていたが、この合宿に参加していちがいにそうは言えないことがわかった。
- 楽しかった。勉強のことも気にならなかった。
- 合宿に参加して、いろいろなことに対する僕の考え方が少なからず変わったように思う。参加する以前は、話し合いなんてつまらないだろう。みんなと遊んでやろうと考えていたが、最初のセッションが終わった時、僕は話し合いの重要性、意義の深さ、それによる人間間のつながりなど痛感してしまった。

〇いい人たちがばかりだと思った。いろいろな人がいておもしろかった。

〇僕は「もっとあたりまえに、自然に生活すればいいのだ。R君じゃないけど、肩の力をぬいて……」と思った。

3つのグループの共通性

表面上の会話ではなく、ある時は重苦しい沈黙がおとずれたり、ひとつの問題に長時間かけたり好悪の感情を鮮明にしたりすることで、“より真実の人間関係”の場を提供した。

教師の方からテーマを設定したり、命令したりなどしないで、参加者ひとりひとりの思いをお互い尊重する場を提供した。

3つのグループの相違点

グループAは、各自のかなり深いところで話し合ったため、グループ解散後もその影響が強く残っている生徒が多い。そしてほとんどすべての生徒が、自分自身を含めて人間を肯定的にみるようになっていく。

グループの流れが一定方向になったため、“深いつながり”ができた反面、その流れにさからいつづけた生徒が一人。また流れにながされて自己が語れなかった生徒が一人いた。

グループBは、特定の流れはできなかった。グループの雰囲気は全く自由であったため、好きなことが話せた。そのため話し好きの生徒にとっては、たのしかったし、それを聞いていた生徒も不快な思いはなかったようである。反面、「これは……」といった感動がなかった。

グループCは、自然な流れであったため、グループに対する抵抗がなかった。一人の生徒の考え方が他の生徒の考え方と極端に異なっていることがはっきりしてきたことで、自分と人とのかわりようを、自然に問題にしたため、グループ解散後もお互いのことを想うようになっていく。

他の生徒たちと考え方の異なる一人の生徒は、グループの中で他の人の好意を感じたり、少し他の人の観方を変えたところもあるけれど、彼の奥深いところまでは、グループ・メンバーのやさしさはとどかなかった。

3 はじめてグループ・カウンセリングに参加した2人の教師の感想

金沢二水高校教諭 村 田 進（英語担当）

長年のグループ・カウンセリングの実績も知らず、兼務をしていた立場上、打合せの会合にもあまり参加できず、ほとんど予備知識なしに参加した私としては、正直いって何が起ろうとしているのか、どんな問題が待ち構えているのか、考えただけで不安であった。またあらゆる面で未経験な私が、問題を抱えた生徒に対して一体何ができるのか、われながらはなはだ心もとない気持であった。

ただ生徒が何を考え、何を悩んでいるのか、2泊3日の合宿で彼等がどのような自我を露わし、どのように変わっていくのか、私にはとても興味があつた。また教師の立場から、その時にファッションリティーがどのような役割を果たすのか、これも興味があつた。

もっともいざセッションが始まるや、そんな傍観者的な態度は吹き飛んでしまった。高校生は頭の回転が早いせいか、話題が煮つまらないうちに飛びがちである。私達は次々と展開する話し合いに追いついて行かなければならない。そしてこれを適切に制御し、話し合いを深めていくことが、私達ファッションリティーの役目であると思った。私も必死に話題の中に入り込もうとしたが、その際前以て渡された14項目からなるファッションリティーの心得が大層頼りになった。

私達のグループAは、最初話すと聞く者とははっきりと分かれる傾向にあつた。気まずい沈黙を嫌って努めてしゃべろうとするE君はじめ上級生達と、黙っていてもちっとも気にならないF君をはじめとする一年生達にである。そこで全部の生徒が一同に、1つの話題についてみっちりと考え発言できるゆとりと雰囲気が必要だと思った。

それは1セッション3時間という長い時間と、ファッションリティーの暖かい受容的態度によって解決した。はじめは緊張した面持だった生徒達は、次第に打ち融けて、気楽に話し合うようになっていくのである。セッションを重ねる度に深まっていく親密さに、私は感動を覚えた。授業中は精彩を欠いた生徒が、生き生きとしゃべり、自分の気持を吐露する風景は、意外であり驚きであつた。またファッションリティーは、そんな生徒の持ち出す問題を親身になって考え、ある時はそれを抱え返し、ある時は助言し、ある時は共感して生徒を援護していった。こうして、はじめは一人舞台の観があつたE君も、自分の意見を述べるばかりでなく、積極的に相手の意見を求めていき、それに耳を傾けるといった態度に変っていった。下級生もすんなり意見が述べられる、くつろいだ雰囲気が生れてきた。

その象徴的な出来事が第3セッションで起つた。物静かで、グループでもほとんどしゃべらなかったF君が、高校に入学した当初 誰ともしゃべらず、先生を悩ませた、とぼつりと語った後のことである。みなは一瞬シーンと静まり、気まずさの全然ない実にしみじみとした沈黙が訪れたのである。まるでF君の世界にみなが引き込まれたかのようだった。その時沈黙がにが手だと言うE君は、「こんな沈黙だったら好きだ」と言い、みなも相づちを打った。私はF君を中心にみなが融け合つたこの一瞬を忘れることができない。

こうして1つ1つの個性が浮き彫りになって、おぼろげながらそれぞれの個性の輪郭が見えてくるように思った。生徒が最後の感想で口々に言っていたように、表向きとは違ったその人の一面が見えてくるのだった。外見が陽気に見えても傷つきやすい女生徒、一見紳士的でも土方のアルバイトに生活の喜びを見出したという頼もしい男子生徒、快活でも一人でどんぐりの実を拾って感傷的な一面を見せる上級生、etc. etc. ……私はわずか2泊3日のうちに、いろいろな個性と頼もしい人格に巡り会えたというしみじみとした印象を持つことができた。

正直いって生徒よりも長じているはずだと思っていた自分が、いつのまにか彼等の問題を自分の問題のように抱え、共に考えているのだった。生徒間ばかりか先生と生徒の間の壁もなくなって、

最後には私達はほとんど対等に話し合った。もっともこの点に関しては、生徒は私達にもっともっと赤裸々な姿を見せるようにと不満があるようであった。しかしB君が最後に、今まで先生は企業内の人間のように思っていたが、そうではないと思うようになった、と言った時、私は救われたような気持になった。

話し合うという行為がどのような意味を持つのか知りたかった私は、目に見えて生き生きとする生徒の変わりようを見て、感慨深いものがあった。またあれから数カ月経った現在も、あの時芽ばえた友情が、途絶えずにますます深まっている様や、参加生徒が今もひっきりなしに相談室を訪れ、先生を慕っている様を見て、感慨を新たにしている。

このような機会をもっと設けて欲しいという生徒の一致した要望は、今度のグループカウンセリングの成功を意味する反面、現実の場面でこのような機会がもっと取り入れられるべきことを指摘している。友達同志の、また先生と生徒との裸のつきあいが、日常的な次元でもっともっと望まれている、と私は思った。

金沢二水高校教諭 西 谷 隆 (数学担当)

参加する前のファシリテーターのミーティングで、私は「なぜこれほどこまかいことまで話し合うのか?」と不思議に思った。例えば、参加予定の生徒が参加をしぶる場合のファシリテーターのアプローチや、グループ内で参加者が秘密を話し出しそうな場合のファシリテーターの判断など、私にとってはあまりこまかすぎると感じた。しかし、実際にグループカウンセリングに参加して、このような配慮がいかに重要であるかを知った。

グループカウンセリングは実にすばらしい合宿である。しかし誰にでもやれるものではないと思う。なぜなら、そこでは人の心の深いところまでタッチすることが多いので、そのために生じる生徒の動揺にフォローできる人でなければうまくできないと思う。その点私は相談室の先生方に専門性を感じた。それは生徒の心情に大へん敏感であるということである。

私自身は、最初のセッションで「いったいどういう場なのだろう? 何を話せばいいのだろう?」と思ったり、沈黙が重苦しくて「こんなところに来るのではなかった。」と後悔したりした。しかしいつの間にか自由な気持になって、私は言いたいことが言え、また生徒の意外な一面に、「彼等があんなことを感じたり、考えたりしているのか。」と、一種の驚きを覚えた。

第4章 フォロウ・アップ

＜グループ後4ヶ月間－1975年3月まで＞

(1) reunion (再会合) (1974年12月21日)

○グループCが中心となって、学校の相談室に集合。教師としてZ先生が参加。

○提唱者のK子は、「グループCの話し合いで、P男をもう少しよく理解したかったし、P男に対

してももう少しやさしくしてあげたかった。学校に戻って、P男の教室に行ってみたが、何となくP男がひとりぼっちみたいだから、もう一度、みんなでP男を励ましてあげたい。」と語った。

- しかし、P男は病気のため欠席中で、このreunionは、P男のためではなく、P男のクラスメートのI子のためのものになった。I子は、P男の独断的なやり方（ホーム委員長として）が、クラス全体の反感をかい、副ホーム委員長としての自分の立場と、P男に対する自分自身の否定的感情と同時にP男を応援したい気持の交錯した感情を、みんなにきいてもらった。I子は泣きじゃくりながら話しつつけるうちに、I子のほんとうの問題は、自分自身の部活動に関係があることがわかった。グループAやグループBのメンバーも、I子の悩みを静かにきき、2時間にわたるグループ・セッションとなった。I子は、みんなに励まされ、元気をとり戻し、「P男のことは、同じクラスの私が応援する。」と言うほどになった。

(2) 新年会（1975年1月2日）

- グループAのE男の自宅に、全員が集まり、雑煮をつくって食べた。
- 提唱者は、グループBのG子（SD法によれば、マイナス経験ばかり）で、グループAのE男とグループCのJ子とI子によびかけ、さらに、自分のクラスメートまで誘って、まる1日、ゲームやギターで楽しんだ。R先生、S先生、U先生、Z先生も参加。
- P男が参加したので、みんながよろこんだ。

(3) 3年生を送る会（1975年2月9日）

- 学校の近くにあるうどん屋の2階に集まり、昼食会を開き、3年生の3人に、それぞれプレゼントと色紙を贈り、色紙には、みんなで一言ずつよせ書きをした。
- 提唱者は、グループBのJ男で、グループAのC子やグループCのS男、J子、K子によびかけて、しっとりとした送別会をひらいた。R先生とZ先生が参加。

(4) 相談室利用者の増加

- 「グループ・カウンセリングの終わりは、人間関係の始まり」である。連日、相談室は満員で、臨時に、応接室を「第2相談室」として使用せざるを得ないくらいであった。なかでも、2年生の男子と1年生の女子（グループ以前には、ほとんど相談室にこなかった）が、常連となり、更に、同じクラスあるいはクラブの仲間を連れて来て、数名で話し合うことが多かった。
- 相談室が数学や英語の協同学習の場を提供したかたちになったこともあった。

(5) 周囲の人々（父兄や教師）から、「明らかに変化した」と認められた生徒

- M男、A男、L子の学習意欲と成績上昇。
- E男の生活態度、特に、欠席と遅刻の回数の著しい減少。
- E子の自信回復。
- F男、H男、O男、Q男、S男の明朗性。無口であった彼らが、教室の中で、話すようになった。

<1975年4月－7月>

グループ・カウンセリング終了後、6ヶ月くらいで、もう一度SD法をおこない、グループの影

響を知りたいと、私たちは考えていたが、同じ学校の中で幾回となく顔を合せ、話し合う関係の中で、テストをおこないたいという気持が、だんだんうすれてきた。そこで、各グループの責任者が自分のグループ・メンバーのその後を、しっかりと把握することを申し合せた。

4月をむかえて、参加者のひとりが、登校を嫌がり、1ヶ月近く欠席をつづけた。グループ参加をよびかけたいと教師が思うような生徒は、たいてい、新しい環境（新しいホーム主任とクラスメート）に適応するのが下手な生徒である。しかも、彼の場合は、3年生という進学色の強い、競争のはげしい学年であり、その上、ホーム主任が、かつて彼の校則違反を目撃した教師であったため、気おくれ（僕は、たとえ勉強しても認めてはもらえない）が強く、家にたてこもり、食事也十分にとらずに、“自己修養”につとめることにした。しかし、1年前とはちがって、（学年が改まると不安定になる）今度は、大勢のグループの仲間がおり、毎日、毎日、電話や手紙で、また日曜日には彼の家まで出かけていって、彼と話し合った。私たち相談室のスタッフは、養護教諭の協力を得てホーム主任と連けいを保ち、母親と話し合ったりもした。今回のケースの場合、彼と相談室のスタッフのラポートが大きく、“話し合う”ことには、彼は何ら抵抗をみせなかったので、教師側は、あせらないで、時間をかけて、彼が自らの不安を克服するのを待つ姿勢をとった。また、グループの仲間は、彼の欠席中のノートを、各科目ともつくり、彼が登校をするのを待っていた。そして、遂に、彼自身が、「僕としては、少し不本意だけど、みんなが、僕のために、こんなに心配してくれるのに、それに応えないわけにはいかない。」とあって登校した。それ以後、全然欠席もせず、頑張っている。

また、ある生徒の父親が、癌で脚の切断手術をうけることになり、その生徒は心配のあまり、学校で脳貧血で倒れた。しかし、グループの仲間のだれかがいつも、彼女のそばにいて、励ましつづけ、無事に、1学期を終えることができた。

<1975年7月における参加者のプロフィール>

グループ A

- A男：学校生活をいきいきと楽しんでおり、8月には、国際生活体験高校生グループに参加、アメリカ1ヶ月滞在の予定である。
- B男：多くの友ができ、生活にリズムがあって、明るく楽しそうである。課外活動にも熱心である。
- C男：グループの中で、「先生」と合わなかったけれど、生徒会事務局の仕事を積極的に行ない、高校生活を充実させている。
- D男：3年生になって、落ち着きが出てきた。学習効果があがらないけれど、辛抱強く頑張っている。
- E男：3年生になって、考えこむ時もあったが、クラスの中で自分のすわるべき場所を見出し、自分にカツをいれながら、頑張っている。
- F男：1年生の頃からみたら、グループ後は別人のように、にこやかになり、3年生の現在、人と

も話すようになり、成績も良い。

A子：父親の不幸にもめげず、小さい身体で頑張っている。英語の質問をよくする。

B子：生徒会の執行委員になり、学校中、かけめぐって活躍。

C子：グループ後、落ち着きが出て、学習面での計画性も出てきた。

D子：ある商事会社に就職。進学を家庭の事情であきらめたが、英語の勉強をつづけて、いつかは渡米したいと、はりきっている。

グループ B

G男：小さい村から金沢という町に出てきて、学校にも、下宿生活にもなれなかった1年生の頃から見ると、みちがえる程の成長ぶり（授業中、特に数学の時などの発言やまわりの人と話したのしむ様子）である。

H男：成績は思わしくないらしいが、課外活動を熱心にやり、学校生活をたのしんでいる。

I男：新聞部で活躍。数学が学年で最高点。P男と仲良くしている。

J男：グループ後、心理学を専攻して、社会福祉関係の仕事にたずさわりたいという夢をもち、学習に一生けん命である。

K男：どちらかというところ、勉強ばかりしていたK男だったが、グループ後、余裕ができたというかゆったりとしてきた感じである。かなり勉強はしている。

L男：グループ後、落ち着きが出てきて、学校生活の中で、目立つ言動が減った。目下、進学のため、勉強中。

E子：劣等感がうすれ、落ち着いてきた。苦手な理数系に努力している。

F子：美大を目指して勉強中。母親の良き相談相手となっている。

G子：言語障害児教育にたずさわりたいという夢を抱いて、受験勉強中。

H子：保育短大で、楽しく充実した日々を送っており、1ヶ月に1度くらい、二水高校を訪ね、先輩を励ましてくれる。

グループ C

M男：合唱部で活躍。一方、夏休みの1ヶ月をアメリカで過ごす予定（A男と同じプログラムに参加）で、1年前のM男からは想像もできない積極性がみられる。

N男：学校生活がイキイキしている。友だちもできて、たのしそうである。

O男：グループ後、「何かしなければ……」と考えて、陸上部に入り、トレーニングにはげみ、自分に挑戦している。

P男：新聞部を止めて、ひたすら真面目に勉強している。I男以外の友だちはいないようである。相談室のスタッフとは、よく立ち話をしたり面接したりするが、1年の時のようには、欠席しなくなった。また、「1年生の時のように苛々しなくなった。あの合宿であんなによくしゃべったのは、何かあの頃、発散したかったのだ」とも語った。

Q男：春休みに、鼻の手術をうけたが、3年生というむずかしいクラスの中で安定している。

グループ後、ほんとに明るくなって、現在受験勉強を一生けん命やっても、教師は安心してみていることができる。

R男：前回のグループ・カウンセリングでは、「肩の力をぬくこと」を知り、今回のグループ・カウンセリングでは、「頑張ること」の必要性を知り、父親の転勤にもかかわらず、アパートにひとり残り、自炊しながら受験勉強をしている。

S男：自信を回復しつつある。E男をバック・アップすると共に、自分の進路についてもよく考えて、美大ということにして、頑張っている。

I子：課外活動に一生けん命で、イキイキしている。クラスの中でもリーダーシップをとっている。

J子：成績抜群。ひとりでクヨクヨすることもあるけれど、かなり自分をきたえている感じ。

K子：将来、看護婦になりたいという夢をもって、学校生活を充実させている。K子のまわりの人々はK子の明るさと暖かさにたすけられている。

L子：英語方面の短大に進学。成績優秀。時々、相談室に電話して、後輩のことをたずねたり、「合宿を是非、つづけてください」などと、私たちにハッパをかけてくれる。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

以上、グループ後8ヶ月たった時点での参加者のプロフィールを簡単に記してみた。SD法によって、少しでもマイナス変化がみられた参加者について一言触れておかねばならないと思う。C男（先生）、A子（母）、G男（自分、男性、女性）、I男（女性、友人）は、他の項目で、かなりプラス変化があるし、上記のプロフィールでわかるように、現在の学校生活は、全く「自分の学校」といった感じであるから、全然、グループがマイナスの影響をあたえたとはいえない。すべての項目にわたってマイナスばかりであったG子とは、個人面接をくりかえしたわけだが、彼女は、自分のグループに対するマイナス感情が出せない状態で2泊3日をすごしたことがわかったと同時に、彼女自身の問題（友人関係）が、かなり大きく、3年の春まで悩んだ。しかし、現在は、それものりこえて、受験勉強に頑張っている。

第5章 スーパーバイザーによる考察

SD法による概念変化の量的検討

今回の合宿によって、参加者である生徒たちの心に何らかの変化が生ずるものと想定し、合宿の直前と直後にSD法を実施した。これによって、生徒たちの人物イメージ（自分・友人・親などについての）に、どれほどの変化があったかを測定しようと試みたわけである。（SD法については第3章 結果参照）

1 個人別の概念変化

グループ・カウンセリングの前後に、人物イメージ（概念）がどれほど変化したかを、個人別・概念別に表示したのが第1表である。変化の指標としてD値をとりあげた。D値とは、SD法の形容詞について、7段階評定尺度上における前後の差（ d ）を求め、これを用いて20対の形容詞につき $\sqrt{\sum d^2}$ を算出したものである。

第1表 個人別 概念別D値

		self	others	father	mother	male	female	teacher	friend	
A	m	A	5.1	7.1	2.5	2.6	6.0	4.0	9.6	5.0
		B	4.4	7.3	3.2	2.0	5.0	5.0	5.0	4.7
		C	5.3	4.7	4.0	3.9	2.8	3.7	9.3	3.6
		D	6.9	6.5	8.1	5.7	4.2	4.6	7.5	4.0
		E	3.7	5.8	*	4.1	3.6	3.6	3.7	3.3
		F	4.4	6.2	3.0	4.8	5.7	3.3	4.0	2.0
	f	A	6.2	7.7	8.4	1 1.8	1 2.0	9.5	8.8	4.4
		B	3.6	3.0	3.0	5.1	3.2	3.3	3.0	3.0
		C	3.6	4.6	6.0	3.6	6.1	4.1	6.0	4.8
		D	6.2	7.9	4.5	3.0	4.7	7.2	7.4	5.0
B	m	G	7.1	9.2	4.7	6.6	1 3.0	8.0	6.9	6.7
		H	3.5	1 1.9	7.7	6.6	6.4	7.4	6.9	4.5
		I	6.9	1 1.6	5.4	5.9	1 3.8	7.1	7.5	9.1
		J	2.5	3.3	2.6	3.2	2.2	2.2	3.2	3.5
		K	5.7	5.5	4.2	5.8	7.4	5.5	4.2	4.5
		L	3.7	3.2	2.7	4.1	4.8	3.5	4.0	2.8
	f	E	5.0	5.5	5.4	6.5	5.7	8.6	8.4	3.2
		F	3.6	0.0	4.2	3.2	4.9	3.7	3.3	2.7
		G	7.4	6.9	6.3	9.8	1 0.2	8.7	6.2	7.8
		H	4.1	4.9	3.0	2.4	3.0	3.5	2.8	3.6
C	m	M	5.3	6.0	3.9	2.0	4.9	2.2	4.7	5.2
		N	6.5	3.9	3.0	4.1	2.2	3.3	7.0	4.9
		O	5.9	1 1.1	4.4	4.1	1 1.8	8.7	7.6	7.1
		P	4.9	6.1	6.6	2.7	5.5	9.4	7.9	5.0
		Q	6.6	1 1.8	6.8	7.5	9.7	7.2	9.9	7.4
		R	2.2	2.5	3.0	3.0	3.7	3.3	2.8	2.8
	f	S	9.0	7.7	8.7	8.2	7.4	1 2.8	1 5.4	1 5.3
		I	4.0	3.7	2.2	3.6	2.0	2.8	1.7	3.9
		J	6.3	4.5	3.3	3.2	4.0	4.7	4.6	5.2
		K	2.6	6.1	3.2	4.6	3.7	4.4	6.0	3.0
		L	6.7	5.1	3.7	4.1	4.6	4.0	3.7	4.8

* Group AのE男は「父」がないので、概念の記入がなかった。

このD値がどれほどになれば、意味のある変化とみなせるかは、数理的根拠を求めにくいのであるが、経験的にいって6.0以上になれば、かなり意味のある変化があったものといえるようである。

ただし、生徒たちのSD評価の仕方にはかなりの個人差があり、7段階に分けて評定するさいに、非常に極端な評定（段階1や7）を多くつける生徒がある一方、評定が中央に偏在する（つまり段階3～5につけることが多い）生徒もあって、D値が6.0以上であっても意味の乏しい場合があり、反対に6.0以下であっても意味をもつ場合がありうると思われる。

D値が6.0以上であれば、意味のある概念変化があったものと仮定した場合、8個の概念のすべてにおいてD値が6.0以下であった者は、グループ・カウンセリングによって人物イメージに変化がもたらされなかった者ということができる。これに該当する生徒は、31名中8名（26%）である。換言すれば、「参加者の4分の3の者が、人物イメージに何らかの変化を示した」ということができよう。ただし、上述のような理由から、この結論は確定的なものとはいいいにくい。

次に、今回のグループ・カウンセリングによって、どの人物イメージに変化が生じたかを調べてみる。上述のようにD値が6.0以上の変化を示した生徒が31名中何名あったかを概念別に表示したものが第2表である。

第2表 概念別の変化を示した人数

	self	others	father	mother	male	female	teacher	friend
変化あり	11	16	8	7	11	11	17	6
変化なし	20	15	22	24	20	20	14	25

合宿の中でとくに話題としても出ることの少なかった「父」「母」の変化が比較的少なく、「人」と「先生」に変化を示した人数が多くなっている。

2 概念変化の方向

これまでの「変化」は、グループの前後で何らかの変化がみられたか否かを示すだけであったが、どのような変化であったかの吟味も欠かすことができない。詳細には個別的に吟味したが（P.35～P.37）、ここでは概念（人物イメージ）の変化が好ましい（+）方向へ変ったか、好ましくない方向（-）へ変ったかを検討する。

ここでいう「好ましい（+）」方向とは、SDの形容詞でいえば、「明るい」「暖かい」「満足した」「勇敢な」「幸福な」「積極的」「誠実な」「安定した」「意欲的」「たのもしい」方向であり、この逆に、グループのあとで、「暗い」「冷たい」「不満な」「臆病な」「不幸な」「消極的」「不誠実な」「不安な」「無気力」「たよりない」方向に変ったならば、好ましくない（-）の変化とみる。

20対の形容詞がある中で、好ましい方向への変化が多いもの（+）、好ましくない方向への変化が多いもの（-）、好ましい方向と好ましくない方向が混在しているもの（±）にわけて、個人別に表示したものが第3表である。全体として、好ましい方向（+）への変化が多いことがわかる。好ましくない方向への変化（-）は、特定の生徒（G子、G男）に集中していることがうかがわれる。

			self	others	father	mother	male	female	teacher	friend
A	m	A		+			+		+	
		B		±						
		C							-	
		D			+				±	
		E		+						
		F		+						
	f	A				-	±	+		
		B								
		C								
		D		±					±	
B	m	G	-	+		+	-	-		
		H		+	±					
		I		+			±	-		-
		J								
		K					±			
		L								
	f	E						+	+	
		F								
		G	±			-	-	-		-
		H								
C	m	M		+						
		N	+						+	
		O		+			+	+	+	+
		P						+	+	
		Q		+			+		+	+
		R							+	
	f	S	±		+	±		+	+	+
		I	+							
		J	±							
		K		+					+	
		L	+							

3 グループ別の特徴

今回の合宿は3グループに分かれて、話し合いが行なわれた。同じ目的をもって、似たような構成メンバーで話し合われたのではあるが、話題も進行状況も、たがいに相異があったものと想定される。そこで、SD法の結果から、各グループの特徴を記述してみる。

第4表は、グループ別に概念変化のD値をまとめたものである。この表から読みとれるように、3グループとも「人」概念に変化があった。(いずれもD値が6.0以上)とみられる。

また、第3表に既に示したように、この「人」概念の変化は、そのほとんどが好ましい方向(+)への変化である。

第4表 グループ別概念変化のD値

	<u>self</u>	<u>others</u>	<u>father</u>	<u>mother</u>	<u>male</u>	<u>female</u>	<u>teacher</u>	<u>friend</u>	<u>(mean)</u>
A	4.94	6.08	4.74	4.66	5.33	4.83	6.43	3.98	(5.12)
B	4.95	6.20	4.62	5.41	7.14	5.82	5.34	4.84	(5.54)
C	5.46	6.23	4.44	4.29	5.41	5.70	6.49	5.88	(5.49)

「人」以外の概念については、グループによって、変化の程度や方向に相異がみられるようである。

グループAでは、「先生」概念にかなりの変化がみられる（第4表）が、変化の方向は好ましい（+）ものと好ましくないもの（-）が混在している（第3表）。

グループBでは、「男性」「女性」の概念にかなりの変化がみられる（第4表）が、変化の方向は（+）と（-）が混在している。

グループCでは、「先生」と「友人」の両概念が（+）の方向に変化を示しており（第3、第4表）、そのほか、「男性」「女性」の両概念において（+）への方向変化がうかがわれる。「自分」概念が、かなり変化の傾向をみせているのも特徴的であるが、この場合は変化の方向は（+）あるいは（±）である。

以上のようなグループ別の特徴は、あくまでもSD法の結果だけからの記述であって、これは具体的な各グループの経過や話し合いの内容と照合することによって、一層明確な意味をもつことになるであろう。

Jan. 16, 1975. 多田治夫記

第 2 部

グループ・プロセス(部分逐語記録)

S D法とQuestionnaireを用いて、今回のグループ・カウンセリングの効果測定を行なったところ、“自己理解と他者理解”という目標の達成度を知ることができた。しかし、それぞれの概念変化をもたらしたものは、何かという、いわゆる参加者の心の変化のプロセスは、これらの方法では知ることができなかった。そこで、私たち相談室のスタッフは各グループの話し合い(12時間)の一部を逐語記録して、グループ・カウンセリングの実態を少しでも知り、できることなら3つのグループの特色をうきばりにしたいと考えた。個別カウンセリングにおいてよく言われるように、話し合いの最初の何分間かが、その話し合いの質(雰囲気)を決めるように、私たちも考えていたので、第1セッションの最初の部分は、3つのグループ共、15分～30分間記録した。しかし、やはり、3時間づつの話し合いを4回積み重ねていくうちに、何回か山場みたいなものが訪れるので、その部分も記録してみた。

グループ A

第1セッション (11/2 (土) 19:00-22:00)

19時には、室に皆が集まっており、それぞれ思い思いの所に席を占めていた。R先生が皆に、録音することの了解を得て、録音機を室の片隅にセットする。R先生がS先生に声をかけて、録音状態になっていることを確認する。2分間程、「この室は寒いなあ」といったことで雑談。R先生の次の言葉で話し合いが始まる。

R先生：そしたらね、あの一、時間は7時、いまちょうどらしいんだけど、これから10時までなんです。ちょうど3時間。10時から後は、どれだけここにいたくても、いちおう10時で、このここを切る。時間だけは、はっきりしてほしい。中味は、はっきりしなくてもいいけども……

E男：3時間も！

R先生：3時間は短い、短い、人生はながいんだ(笑い)……だいぶ、ながい感じした？

E男：ながい……

R先生：椅子があたたま っ て、ねむた ー な っ た 時 分 じ ゃ な い。

E男：うん

A男：スチ ー ム、はいらんかね？

R先生：スチ ー ム、はい 設 備 は で き て る ん や け ど、ま だ ら し い。

まわりの人と、寒いなあなどとざわざわ話し合い、みんな体をゆする。(沈黙10秒) 皆なんとなくまわりを見まわし、3、4人がくすくす笑い出す。

A男：この議題なんや、議題。

R先生：議題？

A男：うん。

R先生：議題は何んにもないんです。

A男：そしたら紹介。

D男：紹介、紹介

R先生：紹介？

D男：紹介はや っ ぱ り 必 要 じ ゃ な い で す か。

E男：シ ョ ウ か い (一 同 笑 い) じ ゃ 紹 介 シ ョ ウ か い (笑 い)

T先生：言い出し っ ぺ。

E男：エー っ と、○ホー ム の E 男 で す …… (皆 何 ん と な く E 男 の 顔 を み て 笑 う) (E 男 も 笑 い な が ら 何 か 一 言 話 す が 聞 き と れ な い)。

R先生：それだけ？

E男：あれ？ ほん な に 言 わ ん な ん の か ？

R先生：いや、それでいいのならいいけど。

E男：おん、ぼくはいい。はい。(F男をうながす)

F男：○ホー ム の F 男 で す。そ こ に い る C 男 君 と 同 じ 学 校 で す。

R先生：どう、同じか……。

E男：学校？

R先生：どう、F男君は鳥越 じ ゃ な か っ た っ け な。

C男：河内、河内、河内、河内、

R先生：あの水没するところ？

C男：ちがう (笑 い)

T先生とその他数名：白峰、桑島、五味島それから……

E男：河内、助かるがね。

C男：ちがう、一部だけつぶれる。

E男：フーン。

R 先生：河内から何人来てる？

F 男：1年が3名、2年が1人、3年がおらん……。

R 先生：そう……1年3人おるから、いいなー。2年1人や。

C 男：(不明)

T 先生：私ですか？ Tです。子持、2人の子持のかあちゃんです。よろしく……。

D 男：ぼく、○ホームのD男て言うのだけど、○ホームて言うたら、男ばかりのクラスで、なんかやかやガチャガチャした、きたねえし、まあ、ここ1年ぐらい、まあ、女の人と話しもないかと思うけど、そういうこともあって、今回はおおいに参加して……まあやる気あって参加したんですけど、まあ、なんとかやっていこうじゃないかと思っています。

S 先生：あの一、D男君を教えている、○ホームを教えているSですけども、1年生、先生して1年生、知ってる顔、ちら、ちら、ちら……よろしく……。

D 子：フフン、こん中で3年のD子です。えっと、3年なのに、なんか、こんなところ来てなんかひまやという人がいるので、(笑い)ほんとにひまなんやけど、何んか、来るところがないし来たみたいで、ほんでも何んか、えっと、話して充実したことができたらいいなあと思っているので……えっと、これだけです。おわり。

A 男：えーっと、○ホームのA男です。えーっと、将棋が好きで、中学3年の頃将棋ばっかりしとって、寝とってても、将棋の棋譜が、棋譜って盤が自然に出てきて、寝れんかってやっとなったけど、今はその情熱も、もう薄れてしまって、何んか、何んとかなく高校生活を送っている状態です。

D 子：あっ私、まだ好きな事言うのわすれとった。(皆大笑い) 私、何んか、ボクシングがすごく好きで、(笑い)こないだ、マホメッドアリが勝ってすごく感激して、その次の日テストやったけど、何んかポッポ、ポッポきて、夢にも何んか、マホメットアリの夢みていた(笑い)

B 男：○ホームのB男です。出身は泉中学で……そして中学の時は柔道やっていて、そして県体の選手に出て、2位になりました。

C 男：○ホームのC男です。河内中学で言うのだれも知らんし、まあ、河内の三人だけで名を広めようといって、ばかなことやってます。(笑い)

B 子：○ホームのB子です。何も別にありません。

C 子：○ホームのC子です。なんか、なぜ来たかといったら、ダンス部に部員入れようと思って1年生の横にきていっしょうけんめい、入りませんか入りませんかといって(笑い)引っぱっているんですけど、(B子とのやりとりになって不明)

B 子：中学校で体操やとった。何んかダンスもすごくやりたいけれど、陸上部入っとるもんで、かけもちはむりだろうと思っています。

A 子：○ホームのA子です……ほんだけ。

R 先生：そんでない？ Rです……(一通り自己紹介が終わってザワザワとする。不明のところか

少しあって)……D男君どう? 一応みんなの名前わかった?……

D男 : 名前はおぼえれんもんねえ、顔はねえ、名前は別に必要ないみたいやし……

R先生 : E男君最初に言うたんやけど、だいぶ皆後で何んやらかんや言うたし、付け加えることないか?

E男 : うん?

R先生 : 付け加えることないかって。

E男 : ウーン／＼

R先生 : いや、むりせんでもいいぞ。(笑い) すぐむりするから。(一同笑い)

E男 : そうだなあー(笑い) えっとね。はじめ僕何んというか、R先生とかにさそわれて、はじめは来ないつもりやったんですけど、あることがありまして(笑い) 来たくなかったという感じで、まあ、今日一晩、あしたちょっと用事あるもんで帰りますので、今日一晩なんと言うか……たのしく……一晩、思い出になるような話しができればいいと思ってますけど……へへ(笑い)……テーブル入っとる?

R先生 : 入ってるよー。

E男 : ワァー(ざわめき)

R先生 : ずっと前から入ってるよー。

E男 : こんな所で入れたら、ワーとなるやろね。

R先生 : なんとか聞きとれるから。

E男 : ちょっとヘタにしゃべると……(一同大笑い)……ねえ、議題というものないがやろ。なんか、議題というか、話し合うテーマというか、なかったら何も話せんしね。

R先生 : なんかテーマ必要か……

E男 : もしテーマ、何か1つあればそれに関連して何か言える。またテーマ変わってゆく、そういうことできるかもしれんけど、はじめなにもなかったら、ぼんと何をする……話し合いだろ。テーマつかなきゃいけないだろ(ざわめき)……

D男 : 僕……沈黙というのも話し合いの1つの手であるというのか、なんかそういうのがあったもんで……何んか経験したいような気もするし、沈黙しながら相手何考えとるかていう、そういうのもあっていいのじゃないかと思うし……まあ、案外いろんなことやってきとるし、テーマは、はじめきめてもいいけど、まあ別にこだわらんとこうやってやっていったらいいのではないかと思うんですけど……。

E男 : そうや、今はこんなもんやけど、……また明日ぐらいになると、みんな話しだしてくると思うし、話しがつまらんということになるかもしれんし……。

R先生 : E男君みたいに、テーマがあったほうがいいのかと思う?(C子に向けて)

E男 : いや、みんなが話しやすいんじゃないかと思って……。

R先生 : C子さんもそんな感じる?

C子 : 私、やっぱり……

D子 :そこからずっと何か一番心にあることをパッパッパーと、恋愛とか、友情とかみんなでパーと言ったら？

A男 :そんなんまた整理するのたいへんや。

E男 :パッと何んか言えばいい、もし友情なら友情についてなんか話してまたそこからこんなこともあったんか、だんだん、だんだんテーマ変えていって……

D子 :何しゃべる。フフン。やっぱり。

E男 :ウーンそうだな。カウンセリングというんだから、やっぱ、ウーン、どんなもんかなー、
(笑い) (ざわめき) 人と人との交わりということについて話たってもいいし、授業中のさ……今、高校時代にどんな考えを持っているかだとか……ほんな感じでいいんじゃないか？

D男 :カッコイイゾ／＼(皆笑う)……(沈黙13秒)

E男 :沈黙のまま3時間過すとおしりがいたくなるだけじゃないかなーと思うし、昼やったら寝ることができるけど……。

R先生 :そういう意味じゃ、ここよかったね。(一同笑う) E男君だけいっしょうけんめい寝るかもしれないけど (E男と笑いあう) ……沈黙ということがでてるんだけど、今のところ全然沈黙はないみたいなんだけどなあー。

E男 :なに？

R先生 :沈黙がないみたいなんだ。

E男 :沈黙か。

R先生 :沈黙というのは、どんなもんかなあー。

E男 :何んか話すことがあるのだけど、まだでんけど。

D子 :そんなにこだわらんでいいよ。

E男 :だから、それが一つまりなんていうかなあー今、みんなこんなこと話してもいいなあーと思うとるかもしれないけど、何んかこんなこと、知らない人らの前で言ったら自分がはずかしいとか、そんな感じでないかな。話しの種があっても話せれんし、それがなんか、なんというかな、なんか、去年行ったやつらの話を聞けば、なんか二日目になると、なんか皆がほぐれてきて、最後には話しやめといわれて、帰るよと言われても、なんか帰るのいやになるというかそんな感情があったという。そんな点でまだなんか相手よく知っていないから……どんなやつだとか……。

R先生 :何か安心してね。

E男 :話しませんがみたい……。

R先生 :ほうやね。はじめてみる顔が多いしね。

E男 :ほんとに僕だって、わりかしはじめての人おるし……。

R先生 :顔はね。なんとなく見たことあるみたいなんだけど、そういう意味じゃ教師三人も同じみたいだね。

T先生：一度や二度のつきあいはあるはずなんですけれども、名前と顔は一致しないですね……。

E男：僕はだから、S先生……この先生全然しらなかって、O先生からテストは今の新任の講師にまかせましたからと言われて、あー、だれかなーと思うとったんやけど。

R先生：講師じゃないよ、先生。

E男：それじゃ、先生、いちおうグラマーのテストの時まわってきて、あーあの先生／＼（一同笑い）……どうしてこんなむずかしい問題だすんだろう／＼（一同笑い）久しぶりに僕がグラマーのテストの勉強したのにこれじゃむりだなあー（一同笑い）不意をつかれたからなあー。

S先生：そんなにむずかしかった？

E男：いや、むづかしかったというか、なぜか平生勉強してないから、山をかけたんやて（笑い）O先生だったら、こんなもんだすなー。だいたい去年の、まあ、一学期のテストの資料をパーッと広げて、このへんだなあー（一同笑い）いっしょうけんめいそこばかりやったら、ひょこんとおかしいとこから出ておった。（一同笑い）

S先生：あー、応用問題出したから。

E男：うん、あれわかったけど。

S先生：教科書からでなく、でもそんなにもむずかしい問題でなかったと思う。

E男：うん、なかったと思う。

この後S先生のテストをした後で感じたことが語られ、学習のことに話題が移ってゆく

第2セッション （11／3（日） 9：00－12：00）

このセッションが始まってから2時間ほどたったところであるが、「先生」「二水の男性」「二水の女性」などが話題となり、皆、リラックスしてきた様子である。

R先生：さっきのA子さんの話しで、A子さん、F男君というのはあんまり知らなかったみたいなんだけど。『二水の男性は……』と言われると、僕はやっぱり頭にくるんや……。せっかく、二水の男性がこれだけいるんだから、そこでこう、話しするというかな、本当にその人を見ていて、青瓢箪やった？ 何やったかな（笑い）本当に思われているんだったら思われている人にとっては、腹のたつことだし。

A子：だから、それはさっき、昨日から、『二水の女性……』って言われたから（一同大笑い）

R先生：ほんなら、『二水の女性……』にひとつ付け加えて、A子さん見ていて、『二水の女性はー』って感じはあんまり受けないね僕は……D子さんにもそうだし、……C子さんは、まだちょっとわからない。ほかの人にもまだちょっとわからない、僕にはわからないということだけだね。……F男君については『二水の男性は……』というのは僕はちょっと、は

っきはわからないけど、さっきの、青瓢箪のことは、あたっていないと思う……（くすくす笑いがおきる）こわいというか、こわいというのは、恐ろしいという意味じゃなくってね。

T先生：何か中に持っているものがあるというような。

S先生：しんが、スーッと。

R先生：うん。

T先生：それが二水の典型的な。

R先生：そういう意味では、すごく伝統というかな、もっているかもしれない。いわゆる、青瓢箪的な表面に現われてるね、そんな軽いものじゃなくてね、大きいものが、二水の生徒として何んかもっている。まだよくわからないからね。そんなふうに、F男君気持ち悪かったら何んか少し訂正してくれよ。

F男：いや、別に気持ち悪いことはないけど、……1年の時、最初2週間くらい、ほとんどだれとも口きかんで、その時にも、何んか、先生が、ものすごくこわかった言うって……。

D子：ほんでも一人でおれるっていうのは、やっぱりちょっと強いじゃない？、やっぱりなんか強そうに見えても、やっぱり一人でおれんで、何んかほら……皆とほら、休み時間なんかでも、輪になんか集まってばかりしかおれん人おるやろ。あんなん見たら、ちょっと弱いような気がするし。

R先生：今、F男君みていて、どんな感じる？

D子：私、私に似とらんというところあるなあー。私。だって、何か一人でおったら、いい時もあるけど、何んかすぐ、一匹狼なんか、かっこいいなあーと思うけど、ほんなふうになれんような気もするし、でも、なりたいなあーとも思うし。

R先生：F男君も、一匹狼的な感じが自分の中にあるような気がしてた？

F男：まーあるでしょうね。ずっと、だれに対してでもしらじらしいというか。そんな気持ちをもっていた。自分から何んかしていこうというのが、あんまり……かけとるみたいで……いつも一人でおって……。

D子：まだ、一人でおれるときは、一人で、一人でおらんなん時があると思うけどね。一人でおらんなん、あれ？一人で……いなければいけない時が、あると思うのや。（笑い）

E男：まあ一応、僕だってね……。

D子：でもいつも一人やったら、さびしい気もする。

E男：そうだね。

D子：ねえ。

E男：僕は絶対、何んか一人、夜一人でこう……何んていうか、一人で、ウンウンとな、考えごとすると、そんなことは好きな方やけど、何んか人がまわりにおればねえ、がばっと、そしたら、俺、やっぱり、自分は一人でおれん……。

D子：私も／

T先生：たくさんの中におっても一人でおれるっていうような人は強いね。

E男：だから、そんな、そんなことできることは、根本的にね。僕ら、強いと思う。僕は、弱いからすぐね。人がまわりにガヤガヤしとるとね。入ってゆく／＼ 自分で、こう、きちっと、ウーン、というか、できん。

D子：なんかいっぱい人がいて、たのしい感じやって、自分一人はなれとったらなおさら、なんか寂しいというか、孤独って気がして。

E男：まあ、まわりにだれもおらんみたいというときは、一人でいくらでもおれるけれども。

D男：そうね。

E男：おれることはおれるけど、まわりにガヤガヤいると、あー、一人や……。

D子：私、よく、自分一人でなんか考えたい時あっても、なんかまわりのことが 気になる時、自分、弱いな—と思うし……やっぱり、一人のときと、皆んなで、あの……皆んなでエット、おれるときと、両方もてると一番強いな—と思うけど……。

E男：でもやっぱりね。たくさんの人の中におってね。自分一人こう、孤立して、なんとなくやっぱりなりたいたいと思ってというか、そんなんじゃなくってね。じっとこう、なんとも思わず、ずっとおれるっていうことは、ほんと、心、強くないとできることじゃないと思う。

R先生：なんとなくまわりに合わさないと不安？

E男：したいけど、したいけどできないというのとまたちがってね。まだまだふらふらと（不明）僕はそういうことができませんね。一人きりになって、一人ぼっちになって、一人で考えるというか、まわりにガヤガヤ騒いでいるのに一人ぼっちになって、なってしまうて（以下不明）

D子：ほんとに皆んなでおりたいな—と思うとき、おれたらいいのだけどね—。なんかそうでなく一人でおりたいなあ—と思うときでも、皆んながパーツとおると、なんか皆んなのそばに行きたいような寂しいような気がして、そんなとき、ちょっと弱いなあ—という気する……ほんなことわかっていて、なんか重いな、皆んなと遊び、自分でおりたいな—と思うときもあるし……。

（誰かのため息）

R先生：C子さん、どうした？

E男：おなかへってきてね（笑い）朝あんだけのおかずやろ、まいった。

C子：やっぱり、なんか皆んなといっしょにいないと、不安やし……。

E男：女の子、特にそういうこと強いみたい、男はあんまり。

C子：ただトイレにいっしょに行くって、安心するやろ。あれかって、友達、やっぱりそういう形式的なことよりも、なんかいっしょにいないと、……それが。

（数人が、トイレにかけて『安心してできない？』で一同大笑い）

C子：それはそう思っても、友達なんてものは、それにあてはまるものだし

R先生：だれかといっしょにいるってことの証拠……。

C子 : ウン、ウン、……だから安心できる ところもあるし……。

R先生 : (不明) 楽しい感じの友達とちがうの？

C子 : ウン。かえっていやな気持ちのときもあるし、いっしょのときにかえって、なおさら、自分が孤立しているな—と感じたときもあるし……すごく合わせて、合わしとる自分があるみたい……。

D子 : 休み時間なんかでも、ワーッとかたまるやろ、ね……あの絶対きまっているようなグループが、あんなになると、たいていみると、イヤダナ—と思うけれど、たまに自分がそこに入って、皆んなと話すと、ただ楽しいな—という思いで、でも離れてみると、イヤダナ—と思う……。

R先生 : 皆んなの中へ入っていても、グルグル—とまわりみまわしても、皆んなと離れていると、すごく不安な孤独な感じがするんだね？……。

D子 : なんか、倫社でもあったけど、なんやろ都会の孤独とか、そんなの。
(誰かが、ハア—とため息をつく)

D子 : なんか、たとえば 片町とかで、一人でおって、ボケーって、なんかボケーって、あのーバス停とかで待ってたりなんかしとって、パーっと人の通りすぎるのを、ザーって、ジ—っと見とったらなんとなく、皆んな別人に見えてきて、なんとなく、なんかいなかの真中にいるより、もっと寂しく感じる……。

S先生 : 孤独には、2通りのタイプがあって、今みたいな、誰も、誰もいないところでの寂しさと、多勢の人の中にいてしこたま孤独を味わう人と2通りある。

D子 : 都会の孤独の方が、きびしい気がするな—。

E男 : きびしいどころか。

D子 : 冷たいような。

E男 : 自分自身、こわれるかもしれない。

D子 : ウン……。

C子 : 山やったら、自然にとけこめるから、かえって。

D子 : そうそう……自然というものがあるからね……。

E男 : (不明) 山ちゅうのが好きだな。山から下をみおろすというのが…… (不明)

R先生 : F男君、今……このグループの中におって、どんな感じ？……。

F男 : (不明) ……僕入学してそれからだれとも親しくならんで、ずっと一人だけで、まわりに知ってる人が全然いなくて……。

R先生 : 知らぬ人ばかりの中 (不明) ……。

E男 : すごい沈黙ですね。(皆ふっと我にかえたような感じでまわりをみまわす)

R先生 : いやかった？ 沈黙してるの……。

E男 : なんとというか、スーっと沈黙になったやろ、ね、なんか、いやな感じしなかった。

D子 : 気持ちいいねえ—。

E男：不思議だ一と思って、今、考えとった……なんか話しが、フーっとなつたね。

S先生：F男君の胸に、スーっと引きこまれた感じがして（多くが、自分もそのような思いだという顔をしてつぶやく）

E男：何んか僕も、そんな感じして……これが調和という感じ（笑い）……。

D男：（不明）

R先生：（不明）

D男：僕……僕なんか、どっちかいうたら、たまに、きのうの夕方かって、ヒョンと外へ出ていって、空ずっと見とったけれど、わし、昔、空飛びたいと思ってた。

T先生：ウンウン。

D男：ま、そんなことは、いいとして、ま、僕、ときたま、そんなことするのもかも知らんけど、えっと、別に、僕、一人でもいやんないがえ。そりゃ、皆んなおっと、皆んなおるとワーってさわぐし、誰……ちょっと知らんでも、誰にもオースって……あんまり言わんかな？ ちよっと誤解される時もあるけど、なるべく、そういうふうに、あるときは、パーって自分を出せばいいがえ。ほうかっちゆうて、僕、別に、なんで一人になるかっちゆうと、一人になった時に、えっと、いろんなことを考えてみるがえ。そしたら、そしたらまた、皆んなのどこ行きたくなったりするし、えっと、そういう点では、僕は、そういうものに流されとらんと自分では思うとるがえ……ほんで、たまに町へ、僕、たまに、人の顔見た一なってくるがえ……町なんか一人でいって……おもしろいよ、まあ、寂しい面もあるけどまだまだ捨てたもんでもないな一と思うし……なんかおもしろいね。だまって人の顔見とると……。

R先生：（不明）

D男：こんちは、こんちは一って言うの、わりと、おれ、挨拶っていうの、あんがい好きでね一 こんちは一とかね、あんやと一とかね。なんともいえんね（笑い）ほんとに僕、ああいうこと好きやね一（笑い）あんやと一、いさましいけどね、なんかうれしいね一。で、店でものをこうてもね一。

E男：僕の小さいときはよく、おふくろにつれられて近江町行つたけど、おもしろいぞ、あんなの（口まねで）『さあ、いらっしやい、いらっしやい♪』僕もまねするがや、あすこ行ってね。『さあいらっしやい、いらっしやい』（笑い）……。

R先生：なんか、D男君は、一声かけるだけで、なんか、すごく。

D男：僕は、学校でも……たいてい、ほんなん（そんなこと）しとるんやないかと思うけど……別にそれは……どうのこうのいうのじゃなくって……ただね、ぱっと……。

R先生：なんとなくね……無理してやってるのじゃなくって、そうすることで、

D男：別に無理……だから無理じゃないから……そうやし僕は。

E男：スーパーマーケットで買物するやろ、近江町で買物するがと、買物の張り合いが、ちごてくる。

T 先生：ウン。

E 男：あすこやったらね。『これ一もうちょっとまからんけ一』と言うと、『よっしゃ／＼こんだけや一』って、ほんながで。スーパーマーケットは、ガランガランガランガラン（笑い）僕のお友達にね、知りあいあって、あそこの店出しとるとこのね、一回、去年の夏休み、泊りにいったとき、そいつがバイトでやるいうとったとき、わしもやらしてくれ言うて、『さあいっしょい、いっしょい、いっしょい』いうて大きな声出して、おもしろいな一。こんな仕事おもしろいな一っておもった。へたな、そんなマーケットとかやるより、やっぱり、こういう、なんていうか、自分がやる『おい／＼こんだけ安くするぞ／＼』ああいうの楽しい商売やな一と思うて、なんかこういう、あんなふうにしとると、生きがいがでてくと思うがや。

S 先生：そう／＼生活があるからね。

E 男：やっぱり、ああいう生き方一大好きやね。大好きというか、あんながやりたいと思ってね、なんかそういう感じがや……生きがいていうか、そういうの感じる。サラリーマンもね。やれば、出世できるし、生きがい、あればあるけどね。なんかね。その会社なら会社の一人にしかすぎない。でも、なんかね。一人でやれば、自分がそれ全体やろ、そんな感じになったりする。

D 子：ほんな、歯車的なのが、いやなんやろ？

E 男：ウン……自分が働かんとけば、金入ってこんし、働けば働いただけ……。でも今すぐそれできるかっていうたら……だからね。

R 先生：（不明）

E 男：（不明）……先生も、生きがいあるかもしれんけどね。

D 子：先生が一？

E 男：やっぱりそう考えるかもしれんけど、やっぱり僕としては、先生に、魅力、感じんがや、……やっぱり先生ちゅうたら、大先生、そこらじゅうにおるもんやね。見てきとるしね…。

D 子：わたし、〇〇先生に『先生になるが絶対いやや』言うたら、『D子さん、先生になったら、人気でるよ一』って言うて、『あんた学校サボルさかい（授業の）カットいっぱいできるさかい』って（一同大笑い）
先生なるがやったら 土方するわいね一（一同大笑い）でも、力仕事って、なんか好きな気がする……。

E 男：僕もね。土方、金あたる（もらえる）さかいって、土方たくさん金あたるわけや。土方して金 ためるかと思うてね。土方可ったけど、一日行ったら、次の日もうだめやった。

B 男：わしも、土方、夏休みやったがやけれど、あれで、お金のありがたさっていうものを、しみじみ……ものすごい、心に感じたわ……。

E 男：金ほしいさかい、なんかバイト、いいがないかって、土方もうかる／＼ よっしゃ、土方やちやるわいって、一日行ったら次の日、肩痛いし、そこらじゅう痛いわいね。

T先生：ウン。

E男：次の日休んで、また1日行って、そしてそれっきり、3日ほど行って1万ちょっとあったけど。ほんで終わった。

R先生：B男君はどんなん？

B男：あー、あの一、道路のガタガタのところ、そこのだこべこ無くすがに。それがまた、炎天下で、頭から湯気あがるほど、その日はものすごい暑うてね……。

E男：僕、ヘルメットかしてもらったけど、ヘルメットかぶれたもんでないね。ものすごく暑うて……ほしたら、若い人きて『だら／頭に水かけてヘルメットかぶるがや』って（皆大笑い）そんながで、身体中、もう、まっかになって……冬せいちゃうたら、冬かってひどいやろ……ベチャベチャになって……あんなん考えたら、土方いくら高いっていうても、安いやろなーって思う……。

R先生：B男君は、はじめて自分でお金かせいだの？

B男：いや前にも、新聞配達して中学のとき、ほんとき……一月、一月が2千円ちょっと……ほんでもまあ、はじめて、はじめてもらったとき、ものすごい嬉しかったけど、ほして、今年の夏休みやったとき、1日、3千円で8時間やけど、ほんで、やっとなら、ものすごいつらいがや／

R先生：ウン。

B男：だから早く12時にならんかなー、12時にならんかなー、そればっか頭にあって、ほんでこんど、昼めし食べたら、早く5時にならんかなー（一同大笑い）そればっか／毎日同じ繰り返しでも、そんでも、そこにも、いろんな人がおって……なんか大人の一面ちゅか、そういうとこ見れたし……ほして、なんか ダンプの運転手に、ちょっと、暴力団みたいな人おったがや、その、関西の方の人やけど、そんでもその人、あの一、外見的にはおそろしいけど、……なかなか、人間やなーって思うた。……。

E男：僕は3日（笑い）、ほんでちょっと純喫茶でも、パーテンみたいなことやって。

D子：パーテンやっても、ひどさわかる？

E男：なかなかひどいね。あれも。1日じゅう立っとらんなん。足のうらが、イターなって、家帰ったらもう、足あげて寝るもン。つかれてね。ほんなん、やっぱ、ひどいわい。らくそうに見えても……やっぱ、見ればね。あんなん、ちょっちょつとやって、らくやと思うやろ。ひどいもう／

C子：ずうっと立ってとるだけやろ？

E男：立ってとるだけやろ……立ってとるだけでもね。単独の仕事ちゅうのは、一番ひどいわ／だからデパートの売り子なんかも、ただ立ってとるだけで金あたるさかい、らくやろなーと思うても、立ってとるということ単独で、ものすごくひどい……僕、しょっちゅう、お客さんおらんがなったら、ソファーに、ワーって……

D子：なんかねー。昨日も言うたけど、なんか、就職になるかもしれんとか言うってたけど……

なんかほんな、なんか自分の考えに、甘いな一って思うとき、ようあるが一、なんでかな一って、よう考えたら、やっぱ、自分で、ほんなアルバイトもしたことないし、自分でそんなお金かせいだことなくて、いつもお小遣『はい』言うてもとるやろ。ほうやさかい、ほんなところから、なんか甘い、ほんなと絶対甘いからね。お金なんか、ほんな、ガバッと無駄遣い、ようするし……ほうやさかい、なんか、自分が働らいて、もう少し、厳しくなれるかな一って思うて……ウン……ほうやさかい、ほれでもいいな一と思う。やっぱし、働かな、お金のありがたみって、わからんような気がするし……。もろとったら、なんでもすぐ、パッパと買いたくなってね。ほうして、買うたあと、むなし一なってね……。

このあと、D男が、本当に労働している人に接してから、自分の浮わつた考えに気づいてきたことと、最近、親に対しても理解的な気持になってきた自分を語り、親に対する思いがそれぞれ述べられる。C子は、母親は、おろかな方がいいと語り、C男、B子も、自分の親に対する思いを述べる。

第3セッション (11/3 (日) 19:00-22:00)

このセッションが始まってから、約40分ほどたった頃であるが、E男が、自分をふりかえり、失敗はしたくないが、失敗してでもやってみたいことのある自分を語り、1年生を見て、なにを今考えているのか、思っているのか知りたいと問いかける。そして、3年間で、アッというまに過ぎてしまいそうな不安を、自分の中にも、1年生の中にも感じるということを話す。

E男 : どうですか、A子さん。

A子 : だいぶ変わったみたい。中学の時から比べると、〇〇中学自体が……なんていうか……3年の時にね。クラスの先生が案外きびしい先生で、テストの前なんか、よく電話かけてきてそして『勉強やっとるか』。

A男 : だれや？

A子 : 〇〇先生。そして、なんか、えっと、先生にしきられているというか……そんな感じやったがや。やっぱり、二水入ったら、規則とかそんなん、厳しいというけど、やっぱり中学から比べたら楽で……ハメをはずしすぎたというか……遊びすぎた感じ……。

R先生 : お尻をたたいてくれる先生が、いなくなったみたい？

A子 : うん。……

E男 : 今、B男君、柔道やっとるがや？

B男 : 2年生、なんもこんがえ。〇男とか〇男とか、サボってばっかり。

A男 : ○男って、部長か？

E男 : ちがういね。○男がいね。○男は、あいつはもう、な……○男は……今、やっぱ、1年としては、学校で、クラブならクラブやるって、そんで、精いっぱい？……

S先生 : 何んか望みある？

B男 : 今なーん。そんな、ひまーないっていうか……なんていうかな……宿題ばっかりに追いまわされているというか、ほんなような感じやね。

(大勢) : 宿題かー。宿題ほんなにあるがー？

B男 : 数学／ ○○先生ものすごく出すやろ (ざわめき、笑い)

E男 : ありゃ、宿題のオニでないけ／ (一同、大笑い)

A男 : ほんなん、すごいね。

B男 : ひどいぞ。授業／

E男 : 宿題ということば、ほんとにひさしぶりや。

D男 : 宿題かー。

R先生 : おわれてるか。

B男 : 英語なんか、予習していかなしたら、学校で、先生、すぐ「これ訳せ」て言うて、そして訳せんたら、『君なぜしてこなかったの？』って理由きいて、また『ひまがなかった』って言うたら、『なぜ、ひまがなかったの？』 (一同笑い) ずーと追求してゆくがえ。ほしたら、生徒、なんも言えんがになって、そして、絶対、予習してこなー、なまけもののわけ、なってしまうがや……。

B子 : わたしら予習してこんかったら、「次のときにまわします」で予約するがや。

S先生 : ××先生やろ。

D子 : ××先生？

B子 : うん。

D子 : あの先生、いいねえ、……私、一番最初、××先生見て、なんかものすごい厳しい、嫌いやなーって思うて、ようね、なんか、先生になんか言うと思ったけど、よう話しとったらものすごくいい先生で。あの先生のおかげで、で、なんか、英語が、ものすごく好きになったみたい気がして……もう、ずーっと、あの先生、ほんとになんか、英語にしては、恩人やなと思うとるがえ……ほして、ものすごくなんか授業が、ものすごく充実しとーるやろ、ね。

B子 : 休み時間もやるしね。

D子 : あの先生、一時間びっちり聞いとったら、あー、もっとしたいなーって気もするしね……なんか。

F男 : わしら、グラマーの時間、15分ぐらい、質問されても、全然答えんと (笑い) おこられた。(一同笑い) ひとつとも言わんと……まわりの人、答えおしえてくれたけど、言わなんだ (一同大笑い)。リーダーの時間になると、次々にあててゆくがえ。わからんたら、

『はい次／ うしろ／ うしろ／』って。

E男 : ××先生もそうや。××先生もそうや／ わからんだら、すぐ次／……答えようかなって
思うとるとき、『はい次／』って……ありゃ。(笑)……。

C男 : ○○先生、絶対一言、言うわい……してなかったらおこられるしなー、『おまえ、ここ大
事でしょ』って。ほしたら、『すいません(小さい声)』……(一同大笑い)……

D子 : ○○先生、すっこしも、すごまないね。……え……(一同あっけにとられ、そして大笑い)

C男 : おもしろいがいや。

D子 : おもしろい？

A子 : だけど今、先生かわったがや、今、グラマーの先生……そしたら。

D子 : ○○先生て、あの○○先生……。

A子 : ○○先生から……名前知らんけど……。

S先生 : D先生だな。

E男 : D先生？

A子 : 女の先生。

S先生 : △△先生、きれいな人。

E男 : あ、△△先生。

A子 : ほしたらーね。私の友達っていうたら、英語の好きな人あんまりおらんがや(一同笑い)
そしたらね。なんか、えっと、グラマーの時間、最初いやーやったがえ、あの、なんか、
パッパッパーと順番やなくてね、いろんなところあててくしね。順番 やったらー、まだ
まだこんでいったら……なんか、ゆとりあるけどね……なんか順番でないから……かなら
ず授業きいとらんやろ……それがなんか、今の先生にな ったら……順番なんけどね、わか
らんかったら、1人に20分ぐらいかけるがや、そしたら、最後にな ったら、半泣きにな
ってやっとし、私の場合、今のところまだ無事やけどね。いずれそうなるし、だから、
そんなん言うもったら、○○先生よかったなーっていうか、わからんかったら、その前に
10題ぐらい、簡単なんパッパッパーってやって、最後にそのむずかしいがを、パッと
言ってくれるがや。そして、その先生、むずかしいがをいきなりやれ って言われてなんか
わからん って立 っ ったら、だまったまんまで、20分かけるやろ。それで、クラスの子
ら、グラマーの時間にな ったら、皆、机を、後の方にや っ て、皆く っ つけて、もう、なん
か、団 結 するがや。だから、そんなん、今の授業や っ たら、○○先生がよかったという
感じ……。

このあと、学習についての苦勞話しや、中学の思い出話しなどが楽しく語られる。英語
のいがてなA子をC子やS先生を中心に皆がはげました。

グループ B

第1セッション (11/2 (土) 19:00-22:00)

各自、おもしろい場所に所定の時間までについている。2年生男子、1年生男子、女子と3つに分かれて座っている。3人の先生がその間にそれぞれ座る。最初U先生がテープをとることについて説明すると、L男が難色を示して、重苦しい雰囲気になったが、G子が昨年のことを話して、テープをとることについては全員了承する。沈黙20秒でスタート。

F子 : U先生、先生、司会ですか？

U先生 : 司会ということはないがやけど。

F子 : なんか全然、話が出てこないし (笑い、苦笑い)

K男 : 僕も、いっぺんZ先生に話聞いたことがあるけれど、U先生はこんな場に立った時、いつも黙ってて、みんな、なんか話し出すのを待っているというのを聞いたことがあるけど……。そんなになったら、最初の方で出しにくいし、やっぱり話題を変えるかなにか……。

F子 : G子さんじゃないけど、ほんとにもったいない。ねえ。

K男 : なにしたら良い？

F子 : だから先生、決めてないんですか？

U先生 : 別に……。

L男 : 最初、一応、決めといて、あとかわっていったら……。

G子 : そんなことより、こんなこと、言いたーいという人、おらんが……。いいたーいという人……。

U先生 : なんかほんなら、こう、やりたいこと、みんなで、一人一人言ってみる？ 今、なんか、あの、アンケートみたいなもの、とったけど、あの、ちょっと。みたけど、今とちょっと気持ちが違ってくるかもしれないという気がするけど。とったときより……。

F子 : 先生、とにかく、きっかけに、なんか話しないと、全然話が……。

K男 : あとは何とか……ボソボソ……。はじめは半強制的みたいな感じで、やった方が……。そうしないと、あとつづかない……。

U先生 : ほんなら、強制して、一人一人、言いたいこと、話してください。言いたいこと。

H子 : え〜と。夏休みの35ホームで、やっぱし、こんなような合宿をやったんですけど、その時私たちのグループは、なんか恋愛のことについて、話し合ったわけで、なんか□□先生の思いがけない奥さんとの、なんか、墮落の話について、先生とか、あの、みんなの今まで知らない面を、いっぱい知ったし、なんか、恋愛ですごく、話はずんだし、私、こういうことを聞きたい……。どうぞ。

I男 : あっ僕。え〜と、一学期のとき、能登青年の家でなんか合宿してた時、え〜と、そんな時、こういう、ディスカッションをやったんですけど、はじめ、なんか、人間の理想について

とか、そんな恐ろしいと言うか。あまり、ちょっと何か答えの出ないようなことについて、話し合おうとしていたんですけど、ものすごく、みんな、うまくいってね、え〜と、まあ、あの、なんちゅうかあの、成功したというか、そんなんですけど、え〜と、まあえ〜と、はじめ話題、出なくてもいいから、ちょっと待って、まあ、え〜と、いろいろ、みんなから、言いたいことをそれぞれ、え〜と、言ってもらって、自分では、何か、やっぱり恋愛とか、男女の異性についてやっぱり話してみたいんですけど、え〜と、そんな風にして、やっていって見たら良いんじゃないかと思います。……次、どうぞ。

H男 : おれも、恋愛のことについて、話した方が、話が、とんとん拍子にいくんじゃないかと …… (笑い)

E子 : 私も男女交際のこと、あと友達のこととか……。

W先生 : みんな言うてもいいですか。あの仕事がなんていうのかな。こぞんじの人、いらっしゃるかな。むかし、いや、ちがう、今年の3月まで、加能学園という、こぞんじの人いらっしゃる？ そこ、名前がかわってね、4月から、そこの方たちと色々授業とか、生活のことについて、やとるんやけれど、仕事そのものの類から、児童相談とかやとったわけやね。そうすると、だんだん、こう、言うてみると、かたよっていくんやなあ。よく、子供がわからなくなるみたいになちょっと、言い方、悪いかな、なんか、そんな感じで、自分に子供おるんやけれども自分の子をみても、全然、おかしくって、私は、今、いっているところの、子供の生活をみても、もっと、しっかりしている。そんなんで、少し、こうわからんようなところがある自分が、こう、毎日いっしょに生活している子供がわからんで、いっしょに生活しなくって、学習場面における子供が非常にしっかりしている。その辺が、なんでおきとるのかなあという疑問をずっと、持っておるもんでね。

そういう風になっているのは、私自身の態度なんかなあと僕は、思っていますので、そんなところで、君たちと話ができれば、いいなあという感じで、今日来たんかなあと、そのようなことで……。別に、特にこんなことを話したいということはないんで、なんでもいい。話し合いができればよい。こんな感じでいます。

G子 : JRCの宣伝に来ました。1年生、一人もいないのよ。もうつぶれそうで倒れかけてて、部長さんもやめたいといってるし、もうほんとに、倒れかけなんだ。だから、JRCに入りましょう。どうぞ。

F子 : 私はとにかく、なんとなくみんなと話したくてきたんだけど、きのう、テスト終って、クラスの子たちと、話したこととかね、さっき、ちょっと集まって、話してたのは、わりと宗教のことに最近、興味あって、みんな宗教のこと、どういう風に考えているのかなあと、思っ、みんなの考え聞きたい。

G男 : ばく、やっぱり男女関係。特に…… (笑い)

V先生 : あっ、無視された。

G男 : あっ、どうぞ。

V先生：僕は、あの、今年、カウンセラーの一員に加えられたんやけど、現在、今は、10年も違えば、生徒の考えも違ってくるというんで、高校生の考え方が、わからん面がたくさんある。それでまあ、具体的に、どういうことを考え、どういうことを悩んだり、どういうことを希望しているのか具体的に聞きたいという希望をもっている。それと今、JRCの話がでたけれど、演劇部も、一年生は一人もいないんで、どんなんか知らんがやけど、顧問が悪いせいか知らんがやけど、もしもその話がでたら、参考にしたいと思っています。

G男：僕は、まあ、なんでもいいんですけど、やっぱり、男女関係が、特に、やっぱり、2年生の男の人に、今頃、やっぱり男女関係で、どんなことをやっているかということを知りたい。

L男：僕は今、27(H)やろ。男ばかりやろね。たまにこうやって、女と話さんなんかなと思うし、そんないと、ちょっと考え方も、変なんになるがんないかと思うし、まあ、なんでもいいわけや。

K男：僕も、何でも……心ひらいて……。何でもばあ〜と気楽に話していけばいいと……で、今、男女関係とかいっぱい出たし、それで……何でも好きなこと話していけば……。

J男：僕もまあ、何でもいいがやけど、最初、一口、出して、あとは、どんどん話……題は、そらせて、まあ、何でもいいし、少しでも、ここにいる人を知れたらと……。まあ、そういうことです。

第2セッション (11/3(日) 9:00~12:00)

2日目に入ったためか、大分、緊張感がとれて、やわらいだ雰囲気になったようで、最初雑談が続いている。中には寝不足気味の者もいて、ぴりっとしたところがないように感ずる。そのうち、急に静かになり、誰か、今日の話題を出さないかと、お互いに顔を見合せながら、互いの様子をみているようで、沈黙状態に入る。沈黙4分20秒でスタートする。

V先生：話出ないの。

K男：僕……(聞きとれない)

V先生：H子さん、今日なんかしゃべりたいことない？

H子：しゃべりたいこと？うう〜ん、だれかなんか言って。

……沈黙……(1分20秒)

V先生：他のグループで、何か別なこと。きのう、きのう、このグループに出た以外のこと出なかった？全然聞かなんだ？

K男：うん、こっちから、きかなかったから、向こうからも言わなかった。

……沈黙……(1分35秒)

V先生：G子さん、なんかない？思っていることがあったら、なんでもいい。なったら。

G 子 : ……。

……沈黙…… (1分45秒)

H 男 : 二水の生徒といたら、なんとなく、みんな、無気力な気せんけ？

L 男 : するな。

H 男 : 何に対しても、「じゃまくせいわい、なんやこんなもん」とか、「だれか、やってくれるわい」とか、そんな感じで。何に対しても、中途半端ちゅう感じあるげえ。勉強に対しても、部活動に対しても。

L 男 : 僕、思うげけどね。なんちゅうか、結構、先生に、責任あるような気がするげけどね。なんちゅうか、例えば、修学旅行もないやろ。「この、なんで、ないがや」と言いたくなるんやわ。修学旅行なんか、ほんとうに、高校時代の中で一番、おもしろいもんやと思うがやけどね。なんで、こんなんしてくれんがやろねと思うげ。なんか、校長先生が、二水なんとかの年だと、さわりどるけど、なんちゅうか、おかしいがやね〜。文化祭なんかにしても、あんまり、先生は、力、いれんやろ。泉(泉ヶ丘高校)なんかと、比べてみたら、全然ちがう。そんなんで、ただ勉強だけで、こうやって、何とかの年、何とかの年と、騒いどるような感じで、ただ、あほらしいと思うげ。なんで、こんな修学旅行もせんげろなと思ってね。先生方も、だいたいわかると思うげ。一番、こう、高校時代の中で、なんちゅうか、一番、残るもんやしね。ただ、先生方、だれも、めんどう、くさいから、せんがないが。こんな、中には、こうやって、しようという先生も、おってもいいような気もするけどね。ただ、こう、勉強だけ、やれやれちゅうとったら、こんな感じになってしもうがでないかね。

H 男 : なんか、修学旅行のかわりに、研修旅行という中途半端なもんやろ。文化祭にしても、腹立ってんけど、部入っとるちゅうて、みんな、役、降りるげ、やってくれんか言うたら、「僕、部の練習あるから、だめねん」というんで、僕は怒って言うてやったんや、「一週間ぐらいなんじゃ」て、「どうせ、2年生も、3年生もどうせ抜けるんやから、いろんな仕事で、一週間ぐらい休めんかいや」。僕、ほんとに頭に來た。そんなとき、なんか、無気力、ちゅうかな、みんな……。中途半端ちゅうか……。そんなん、大っきらいや……。

H 子 : さっき、L男君、先生に責任あるちゅうたけど、修学旅行をしたいと思ったら、みんなが、そう思っとるわけやろ。じゃ、なんか署名運動なんかして、先生に働きかけたらどうや。私ら、去年、2年生のとき、運動会なかったやろ。一年の時、あったわけや。で、今年みたいじゃなくて、なんか、おあそび的な。それで、去年の33ホームの生徒がすごく運動会やりたいって、最期の年やし。そしたら署名運動はじめたわけや。だから、なんか、無気力な人も多いかもしれんけど、L男君ら、やりたいと思ったら、働きかけてみたら？

L 男 : 一回、そう言ったこともあるんやけど。みんなに。でも、やっぱし、誰もついてこんかったしね。クラスの中で……。最初、入ってきた時から、そういう感じしたもん。

H男 : はじめからピーンとくるんやろ。

G子 : でも、なんか、そんな人ばっかし、二水へ来たわけではないやろ。学校の雰囲気かね。

L男 : 先生もなんか、怠慢じゃないがかね。文化祭にしても泉やったら、一週間前から、半日やろ。

V先生 : それは生徒の問題やろ。先生がものすごく協力するわけ？

L男 : こんなん、なんかやろうちゅうても、みんな先生が押さえるもん。

V先生 : 泉はものすごく協力してくれるわけ？

L男 : そんな感じやけどね。見とると。

H男 : ほうかといって、勉強の方できつくやっとなるかという、そうでもなくて、中途半端ちゅう感じやろ。二水の中興の年やて、M先生言うとするけど、なんか具体的にぼくらの所へ、来たかな。なんもなかったんじゃない。

L男 : なんか、その年から変わったことやっても……。

V先生 : 他の人はどうや。L男君らの意見に対して。結局はL男君らの言っているのは、勉強もやり、クラブもやり、そういうこと？

L男 : そういうことにもつながると思うけど、なにかこう、おかしげなあ。

V先生 : たとえば、今言ったように、勉強に一生懸命になっているのがおるわねえ。なかには。そうすると、生徒会のそんな仕事をするのもいやだし、文化祭に協力するのもいやだと言うのが出てくるやろ。そんながおるやろ。そんなのどう思う。

L男 : そんなんは、結局は、無視するしかないな。

V先生 : というのは、今、H男君なんかは中途半端なんはいやだと言ったやろ。そしたら、徹底して勉強するのが出てくるやろ。そういうのどう思う？ 何か中途半端はいやという意見が出たから。

H男 : 何か一つのことに熱中できるちゅうか、こう、単純に、こう、物事に没頭できるちゅうかそんな風にならんかという、そんな意味で言うたんやけど、勉強なら勉強に没頭できるというか、文化祭なら文化祭の時に、そうになったら他のことを何も考えないで、必要な時は没頭できる、そういう人が少ないんじゃないかなと思う。例えば他の人に対する体裁とか見栄とか何かあって。……沈黙…… (10秒)

U先生 : L男君は何かちょっと違ってとられたみたい？……沈黙…… (3分)

V先生 : さっき、ちょっと出た去年の運動会のことなだけどね。僕は、先生の方にも悪いところは大分あると感じとるけども、それに対して、もう一つは、生徒の中にも、矛盾したところがたくさんあると思うんだ。というのは去年の運動会の問題は、僕のクラスに生徒会長や、執行部がいたんだけど、あの連中が決めたことなんや。実際ね。運動会をやらないうと。僕なんか去年、二水へ来て、運動会をやらないうかと驚いたくらいで、僕もやりたいのだけれど、やりたいと頑張っても生徒会がやらんといえればそれっきりだし、それで会長に、運動会をやらないうかと聞き直したわけや。そしたら、「やっても、なんも生徒は一生懸命にならんし、やらんがや。ほんで、生徒議会で一学期の時はっきり決まったんや」

と、二学期になってあの問題が出てきたわけやろ。生徒議会で決まったのに。それがまた、先生がやらないということを決めたように誤解したのもあったわけや。それで、署名運動して、校長の所へ持っていったと。校長は、これは先生がいやというのではなくて、生徒議会で決まったことなんやから、勝手に変えるわけにいかないというのになって、それっきりになったわけやろ。そういう風に生徒同志の、生徒会執行部の悪い面もあるのだろうけれども、そういう誤解とか矛盾した面とか、考えの違いとかが、たくさんあるんやと思うげ。そういうこと感じるね。

G子 : なんか生徒会と、なんか普通の生徒っていうかな、離れているみたいない感じ。なんか生徒会一、なんか別箇のものみたい感じ。なんか連絡があんまりないっていうか、知らんうちに決まってしまうって、ほんない感じ。

V先生 : 生徒会に関心あるのも少ないんじゃないか？ そんな感じするけれども。立候補なんか見てるとね。結局ほら、最初告示しても、なんも全員そろわない。こんどみたいに補欠でやっと定員を充たすという状態やろ。

G子 : なんかそこにもやっぱし二水の無気力さというものが、出ているみたいな感じ。

H男 : 何かみんなで、作っているみたいや、そんな雰囲気。いやいやと思いながら作ってしまう。何かやっぱ、燃えんなんな。燃えるときは長島みたいに。……沈黙……（10秒）

H男 : 生徒会の執行部の上の方に立ったら、何か、指導者的な考え方になるやろ。指導者みたいな考え方。そしたら何か、やってもみんな協力せんし、「ならやめとこかな」となってしまうし、下の方はそんなこと全然考えない。そしたらやりたい者もおるし、「やらんでもいいがいや」という者もおるがや。他の生徒の間が2つに別れていても、執行部は執行部の上の方の立場でしかものを考えんし、生徒は自分らのことしか考えんし、そこにいってしもうがでないかと思うげ……沈黙……（40秒）

V先生 : 僕はみんなにちょっと聞きたいがやけども、生徒会はほんとに必要なだと思っているのか。それならば、どんな時に必要だと思っているのか、そういうことをちょっと聞きたいのだけれども。Eさんなんかどう？ どんな風に感じている？

E子 : う〜ん……。ほんなに、なんか、ほんとにつながりがないみたいな感じ。

V先生 : もし、生徒会がなかったら困る？

E子 : う〜ん。……

V先生 : それなら、今の生徒会のやっていることがあまりわからないわけ？ どんなことをやっているか。

H男 : 僕は代議員をやっとるし、ちょっとわかるがやけど、結構、生徒会も忙しいことをやっとるげ。文化祭のこともやっとるし、今、貸傘のことについてやっとるげけど、まあ、結構上の方の立場に立ってみれば、忙しいことは忙しいげ。それが表面的には表われんちゅうかな。だから、みんなは、なんしとらん。なんしとらんがでないかいや。上の方は、一生懸命やっとるがに、何言うとらん。

G男 : うん、それならそれでやっぱり代議員には執行部の考えが通じとるけど、代議員とクラスの関係があんまりしっくりいっとらん。代議員がなんかクラスをまとめて、意見を求めようとしても、ほんとに聞いてくれるという人がほんとに少ないね。なんか、中途半端で騒いで、意見を求めても、全然聞かないで、賛成か、反対かという、そういう時だけ、きまぐれにしか話聞いとらんね。代議員からクラスの連中に通じとらんから、執行部の考え方も、いいがにいっとらんで、僕も代議員やっていて、執行部の方は本当に忙しいげ。なにしても、代議員とクラスのつながりがもう少し、ぴったりした方が、執行部の考え方もわかると思う。

H男 : 代議員まではいっとるがやな。

G男 : うん、代議員までは、ほとんどわかってて、クラスで聞くという態度が、どうしても出んげ。それも話す時間が、ホームルームとか、昼休みで、みんな騒ぎたいような時で、特に男子になるとどうしても、そんなことよりという気になるらしいね。それでなんとなく、男がさわぐと、声も大きくなって、伝わりにくくなって、注意しても、そういうことが、起きるから。

H男 : ちょっと腹立ってくるな。なんか、おこりつけてやりたいほど腹が立ってくるのが、あるな。

G男 : そういうわけにいかんから。

H男 : そうや、ホームルームみたいときやったら、先生がうしろにおるから、まあ。

G男 : 先生がおるときは、案外、聞いてくれる っちゅうても、静かにしとるだけでね。ほんとにあんまり考えているのがないから。

H男 : 寝とったり、ごちゃごちゃしゃべとったり。

G男 : うんそんなのがいる。

H男 : でも、真剣に聞いてくれる人もおるんやけどな。

G男 : そういう人に限って、みんなに遠慮がちになってね。自分の言いたいことは、あんまり、言えんでね。なんかどうでもいいようなのが、なんか大声出して叫んでいるような感じだから。

V先生 : たとえば、最近どんなことが話になったわけ？

G男 : 今は貸し傘というのだけれども。あの、ちょっと考えると、貸し傘なんか必要ないと思うでしょ。でもそれが、他の高校の例が出てみたり、あの、やっていくと、段々、やっぱ、必要かなと、深くいくと、そう思うようになって、そういう感じになってくるがやけど、クラスまでいくと、そこまでのかんがで、先に、表面で、あってもなくてもという、そこで終わってしまうげ。ほんとに聞いてくれる人がいないから、深くまでのかんがや。そこでそこで終わってしまう。ほんという、そこで、自分としては執行部とか、議会で話せるような深い所まで、もっともぐってみなければ、深い所まで、どうしてもいけんげね。

V先生 : 貸し傘なんか、生徒はわりと興味あることでないが。どんなことやるがかなと。

- G 男 : すぐ賛成か反対かの意見の雰囲気、どうしてもそれにしかいかんげ、ほんとうに。たとえばクラスのみんなから、予算はどうするのだとか、傘はどっからまわすのか、そういう意見が出てもいいと思うけれど。それが出んげね。で、すぐ採決になってくるから、その辺がなんか……。
- W先生 : 貸し傘ってどういうこと？ 今聞いて、感じて、よくまだわからんげけども。なんで、そんな貸し傘？
- G 男 : あ、ちょっと今、D高校にそんな例があって、いいことだから、二水でもしたらどうかってことがあったんです。それであのー。
- W先生 : いいことってのは、どう、いいことなのか。
- G 男 : 雨が降って傘が無い人に対しては、傘がないよりはあった方がいいでしょ。そういうことで、そういうような良いことは、していった方が良いということで。
- V先生 : 傘を何本か用意しとくわけやね。学校で。
- G 男 : それだと、それぞれが持ち出した時に、執行部の方では、予算の面とか、管理の面で、問題が出てきて、どうしても、執行部はあんまりやりたくないような意見なんや。
- H 男 : じゃまくさいんや。
- K 男 : そんな話、出とったなんて全然知らなんだ。
- G 男 : そうやろ。
- H 男 : だいたい怠慢なんや。
- G 男 : まあ、予算の方は、学校にほら、ちゃんと洋傘ならいくらでもあるでしょ。生徒が使わないのが。はじめ予算はどうするかという意見が出て、そういうのを利用したり、この近所をまわってみれば、いらない傘の10本や20本ぐらい出てくると思って、学校としてくれば、少しは安くさいてくれて、そうすると予算はいくらか安くなると思うげ。そうなる、こんどは管理の問題になってきて、執行部の意見やと、ほんな管理するというのだとじゃまくさい、というがやて。あの、他にやりたい仕事がたくさんあって、ほんな傘の方にあんまりみとれんて。
- H 男 : 生徒会事務局室では「絶対しません」てはねつけるんやな。「する場所は、他の所にしてください」って。
- G 男 : うん、場所がちょっと問題になるんや。
- K 男 : ただ、ごちゃごちゃ集って、何しとるんかと思うけど、何言うても、じゃまくさいて言う。
- G 男 : うん、何か言うたら、他に仕事があるていうんやね。仕事を聞いたらなんかわかる気もするけど、いざやとるかという、それがまだ見たこともない。僕はどっけという、議会運営の方をやとるから、執行部の方はあんまりかかわらんしね。
- H 男 : ロッカーの所に結構、傘あまっとる。
- L 男 : あまっとるというよりも、置いてあるんでないか？
- H 男 : 置いてあるけど、ほこりにまみれた……。なんか〇〇さんの話では、雨降ったら、ちょっ

とそこにあるのを失敬して、停留所までさして行って、そこに置いてくげ。

G男 : 執行部でも、2、3本とられてくると、どうしても、今度、持って来たくないげで。それで、人の傘についつい手を出すようになってきて……。悪いと思うけど、やっぱ、雨降って、自分の傘無いから、ちょっとそこにある傘を今日だけというつもりで持っていくと、次の日、天気が良いとどうしても傘がいないから、置いてきたり、バス停においてきたりするんやて。

V先生 : まあ、昔、駅なんか、公德傘なんていうのがあったけど、今、無いがなんない？

K男 : 公德傘って？

V先生 : 駅なんか置いてあって、市民が誰でも借りていっても良い傘。雨降った時。

H男 : 返さんならん？

V先生 : 返さんならんのだけれども、だんだん返ってこなくなって、結局、あほらしいというのでそれこそ……。同じような危険性はあるね。じゃまくさいというので。

H男 : 貸す時、いちいち、何ホーム、何番ってするそうだ。

G男 : 執行部によると、貸す時に、何か貸したものの承認をして、チェックして、何か無茶苦茶なこと、そればっかし、いっている。

H男 : それだけ、信用できんげけども。

G男 : 生徒に信用ないから。

H男 : 盗まれるんでないか、盗まれるんでないか、そればっかし心配しとるげ。アツというまに無くなるんでないかいやとか。

G男 : なにかほんとに、盗まれるってわかってて、それを見越してやっとなるみたい。信用があんまりないみたい。

V先生 : やってみれば、はっきりするけどね。

G男 : たぶん無くなるんじゃないかとね。

K男 : わざわざ傘を持って来んと、その傘使うって者が……。

H男 : なんかでかい印をつけとけば、でかい印を。ざぁっと降ってくるときがあるやろ。昼頃から。誰か言うたけど。そんなざぁー降ってきた時はたいていの人は傘持ってきたらんでないかと言うげ。そんな時50本やそこらあったって、殺到して大変なんでないかと、言うとした。

G男 : あったって、無くたって、ほんの一部しか持てんがやろ、貸し傘を。ほんの一部なら、無視するような感じでね。

H男 : やったって、別にどうってことないと思うけどな。

L男 : 議会ってどのくらい力を持つとるんや。先生がだめだといったら、そんでだめなんでないが、で、先生が何かすると言ったら議会がいくらだめやと決まっても……。

H男 : 議会で決まって先生の所へーぺんいくのではないか。

L男 : ほやろ、先生がだめやと言ったら、そんでだめなんでないが。でまた議会でだめやとい

うことを先生の方で決まったらやるんでないが。今年の陸上競技大会でも……。

H男 : あれは、うしろにというか、裏があるんや。

K男 : …… (聞きとれない)

H男 : 2年生の男子、何も来なかったんや。

L男 : あんなもんしても何になるちゅうがや、アホらしい。全然、おもしろないわいや。ただ、走るだけやがいや。

H男 : クラスのまとまりはないかな。

L男 : クラスのまとまりやったら、文化祭でクラスごとに何かすればいいと思うげ。そしたら絶対、クラスのまとまりができると思うげ。あんなブロックなんかつくるのはただ大変な話やと思うげ。なんか泉丘高校なんかの仮装なんか見とってめね。クラスごとやろね。でもぼくらのブロックのやつよりも、ましなんいっぱいあったさかいね。本当に、ぼく、泉丘高校の文化祭に行ってみてね。ファイア・ストームなんかも遅くなって火をつけるわけや。二水なんかもみんな遅くしよう遅くしようと言っとったんに、先生の方が早よやれ、早よやれ、今やらな来年できんがになるぞって、おどかしてくるやろ。さ、早よ終って、しらけてただ早よ終ったやろ。その辺が、泉丘高校のがちょっと見てん。なんかね。みんなのってきてんね。最後は、「校長先生、万才／＼」(笑い)。あんなん見とったら、ただむなしなあってね。やーなって、なんとなく、二水ちゅうたら怠慢やなあと思ってね。

H男 : 二水かって、最後の方はのってきたんや。みんな。なんか、テントの中に入って、そして、先生おっし、もうやめんなんかな、もうやめっか、じゃ、もうやめるぞといって、バーッと消してしもうたら、みんな燃えとってん、だから。

L男 : 早かったんやわいや、6時頃からつけとった。

G男 : 明かるかったからね。

H男 : 議会の方でも、結構うるさかったんやぞ。ある先生がおって。

L男 : 二水の先生好きなんやけどなあ。一部の先生だけやな。めんどくさいんやな。先生方も。

H男 : あんまり、道理ばかり考えて。

H子 : なんか、段々悪くなっていくみたい。私ら1年生のとき、運動会もあったし、ファイア・ストームもわりと遅くまでやとったし。なんか段々と落ちていくみたい。なんか3年生に責任があるような気がするげ。なんか1年生のとき3年生はすごく、なんていうかな、なんか、学校の雰囲気かな、大変、良かったよ。星も見えたし、段々、輪が小さくなっていくげ。んで、最初、先生なんか、わあわあと言っとったけど、最後になって、3年生はやっぱ消そうということで、みんなで砂かけて、なんか、うへん、なんちゅうかな、学校が一つにまとまったみたいなきになった。なんかうまく言えんけど。

E子 : なんか私らの横に3年生がいて、いろいろと言っとったんやけど、「俺ら、1年の時、すごく良かった。こんなしらけたんはじめてや」とか言っとった。なんか、文句たらたらやった。

H子 : 去年、無かってんね。

L男 : あれもちょっと、おかしいと思うげけれどな。泉丘高校やったら、こうやって去年なんか天気悪かったら中止ちゃうか、延期みたいのになったやろ。二水やったら、そういうものは、受け付けんような感じやろ。先生方も、なんかちょっとおかしいと思うげ。早く終ればいいというような感じの先生がおるがでないがかな。何事もなく、修学旅行なんかも、あんな長いこといくよりも2泊3日の方が楽だというような感じでないが。新しい旅行の計画立てるよりはいつも同じようにしておけば、あとで予約するだけでいいし、慣れとるさかいという感じで。このような感じ持っとったら、みんなこんなになるのではないかな。ただ怠慢やわいや。ぼくらのこのブロックの仮装なんかもね。ただ怠慢やったんやね。もう泉丘高校なんか、本当に1クラスごとにやとるしね。ぼくらの所は4クラスもあるわけやろね。最初ぼくはやる気のあるような者は、「よし、出るっ」って言ってんぞ。そしてね。あと残とる者をもう一度、どうでもいいような者いっぱいおるさけね。4クラスもあるのになんもできんやろ。全然クラスのまとまりもないしね。そして、4クラスのまとまりがあるんかという、それもないしね。

V先生 : ブロックちゃうのは、まとまり欠くね。

G男 : 1クラスごとでやったら、クラスが本当にまとまるもんね。

V先生 : その運動会もブロックごとやったんやろ。

H子 : うん。

V先生 : やっぱり、まとまり欠いたね。僕も経験あるけど、そんな応援してもブロックじゃと思って、自分のクラスだけなら応援のしかたがあるけど。

H男 : それからブロックのまとまりの時に、仮装とステージと2つあったやろ。なお、なんか、大きすぎて、全然2つとも力を入れんかってん。だから、結局、やるんやったら、クラス別にして仮装すればと思うげ。

H子 : 泉丘高校は3年生だけやろ。仮装は。

L男 : 2年、3年や。

H男 : そういう話も出とってん。議会で。2年だけやるとか、3年だけやるとか。でも、1年からやらんと経験も積まないかんし。

G子 : クラスでして、ステージか仮装か好きな方を選らべば良い。だってブロックにしたらさあなんか知らん人いっぱいいるやろ。で、あるクラスだけがすごく熱心にしとって、やらんところは全然しないって、そんなんおるやろ。そんなこといったって、私ら全然聞いとらんだし、そんな文句言われたって、全然知らなかったと言えばそれで終りやろ。本当に私ら、仮装かなんかやとって、22ホームはすごく熱中してやとってん。23ホームの女子は何も知らんかったし、文句言われたって知らんし、何も言えんげ。馬鹿みたかった。

L男 : やっぱ、クラスごとののはいいと思うな。こんなんやったら、本当にクラスで盛りあがるもんな。

U先生：泉丘高校は1年生はやっていないんですよ。1年生はステージだけ。2年生から各クラスごとに。そういうブロックは決めるのは先生が決めるわけか。

L男：生徒が決めても、先生の一言によって変わるわけやろ。

H男：生徒会も結構、言いたいこと言っとるよ。

L男：ほしてなんちゅうかね。こう、会長なんかに、一応、こびるやろね。あいつならやってくれるやろと思うげね。あれならやるやろって。ところが全然変わらんわけや。どうしたんやって聞いたたら、面倒くさいような顔して、どういいうのかな。一言、上まで行ってしまうとなんちゅうかな、もう面倒くさいって感じになってしもうがでないかな。

U先生：なんか泉丘高校って言うけれども、僕も11年泉丘高校におったからあれやけれども、泉丘高校でも変わってきとれんね。泉丘高校もはじめから各クラスで出しとるんでないが、ぼくのおった時はやっぱりブロックやった。だから、どうしてそうなったのか知らないけれど、泉丘高校はいいっていうけれども、泉丘高校だっていろんな試行錯誤があってね。ファイア・ストームだって、いつも盛大にやっているわけではないし、やっぱ、それは先生と生徒、いろんな関係はあるやろけどね。近頃のことを聞くと、すごくうまくいっているみたいだね。

グループ C

第1セッション (11/2 (土) 19:00-22:00)

思い思いのところに坐って、お互い顔を見合ったところ、X先生は、J子とR男に「見おぼえがある」と挨拶。それからすぐにZ先生から次のようにグループ開始の合図があった。

Z先生：それでは、今から10時まで。それから明日の朝は9時から12時までと、夜が7時から10時までとその翌朝の9時から12時まで、このメンバーで、おつき合いをすることになります。で、明日の午後は、全部で何かやろうかと思っています。1時から大体5時間くらいありますね。(1年生のメンバーを見渡しながら)私、ズラーッと、知らない、なんにも知らない。M男君だけね。1年生の男の子で名前と顔が一致するのは。P男君は、さっき食事の時知ったけど……。

M男：自己紹介しますか。

Z先生：うん。

X先生：名前ぐらいはね。

Z先生：名前だけでもね。(数人が賛成する)

X先生：でも、名前は。

R男：他人紹介。

Z先生：うん，他人紹介，ああ，なるほどね。

M男：なにも知らん。

Z先生：だれも知らん，M男君？　なら私でも紹介すればいい。

X先生：なるほど，そんな手もあるね。（20秒沈黙）なんかしようよ。

R男：そしたら，僕のとなりにいるのは，S男君。

X先生：S男君。（S男の顔をみる）

R男：S男君，○ホームにいる。それで，どういふ特徴は，おとなしいのかな。独特な雰囲気
があって，どっちかといったら，ほら，クール・ファイブのマエカワキヨシに似てるんじ
ゃないかなあと思ってる。

X先生：なるほど。

R男：みてごらん。

Z先生：（S男がくびをかしげるのをみて）S男君，R男君の言ったこと，訂正せんでいい？

R男：ハッハッハ。

Z先生：僕はそんな奴ではないぞって。

X先生：フッフッフ。

S男：あるみたい。

Z先生：あるみたい。

S男：なんか，おとなしいって言うけれど，それは外見だけで，中身はなんか，あると思うし，
いろいろあると思う。

X先生：ウーン。

Z先生：いろいろあると思う。

X先生：ウーン。

Z先生：たのしみだなあ。

X先生：フッフッフ。そのうち何を始めるのか。よし，名前はわかったよ。

Z先生：そんならS男君，だれか。

S男：だれも知らん。

Z先生：だれもおらん？　Y先生，知ってるやろ？

Y先生：ハァー，えらいことになったな。（一同笑う）

S男：ええーと。

Y先生：僕の紹介するんか？（一同，爆笑）

Z先生：ドキドキするね。

X先生：今，本人は黙っといて。（一同笑う）

S男：あの，先生に1年の時，数学ならったんやけど，僕，悪い点ばかりで，言うのはずかしい
んやけど，大分，1年の時，数学の先生の中では人望があって，いい先生やなと思っ
た。

X 先生：なるほど。

S 男：それくらい。あとはいいのにわかりません。

Z 先生：あんまりいいのにわかりませんか？Y さんは？

Y 先生：なんにも訂正するところ、ないですね（一同笑う）ほうやな。M 男君知っとるな。今、授業出とるのは M 男君だけじゃないかな。

X 先生：フーン。

Z 先生：そんなら M 男君。

X 先生：案外、少いもんだね。

Y 先生：少いですね。僕もそう思う。彼ら 2 人、去年出とったんだけど、今、出とるのは各学年 1 つずつだから。

X 先生：ウン、ウン。

Y 先生：そんなら、M 男君紹介しようかな。○ホームで合唱部や。

Z 先生：いっぺん、きかせてもらわんならんね。

Y 先生：合唱に忙しくて、あんまり数学を一生けん命やってくれんのや。（R 男、大声で笑う）

X 先生：（M 男の顔をみながら）やっぱり言うたって顔。

Y 先生：いっぺん宿題してこんもんで、宿題してこいって、言うたことあるんやなあ（M 男に向けて）

Z 先生：（少し困った表情をした M 男に）何か言いかえしたかったら、言ったら。

Y 先生：根は真面目なんやけど。合唱部が忙しいのは、わかるわねえ。今、コンクール終ったし、これから勉強するやろって期待している。（一同笑う）おわり。

Z 先生：つけくわえると、Y 先生は金沢大学の合唱部だったんや。その時おそらく勉強せんかったんやわ。（一同笑う）

Y 先生：やっぱり。

Z 先生：自己告白や……M 男君、だれか？

M 男：Z 先生しかおらん。

Z 先生：そんなら、私の悪口いえばいいんや。

X 先生：悪口やって、はや先まわりして。

M 男：Z 先生はカウンセラーで、1 年のグラマーに出てるのは僕らのホームだけ。結構なじめる先生やと思うし、授業もたのしいし。

Z 先生：ほんと？

R 男：だいぶん点数……。

M 男：きいとるだけで、今のところはわかるし、おもしろいと思うんや。

X 先生：フーン。

Z 先生：どうも Y さんみたいに「そのとおりだ」とはちょっと言えんけど（一同笑う）そしたら、L 子さん、だれも知らんね。

L子：うん、知らん。

Z先生：ちょっと、順番が狂うけど。

Y先生：L子さんって、3年生？

Z先生：うん。

Y先生：Z先生のホーム？

Z先生：うん。ここに、合宿に、3年生に3人来てもらったんだけど、3人ひとりずつになったもので、いかに3年生でも心細いと思うんや。

L子：うん。

Z先生：Lさんは弓道部にいる。

X先生：何年生やって？ 3年生？

Z先生：うん。この間、Xさんのグループじゃなかったけど、夏の合宿に来てたんや。

X先生：ああ、そう。あそこの、鶴来の。

Z先生：英語が好きだから、英語科、北陸学院の短大の英語科にすすむんやけど、たいてい入れるやろうから、この3日間、ちょっと来てくれんかって言ったら、よろこんで来てくれたんや。

X先生：うん。僕、来年、北陸できっと会うわ。

Z先生：授業に出てるんや。

L子：よろしく。

X先生：よろしくって。もう入る気になってる。(一同笑う)

Z先生：L子さん落ちたら、だれも入る者いない。

X先生：ほんとかな、失礼しました。

Z先生：(L子に向かって)だれも知らない？

L子：うん、だれも知らん。

Z先生：ほんなら、Xさんもだれも知らない、私以外ね。あ、Xさん、R男君のこと言って。

X先生：あら、よわったな。ああ、たしか羽咋の時だったね。小グループは一緒になかったけど、全体のところで会ったんじゃないかな。あの時……彼、あの時 1年生だったんじゃない？

R男：はい。

X先生：ね。

Z先生：ちゃんと、2年生になりましたって。

X先生：1年生から3年生までまじった、しかも全体の集りで、すごく頑張張りまして、何を言っただか中味はおぼえていないけど、とにかく、「私は……」何っていったっけ(一同笑う)ちょっと、待って、今に出てくる。出てくるまでにちょっと時間がかかる……。

「私は……」何と言ったかな。

Z先生：次郎物語のこと言っただね。

X先生：次郎物語のこと言 った っけ。

Z先生：論語のこと言 ったし。

X先生：論語，論語。

R男：はずかしい。

X先生：とにかく頑張 っ て，パーツと言 っ て，ものすごいデビューだ っ たのをおぼえている。

R男：はずかしい。

X先生：その後も頑張 っ ていたしね。だから僕にみえる，そういう意味では，R男 っ ていうのはガンバリ屋で，その上にクソがついていい程クソ真面目で，そのへんのところは，ものすごくはっきりしたイメージがある。

Z先生：R男君，もうひとり。

R男：（J子 を指しながら）去年のグループカウンセリングに来ていて，JRCに入 っ ていて，僕のあこがれていた人で，相当シゴかれて。

J子：うそ！

X先生：だれがだれに？

R男：まあ，いろいろ。いろんな意味で，精神的にも。

Z先生：J子さん，なにか言わない？

R男：ポチャ っ とした平安美人的なカワイイ子やし（一同笑う）それで勉強の方もわりかしできるし。彼女は各地転々としていて，鎌倉出身なのね。

X先生：ほんとか，それ知らなかつた。

R男：鎌倉の話させると，一日中止むところがないくらい，それに……。

J子：あのね。出身じゃない。

R男：出身どこや っ たけ，神戸や っ た？

J子：生まれたの，横浜。

R男：ア っ，横浜。

J子：それから，いろいろ，どこ行 っ たかわからない。

R男：僕もあちこち行 っ たし，変なところで共通性あ っ て，北陸は嫌いだ っ て話で。

J子：ア っ 別に嫌いだ っ て言 っ てないよ。

R男：でも，あまり好きになれん っ て言 っ た。（一同笑う）

Z先生：それで僕が同感したわけや。

R男：第一，前からそう思 っ てた。

Z先生：J子さんは？

J子：（K子 を指しながら）2年生にな っ て同じクラスにな っ たんだけど，教室ではすごく真面目で。

X先生：教室では？（一同笑う）

R男：助詞の使 っ 方。

J 子 :ほんとに一番真面目かもしれない。こうみていてね。真面目そうだね。話をきいていると、自分の心にきびしいというのか、潔白でね。私も、もうちょっと小さい時、そんなことあったんだけど、大きくなるにつれて、だんだんあまくなってきて、K子さんみていると、昔のことがなつかしくなってきた、うらやましいなあと思う。

X先生 :う〜ん。

K 子 :ちがいます。みんな、なんか友だちのお母さんなんかから、真面目だと言われるけれど、ほんととはすごく内弁慶なんかもしれないけど、外に行ったら猫かぶってるようになるし。そんなにみえるだけあって、末っ子だし、お父さんやお母さんに言いたいこと言うし、あんまりいいことない。みんなが誤解してるだけや。

X先生 :さっきS男君もなんやらちょっと似たようなこと言ってたね、他の奴はそんなこと言うけど、わしは……。

K 子 :そしたら、私、Q男君。Q男君とは1年で一緒だったし、今も同じクラスにいますけど、男の子だからあまり話したことないんだけど、私のイメージからすると、おとなしくて（一同笑う）ピリッとしている感じ、要所のところで、それでテニスやってる。テニスやっていて、私はスポーツやれないから、人がスポーツやれると素晴らしいなあと思うからおとなしくて男らしい人だなあと思ってたんだけど、それだけのイメージしか。

Q 男 :なんか、ほんとに運動神経鈍いくせに……親しい友だちだったら、ワーツとしゃべるけど、あんまりしゃべらん人だったら……。

Z先生 :そのまんまになってしまう。

Q 男 :うん。

X先生 :あれ、名前なんていうんだっけ？

Z先生 :Q男君。

X先生 :Q男君、ありがとう。

Z先生 :なんかきっかけがあったらQ男君話すみたいやね……Q男君、だれか知ってる？

Q 男 :ううん。

Z先生 :1年生、やっぱりわからんね。

X先生 :あれ、1年生か、君？

Q 男 :ううん。

Z先生 :Q男君は2年生だけど、あとP男君から、I子さんだっけ、お互い知ってる？ I子さん、だれか知ってる？

I 子 :はい、P男君知ってる。

Z先生 :P男君を紹介する？

I 子 :ええ。P男君で。

X先生 :「で」というのは、こっちやったね。

I 子 :はい、今、クラス同じなんですけど、後期、ホーム委員長で、私が副委員長でやってるけ

ど、どちらかというと、私は不真面目な方で、P男君は真面目な方で、やっぱり先生なんか忘れたり、おくれたり、来ない時は、P男君がよびに行く。そういう面で真面目で責任感がある。それくらい、あんまり、教室では、そんなにしゃべらない。

Z先生：P男君、どうお？ 紹介されてみて。

P男：あんまりしゃべらんって？

I子：うん。

P男：しゃべってる。(一同笑う)

I子：あの、I男君とは。

X先生：「私とはあんまりしゃべりませんわね」っていう。(一同笑う)

I子：うん、あんまり、そんなにしゃべらない。

Z先生：P男君がI子さんを紹介してくれる？

P男：うん、あんまり知らないけど、結構、物事をはっきりとしゃべる……それだけ。

Z先生：それだけ？……それじゃ、そこ、知ってる？

O男：全然。

Z先生：それじゃ、自己紹介して。

X先生：どう、他の誰も知らんの？ 別に、ダブってやってもいいよ。

Z先生：知っている子、いない？

O男：だれもない。

Z先生：悪いけど、自己紹介して。

O男：名前は、姓がSAKATSUで、名前はSHIGETO。

R男：どんな字？

O男：SAKATSUのSAKAは、坂の坂(一同笑う)

Z先生：おもしろいのね。

X先生：で？

O男：SAKATSUのTSUは津波の津で、SHIGETOっていう字は成人の日の成人。

X先生：ああ。

O男：別に、自己紹介っていてもいいことない。

Z先生：言うことない、これからボチボチ話せば。

O男：そうねえ。

Z先生：私に、さっき全部集まってSDやった時、X先生は「氏名」って書いてあったんだけど、私は「名前を書いて」って言ったの、そしたら、「名前ったら、名前だけか？」っていうのね。なかなかズッコケた、おもしろいところがあるんだなあと思って。

X先生：SAKATSUのSAKAは坂の坂って……。フーン。

Z先生：(N男に向って) N男君か？

N男：名前はHIROKI。

Z先生：HIROKI？

N男：広く喜ぶ。

Z先生：広く喜ぶ？

X先生：広く喜ぶ。

N男：担任が〇〇先生だから、だんだん似てきた。

Z先生：似てきたみたい？ 〇〇先生に似てきたってよ。L子さん、〇〇先生って、どんなイメージ？

L子：どんなイメージかねえ。

X先生：〇〇って？

Z先生：国語の先生。だれか、N男君は〇〇先生に似てきったいうけど、わかる？

数名：なあん、わからん。もたれたことない。

X先生：こんな人が〇〇先生。（一同笑う）

Z先生：X先生は、私が紹介しておかんと、だれにも紹介してもらってないでしょ？

X先生：もう、した。大分。

Z先生：いう必要ない？

R男：いや、一応、形式上。

Z先生：形式上？ やっぱりつるしあげんならんかねえ……なんでも好きなこと言う人（皆笑う）

X先生：言えんこともあるのに。

Z先生：いや、それは言いたくないから言えんので。

X先生：ハハハハ（笑う）

Z先生：やさしいところとつめたいところとある、きっと、みんなにはやさしいよ。まあ、つつくとか、なかなかおもしろい人です。

X先生：なんか、みんな参加したのは、それぞれ、こういうことをやってみようとか、なんかあったんではないかなあと思うんだけど、さっきからの話で、チョビチョビ出ているような気もするんだけど、まだ、はっきりしないような気もするんで、……どんな気持ちでいるかききたいんだけど、返事してもらえないかな……よびかけの文、僕は一応プリントはみせてもらったんだけど、だれか、君は？

N男：先生から。

X先生：先生が？

（N男はY先生を指さす）

Z先生：Y先生？

N男：はい。

Y先生：ばく？（自分を指さしながら不思議そうな表情。一同、Y先生の大声と表情に笑う）

Z先生：R先生でしょ？ 顔、似てるもの。

Y先生：ああ、目がさめた。びっくりした。

Z先生：そういえば、そんなセーター着てたら似てる（一同笑う）

Y先生：ぼく、1年で知ってるのは12ホームか剣道部だから……びっくりした！ いや、案外、
言っていて、ぼく、記憶がなくなったかもしれんし、（一同笑う） ああ、そんなんか。

Z先生：R先生、教室へ行って……どんないいことあるって思った？

N男：別に思わなんだ。

Z先生：別に思わなんだ？

N男：うん。……

X先生：「みんなはどうか？」ってきいたけど、もうちょっとさきばしると、「ここで、どんなことがやりたいか」ってことが、お互い少しずつでも、ちょびちょび出してもらうと、どうやったらいいのか、わかると思うし、また、やっているうちに、こんなことやりたいって思ったら、どんどん言ってもらったらいいし、何といひかな、こんなことを是非やろうという目標があらかじめないのなら、あいまいなところからスタートして、お互い好きなことやろうって、言いたかったんでね。Zさんは、なんか、こんなことやりたいってこと、あったの？

Z先生：うん、やっぱり、教室の中でやれないこと、やりたいってのがひとつあるね。

X先生：ハハハ。

Z先生：教室の中でやれんことってのはね；私は英語の教師だからね、英語を媒介として、何かこう機械的に授業を、パッパッパッと、いきやすいというか、たとえば、Q男君の教室に出てるけど、ひとつ英語という垣根があるって感じがしてる。K子さんもJ子さんも、同じホームだけど、そんなものをとばらってね。そんなものをとばらって話ができるといひなあと思ってるんだけど。

Q男：みんな予習してこんし、僕をふくめて。それだから話ができん（一同笑う）

X先生：ここじや予習いらんもんね。

Z先生：そうや、そうや。

J子：予習してこんとね。先生と眼が合っちゃう。わたし。（一同笑う）

Z先生：「どうですか」って言われる。

K子：でも、Z先生と仲いい生徒は、たとえばF子さんとか〇〇さんとか、親しいといひか、一応、もう垣根を入ってしまった人たちといひか、そういう人たちは、もう先生の良さがわかっているといひか、はいっているけど、そのなんといひか。

X先生：うん。

K子：そのなんといひか、英語を通してしか見とらん生徒とすると、といひか、ちょっとこわいといひか、先生のところに入っていくには、すごく勇気がいると思ひんや。

Z先生：うん。

K子：だから、もちろん、生徒の方から入っていかならんものだけれど、生徒なんて、わたし、自分の体験からいひと、なんか、すねてしまう時があるんや、なんか、たとえば、だれか

特別な生徒、特別な生徒って、そんなんでなくても、だれかある一部の生徒と仲いいとしたら、なんかすごくねたみとか、そんなものが手伝って。

X先生：うん、うん。

K子：すごく、逆に、親しくなりたいと思う気持があるのに、逆になる。先生なんか、こういうふうな気持があると思う。

Z先生：そうねえ。

X先生：そうだろうね。

R男：〇〇さんなんか、去年ここに来て、急に。

Z先生：そうね。

R男：急にモタモタになった。

Z先生：モタモタ？

R男：うん、今でも。

Z先生：今でもつづいているのかもね。

R男：で、このチャンスを、（K子に向って）

（沈黙 10秒）

Z先生：なんか、K子さんでもそうなんかなあって気がする。やっぱり、なんかわりと前の方に坐っているから、パカパカと声をかけちゃってるけど、K子さんの中では、F子さんや〇〇さんとは、自分はちょっと何かちがうみたいな気があったのね。

K子：あると思います。

Z先生：この機会に、とっばらわなきゃならないね。お互いにね。（K子に向って）

K子：うん。

X先生：なるほどね。

R男：〇〇さんなんか、去年、リーダーの点数が悪いからって。

Z先生：そう言ってたね。

（沈黙 2分15秒）

L子：せっかく、テーブルまわっているし、なにか話しせん？

X先生：ふん。

Q男：なにか、漠然としている。テーマ決めた方がいい。

Z先生：テーマ決めた方がいい？ Q男君、なにか、こんな話したいってのある？

（沈黙 1分）

Z先生：S男君、なにかある？

S男：別にテーマあるわけじゃないけど、だれか、なんか、なんかキッカケをつくれば、そこからだんだんずっと出てくるんじゃないかと思うけど、今、別に言うことない。

Z先生：なにか、キッカケがあればね。

（沈黙 50秒）

R 男, S 男, Q 男, O 男, Z 先生が, J 子の表情をみて爆笑。J 子は毛布で身体をスッポリ包んでいたが, その毛布の中にある顔が, 突然動き始めた。つまり, 眼と口と鼻が, 同時に「話し始めた」感じがしたので, それを見た 5 名が, 思わず大声で笑ったのである。

X 先生：なに？

Z 先生：顔あげてなければ駄目や, やっぱり。

O 男：特別やったね。今のね。

X 先生：なんやら。

Y 先生：なんやったん？（Y 先生のトボケた表情に, 一同笑う）

R 男：眼と口でね。

X 先生：J 子さんか？

R 男：うん。

X 先生：もういっぺん, やってみ。

Z 先生：なにか言い出しにくい雰囲気ある？（J 子に向って）

J 子：なんか, ちょっと言い出しにくい。どんなことしゃべったらいいのか, あんまり自分のことばかりしゃべったら悪いし。

X 先生：なあん, 悪くない, 悪くない。

この後, J 子は「特にひとつの事柄ばかりに専念することが, 必ずしも効果的でないことを, 人生を楽しみながら偉大な学説をつくったダーウィンから学んだ」と話し始めた。

第3セッション （11/3（日） 19:00-22:00）

次の逐語記録は, 第3セッションのはじめの部分である。グループのプロセスからいえば P 男批判から P 男理解へと, メンバー全員が頑張りはじめたところである。つまり, 第2セッションでは, 独裁制を主張する P 男に対して, かなりきびしい（言葉はやわらかいが）場面があったが, この第3セッションでは, メンバーの P 男に対する気持は, 何とかかわりたいという一生懸命なアプローチに現われているように, 暖かかった。

Z 先生：P 男君は, R 男君に, 「同じだ, 同じだ」と言われてるみたいだけど……なんで, そんなことをきいたかっていったら, 私あんまり, 人から「同じだ, 同じだ」と言われると, 気分を害するところがあるものだからね。P 男君に, R 男君が「同じだ」というのが, 何かこうあんまり同じだと思えていないんだったら, そのへん, はっきりした方がいいんじゃないか

ないかなって思ったの。(P男に向かって発言したが、応答がないので、R男に向かって) R男君は、肩の力がぬけてないってことが同じだということ？

R男 : ウン。

Z先生 : それでわかる？ P男君。

P男 : わからん、でも、昨日言ったような漢文とかとは別に、もっと詳しく、肩の力をぬくってこと、説明してもらえば……。

(沈黙 1分間。みんな考えこむ)

X先生 : 何か、R男君から出るのを待ってる。

R男 : いや、別に。

X先生 : とにかく、R男君からすれば、P男君がやってる、何か頑張ろうってしているところが、みえるわけね。

R男 : それは、ものすごく……。だからね、わからないけど、肩の力をぬくというのはね。たとえば、野球なんかでいうとね。目的というのは、それをボールにたとえてさ、ピッチャーが投げた球を、それを打とう打とうとしてさ、初心者というのは、みんなりきむわけ、ものすごく打とうということばかりに精力がいてね。よくある話でね。それが、だんだんすぎていくと、ボールが瞬間的に止まってしまうまで待つという、それがすなわち、円を描いて、要するに円を消す、打とうというんじゃなくて、あてようというんか、というような簡単な気持になる。だから、目的というそれを、打とう打とうと、りきんでいると、打てなくて、かえって、アッサリ考えた方が……やはり、考えながらも自分では、りきまないっていうか。

Z先生 : R男君からみると、りきんでいるようにみえるわけね。

R男 : ウン。

P男 : どういう点が？

R男 : たとえば、今の3年生が、新聞部の3年生、2年生は全然なっていない。

P男 : 全部じゃない。

R男 : 全部とは言っていないけど、新聞部というのは、どういのかわからないけど、僕は一応どんな先輩でも、一目おくことを、何か常識というか、経験をつんでいる目上の人に敬意を表するところがあるから、僕はどんな先輩にも立派というか、タダメシというか決して悪くても、自分の中にいれていこうという、ものの見方でやっている。だから大人の人が自分の経験したことをさ、子供なんかに、「あれはこうなんだ、」とか頭ごなしに言っていると、ちょっとと思うんだけど、要するに経験というのは、あくまで経験で、人間は大体経験で生きてるんで、だから、その経験というのは一応大事でね。それを自分なりにどうくみいれていこうかというところが大切なんで、先輩にあくまで対抗していこうという意識がみえてくると……。

P男 : 別に対抗していこうとは思っていない。僕は新聞部の役に立たないから、と言っているだ

けで、たとえば、僕らと先輩は同じ知識のところから始まっていて、先輩という感じをうけないから、なんか。

R男：一緒に同調してやっていけば……。

P男：先輩というのは、年がはなれているから先輩というのではなくて、さきにものごをやっていることを先輩という感じ。

R男：だから、先輩、うん、新聞というものに、あまりこだわりすぎている。だからね、新聞というものをつくるにも、総合的判断力というもの、ものすごくいるでしょ。ものごとするのには。

(中略 3分間)

X先生：僕の中ではね。R男君のいうことは、まあよくきいていたんだけどね。P男君は「俺の本当にやりたいことは言わない」って言ってね。「言わない」って言ったのかな？「言えない」って言ったのかな？

R男：「言わない」って。

X先生：その上で、言っているわけだね。何をやろうとしてるか　てことを、まだわからない段階で、今、言える範囲だけのことを言ってるでしょ。

R男：でもね。

X先生：ウン。

R男：彼の言い方からすると、何かもう、新聞部、1年生、何人？

P男：7人か8人。

R男：そうでしょ。あなたは、もう来年は自分が部長になって。

P男：部長にはならない。

R男：何かそういう言い方じゃない？ 他人からきくと、ものすごくそんなふうにきこえるよ。

P男：先輩に言わせると、絶対に部長にならん方がいい。

R男：そう。それは別として、ものすごくそういうものを強調しているような感じにきこえる。第三者的になって考えると、俺がこの企画をもっている。他の6人や7人の考えを全く無視して、考えないというか、考慮していない、自分の考えひとつ、それは大切だけど、あまりにも強すぎる。

P男：反対できる人物がいらないと思うから。

R男：だから、そこが問題なんで、反対できる人物がいらないというんじゃないくてさ、反対できる人物がいなくてもさ、みんなの意見をきいて、もう一度自分を考えてみるという、そういう謙虚なというか、考え方がもっと必要だなんて……君を責めてるみたいだけど、とてもステキだと思うんだ。自分のやりたいことがスーッとできるのは。

(中略 8分間)

P男 : ちょっと、部長さんは、今の新聞部は僕が言ったとおり崩壊しているから、僕にひとりで突走ってくれと言われたもので、僕はしている。

R男 : それは、わかるんや。ものすごく頑張っているのだけど、それがこうバーと言ってしまったら駄目なんではないのか、それはあくまで、心の底、底、底、ほんとは、そんなこと思ったらいけないんじゃないかな。部長さんから言われても、自分にそんな才能ないから、みんなと一応協議してみようという、こういうね。自分を後から客観的にとらえるというか、自分をいったんなくして考えるというか……先輩から「お前、実力あるノ」と仮に言われてもですよ、それを……(沈黙 14秒)

P男 : それはよくわかるけど、それは時と場合に依じて。このしゃべったことは。

R男 : いや、この場でしゃべったことはいいんや。でも、そういうふうな態度がみられるってこと。ここでしゃべらなかつたら、話にならない……だから、肩に力がいっているってのはね、自分には才能があるとね、少くともこう思っ、頑張ってみよう、頑張ってみようと思って、力がいっている。

P男 : あ、「自分で才能があると思っている」と言っていますけど、僕が、今やろうとしているのは、才能があるかないかを試すためにやっている。

R男 : ウン。だから、才能があるかないかを試すためにやっているのなら、尚更のこと、先輩からそんなこと言われても、ホヤホヤしてもいけないし、みんなと協力してみるのが、ほんとうでないのか、あくまで新聞っていうのは、みんなのものでしょうか。二水の新聞。

P男 : 企画は。

R男 : みんなと協議して。P男新聞をつくるなら話は別だけど、二水新聞という二水という公のものをつくる時は、あんたひとりだけのものではない。

P男 : なんか、僕が言ってることが、わかってもらえんというか。

(沈黙 40秒 Z先生は、黙ってはいるが、発言したい様子のS男に、眼でうながす)

S男 : なんていったらいいか(沈黙10秒)僕もいいのに、はっきりわからないんですけど、…わからないというか、まだそこまでいっていないという気がするんだけど、今、きいていた限りでは、やっぱり、自分というものは……絶対というか、そんなものでもないし、みんなの考え、みんながそこにいるということは、やっぱり、助け合っていくという感じがするけど、それに、もし今の場合だとしたら、何か新聞はできあがるかもしれないけど、それをつくっているみんなの気持までというか、そういうもの、自発的研究、それがなければ、僕はほんとうの新聞ではないと思う……やっぱり、新聞をつくるってことは、みんなでつくってこそ意味があるのだから、やっぱり、みんなをそうしむけていくってことが大切なんじゃないかな……。

この後、再び、P男はナポレオンの生き方などを、みんなに話し、独裁制の方が民主主義よりも、この世の中をより良くすると、主張した。I子、J子、K子、L子、M男は、P

男の考え方が理解できなくて、自分の反対意見を述べた。X先生が、P男のことを心配してみんなが発言しているということ、メンバー全員に明確にした時点から、みんなの気持がほぐれ始めた。またY先生が、「P男はP男なりにやっていく方がいい」と発言。その発言によって、P男は、はじめて笑顔をみせた。そして、X先生の「われわれは、みんな教育兄妹なんだなあ」という言葉で、全員が笑って、「授業」についてなど、身近かな話にうつっていった。

第4セッション (11/4 (月) 9:00-12:00)

最後のセッション。第3セッション終了後、それぞれP男アプローチをしたらしく、このセッションのはじめは、その話で賑わったが、その後、2分間の沈黙が訪れ、L子が「こんな空白の時間、大好き」とポツリと言い、更に、沈黙が11分間つづいた。メンバーは自由な静かな時間の中で、「自分のことを」「みんなと一緒に」に考えているようであった。次の逐語記録は、セッションが始まって、40分くらい経ったあたりのものである。

J子 : 親友がいなくて思うとね。(大変、小さい声で)

Z先生 : ウン。

J子 : なんか、自分のことを、ほんとに何でもかくさずに話せる人が、やっぱり自分の近くにいてもいいって気がするんだけど。

X先生 : ウン。

J子 : あんまり考えないようにしているんだけど、(声が小さくて、録音テープからは、ききとれない) ふと考えちゃう……。

K子 : 私なんか学校の友だちとでは、あんまり話さないけど、幼な友だちというか、小さい時からまわりにいる、そんな友だちには、ダラな(馬鹿な)ことも言えるし、気をつかうこともないし、なんか、その点、よく感じる。ちょっと遠くへ行ったら、その子は夏休みや冬休み、帰ってくるでしょ。いろんな話が出て、向うへ行ったら、ほんと、転校するってことは、やっぱり悲しいことでしょ。(J子は転校生なので) その子は転校生ではなくて、自分から好きで行ったけど、それでもなかなかほんとの友だちって、できなくて、自分の小さい時のこととか、考え方とか話ができないって。私らだったら、その子はこんな考え方するんだって。小さい時からみてきているから、何かそれをわざわざ口に出して言わなくても、わかるんだけど、もし学校の友だちとかそういう人たちとだったら、もっと自分を語らい合わなくてはいけないと思いますね。でも語るってことは、ねえ、話すること自体、もう、友だちになろうというところから始まって、だんだん深めていくっていう過程で起ってくるでしょ。だから、何か結論的に言うと、なかなかほんとうの友だちってというのは、ほんとに、何ていうのか、また、こんなこと言ったら、観念的だと、言われるかも

しれないけど、男の人と女の人との場合、すごくちがうと思うの。男の人なんか、友情があついというか、一生つき合う人が何人もいる人あるけど、女の人なんて、結婚したら、すぐこわれてしまうような友情が多くて、ねえ、自分では、ほんとの友情だと思ったとしても、何か自然と、そういう感じになると思って、悲しいなあと思うことがある。

R男：本質的にちがうんじゃない？ 女の子の友情というのと男の子の友情というのはちがうんじゃないかな。どっちかというとな男の子の友情は、理性的、それに対して女の子の友情は感情的というのかな。しかし、君らが言ってるのはどっち？ 男のと対比させて言っただけさ、僕なんか、はっきり言って両方とも別々なものでないかなと思って。女の子の友情に男の子は入ることできないし、男の子の友情に女の子が入ることはできないし、ちがうかね。

K子：それは「ちがう」と思うけど、「ちがう」から憶れる。女の子は、考え方、友情というもののについての考え方がもう感情的だというんでしょ？

R男：ああ。

K子：だから、何か感情的。

R男：感情的が悪いというんじゃないんだよ。

K子：ウン、悪いとか良いとかじゃなくて、もうちょっと。

R男：君らが求めているのは、どっちかというとな男ばい友情という方？

K子：ああ？

R男：よく、ホラ、テレビ・ドラマなんかで、お風呂に入って、背中ながし合ったり、気軽に肩くんで、「オイ、」って言ってさ。

(女の子たちが笑う)

I子：そんな。

R男：そんなようなの、テレビ・ドラマに出てくるでしょ。

X先生：J子さんのいうのは、何でも話し合える友情。

R男：でも、感情的に話し合える場合と、理性的に話し合える場合と。

Z先生：そんなことまで、分けて考えてないよ。

J子：ウン。

R男：考えてないのか、僕ら、どっちかといったら理性的な方。

Z先生：なあに？ あまえん坊のくせに。

(みんな笑う)

R男：でも、僕、友だちいるけど、でも、ほんとうのことなんて絶対言えんよ。ああ、友だちおっても、「なんだ、てめえ」なんて、よく言うじゃない。ほんとに好きな女の子がいたら、そのそばに近よりにくい、ほんとうに立派な男の子だったら、かえって「友だちになろう」なんて言えなくて、どっちかというとな冗談ばかり言ってさ、ね。

Z先生：それはもっともだけどさ、今、X先生が言っみたいに、J子さんは、そんなところまで

たずねているんじゃないくて、「友だちがいないよ」って言ってるんで、友達論を言ってるんじゃないよ。

J子 : 私ね。中学校の時は、仲良かった友だちがいたのね。その時はそれを重要に考えていなかったというか、気がつかなかったのね。で、大切にすることもなくて、転校することになって、わがままかもしれないけど、何というか、いつも自分のそばにいてくれて、自分の気持をとってくれて、で、相談した時に、それを一生けん命考えてくれるっていう。

R男 : 何だって？

J子 : その子とは、今でも文通つづいているけど。

R男 : 二水では、満足していないってこと？

J子 : ウン。なんか、私の場合、そういう人がいるから幸せだとは思うんだけど、考えてみたら、この学校には、何というか、私の、ほんとうに私のこと思ってくれてるって思う友だちがいないってこと、悲しいなあって思う。

R男 : ウーン……でも、やっぱり、きびしいよ。自分の思っていること、パッとわかる人なんて。

X先生 : R男君は、むずかしい、むずかしい？

R男 : フフフン。僕なんか、もうほぼ、諦めかけてるっていうかねえ。

X先生 : あら、また冷たい。

R男 : だって、自分で自分のことさえわからんのに、ねえ、他人が僕のことわかるはずがないなあって。

X先生 : 自分でわからんから、友だち。

R男 : 友だちの方がわかるって？ そんなことあるかもしれん。(笑いながら)

X先生 : いや、いや、それはわからんよ。むずかしい、むずかしいっていうけど……。

R男 : 僕だったら、ちょっと馬鹿にされながら、それでも結構。親友つくれる、そんなのかえって。

Z先生 : これ、解釈みたいになるけど、J子さんは、ボロを出せるような相手がほしいんでしょ。らかな気で。

J子 : そんな、いつでも、私、ボロ出してる(笑いながら)

Z先生 : ボロ出してるみたい？

J子 : ウン。

Z先生 : じゃ、それをスーッと うけとってくれる人がいないの？

J子 : なんか、よくわからないけどね、2年生の人同志、結構たのしんでいても、何かあった時、寂しいなあって。

K子 : ウン。

Z先生 : いくつになっても寂しいよ。

R男 : ウン。友だちって、学校とは関係ないでしょ。

X先生 : ウン。

R男 :でも、寂しいってのね、なんか、頑張らなくっちゃ。J子さんには、「僕で、できることがあれば」って言うのが最高、他にちょっと、何も言えない。

J子 :自分で自分をみていると、ほんとだったら、人にいっぱいいろんなこと話してね、それが気持ちものだろうと思うんだけど、そういう努力とか、いろんなことわかろうとする何かが、自分に欠けているように思う。

K子 :ウン、みんな、お互いに思ってるのにね、どうして、うまくいかんのやろ。

Z先生 :ほんとね。

K子 :ほんとの友だちほしいと思っているのにね。

(中 略 2分間)

K子 :なんか、J子さんの言ったこととはなれるかもしれないけど、私で、自分で自分の嫌なことを話す時に、「そうじゃないんだ。自分にもそんなところがあるんだ」って、他人に言ってもらいたい気持ちがあるんや。そんな時、自分で、ああいやらしいなあって、思うんや。自分が。なんでこんなこというんやろ、ああ、あんなこと言わなければよかったって、その時の後悔がたまらん時があるんや、なんか、そんなことないですか？

Z先生 :ある、ある。

K子 :なんか、他人に求めて、自分の仕かけのために、いやあになる。

J子 :私は、「わたし、こんななのよ」って言ったら、その心のうちに「そんなことないわよ、」って言ってほしから。

K子 :「自分もそうだ」とか。

J子 :言うてほしいから、そう言う。

K子 :やっぱり、言うてほしいという気持ちがあるもんだから……すごく感じる。自分は嫌な人間だな、なんて思ったりして。

Z先生 :そう。

K子 :先生、そんなことない？

Z先生 :ウン。ある。そんないやらしい自分だと思って、かわいいと思うよ。

K子 : (笑う)

Z先生 :それや、ふんばればいいけどね。やっぱり、ボトボトとしてね。

(沈黙 20秒)

K子 :こんなゆっくりして、自分のこと考えたりする時間って、学校ではない。日常生活におわれてしまって、汽車にのって、帰って、食べて、寝て、明日また学校行って、何となく勉強して、また帰って……今、すごく有意義に過したような気持。

この後、無口なQ男が「何か解けたような気分だ」といって、最近の自分を語った。そして、L子は(すすり泣きながら)伯父と伯母の死、友だちの死について、自分の哀しみを話した

みんなL子と共に3.0分くらいの時間を過した。そして、終りの30分は、この合宿に参加した感想を述べ合ったが、参加者全員がお互いの中に何かを見出した様子で、和やかな雰囲気の中で、この小グループの話し合いは終了した。

＜第1セッションの最初の部分（15分～30分）を資料としての検討＞

3つのグループの共通性

1 初対面の挨拶

グループAとグループBは、自己紹介という方法で、グループCは、他人紹介という方法で。

2 テーマを決めていない

グループBでは、「テーマを決めないのですか」という質問が出ているが、3つのグループとも「～についてのディスカッション」という形ではない。

3 参加者の暗中模索

テーマが決まっていないので、何を、どんなふうに話せばよいのか、わからない状態で始まっている。

4 参加者全員の発言

参加者全員が、“音声”を発している。

5 “場”の確認

参加者は、「ほんとうに、安全な場であろうか」という気持ちで、用心深く発言している。

6 グループ経験者の活躍

各グループに、昨年のグループ・カウンセリング参加者が、ひとりか2人いて、その生徒は自分の気持ちを自由に話したり、他の参加者を激励したり、その活躍が目立つ。

7 自分の周辺を語る

自分の気持ちを語ることも、自分の周辺について語ることが多い。

8 沈黙の場面が少い

“自分の周辺”を語ることに、ファシリテーターがストップをかけないので、重苦しい長い沈黙は比較的少い。

9 生徒中心の動き

ファシリテーターは、生徒の発言を大切に、生徒の動きについていく姿勢である。

3つのグループの相違点

グループAの特色

1. 非常に快活で、賑やかな雰囲気。R先生が生徒ひとりひとりに強い関心をもって発言しているのが目立つ。
2. 自己紹介のテンポが、かなりはやい。
3. 生徒同志の言葉のやりとり（心情的ではないが）が、目立つ。
4. E男の発言が、他の生徒よりも非常に多い。

グループBの特色

1. 生徒たちは、「先生が、なにかしてくれるべきだ」と期待していたため、U先生は不本意ながら、「ひとりひとり言いたいことを話してください」という応じ方をした。教師の方から、生徒の方へ、あまり積極的にかかわっていかうとする発言がない。
2. 自己紹介が、スピーチ風。
3. 生徒同志のやりとりが、比較的少い。
4. V先生は、生徒の発言に対して、感情レベルで反応しているが、全体の流れとしては、「テーマさがし」の感じがする。

グループCの特色

1. X先生とZ先生が、生徒の発言の一言一言に、反応して、声（ウンウンとかエー？とか）を発するのが目立つ。また、Y先生も、大声で驚きを表明する場面もあり、教師3人が、積極的に生徒にかかわっている。
2. 他人紹介という方法であったため、生徒同志、生徒と教師の間での言葉のやりとりが多い。
3. 言葉以外の伝達方法（驚きの叫び声や眼や鼻を動かしてモドカシサを表現する）が、グループを刺戟し、新しい局面をひらいた。
4. 沈黙が3回あり、一番長いのは、他人紹介が終った後の2分15秒である。一方、笑いも多い。

別紙 1

調査記入についてのお願い

相談室 昭和49年10月1日

いよいよ10月、文化祭などの行事も多く、準備などで忙しい毎日ではないでしょうか？ さて相談室では、例年、生徒諸君の“話し合い合宿”を実施してまいりました。今年も11月2日（土）～4日（月）（二泊三日）の予定で計画を進めております。

今年は、皆さんの中で、どのようなことが問題となっているか調べたうえで、それを基にして合宿をもちたいものと思っております。それで下記項目について 思っていること、考えていること、感じていること を簡単にいいですから、記入して下さいませんか。

氏名は書かなくてけっこうです。よろしくお願いします。

1. 学業成績について {
2. 学習について {
3. 進路について {
4. 自分の性格について {
5. 友人について {
6. 学校の規則や教師について {
7. クラスの役員をしてみてもしくはクラス
の役員をみて {
8. 家庭生活について {
9. この頃すごく腹だ
たしく思っている
こと {
10. その他なんでも {

別紙 2

一年生のみなさんへ

(相談室より)

バス旅行，陸上競技大会，文化祭と行事がつづきました。高校生になって六ヶ月が過ぎてみて，みなさんは現在 どんなふうに感じていますか。

このアンケートは無記名です。正直に答えてください。私たち教師の反省資料にしたいからです。自分の気持ちに近いものに○印を。

A	学校へ来るのは	1. たのしい	2. 嫌だ	3. 別に……
B	友だちは	1. いる	2. いない	
C	授業は大体	1. わかる	2. わからない	
D	先生方の多くは	1. 親切	2. つめたい	3. 関係ない

ところで，相談室では，次のような目的と計画で「話し合い合宿」をしようと考えていますので，参加して下さい。参加希望者は，この用紙の下の方名欄に記入して下さい。

(目的) 相談室の浦田，山口，横川，北島は，特に一年生の人々と話し合う機会が少いのを残念に思っています。そこで，12名くらいを1グループとして2泊3日，できるだけ正直に話し合い，心と心を触れ合わせる「安全な場」をもちたいと考えています。自己を語り，仲間に耳を傾けて，人間らしいグループにしたいと願っています。

(日時，所，費用)

- (1) 11月2日(土) 2:00 pm - 11月4日(月) 2:00 pm
- (2) 金沢大学研修センター(能美郡辰口)
- (3) 費用 4,000円以内(2泊3日の食事，宿泊，果物，菓子，飲物，交通など 一切の費用をふくむ)

合宿参加希望者はホームと氏名を書いてください

ホーム

氏名

'74.10.11

グループに参加するみなさんと父兄のみなさんへ

1974年 10月11日

石川県立金沢二水高等学校相談室

11月2日（土）から4日（月）まで、2泊3日、相談室主催の
合宿を行います。

高校生活にかけた夢と現実の生活とがかけ離れているように思えたり、なんの気なしに過している毎日をふと思い返えして、「これは いったいどうなっているのか」とか、「自分はこれで いいのかしら。」と感じている人も多いと思います。このように現在の自分の状態に疑いや不安を持ち それを 明かにしていくことは すばらしいことです。しかし 自分ひとりで 自分を見究めていくことは とてもむずかしいことです。そこでこの2泊3日は 勇気をふり起して“偽りのない自分”をみつけ出し、他の人の心がわかるように努めたいと思います。

この2泊3日、お互の心と心がしっかり通い合うようにがんばりましょう。そのためには、自分が感じることを、思うことを、考えることを、そのまま仲間に伝えるように努めましょう。気取らず、飾らず、ありのままの自分を、みんなに、わかってもらうように精一杯努力しましょう。また 他の人の心に触れるように、耳を傾けましょう。表面的にならないようにお互いを尊重し、助け合う 2泊3日にしたいと思います。

話し合い合宿について

(時) 昭和49年11月2日(土) - 11月4日(月)

(所) 金沢大学共同研修センター (石川県能美郡辰口町下徳山)

TEL.076151-4000

(責任者) 金沢二水高校教諭

浦田肇, 山口浩洋, 横川紘一, 北島丕

(参加費) 4,000円以内 (宿泊, 食事, 間食, 交通などすべてをふくむ)

(用意すべきもの)

洗面用具, 運動のしやすい服装, ねまき

(時間割)

	11月2日(土)	11月3日(日)	11月4日(月)
7:00		起床, 朝の運動	起床, 朝の運動
8:00		朝食	朝食
9:00 12:00	学 校	第3セッション	第6セッション
12:30	(13:30) 学校出発	昼 食	昼 食
14:00 17:00	第1セッション	第4セッション	(14:00) 解 散
17:30	夕食, 入浴	夕食, 入浴	
19:00 22:00	第2セッション	第5セッション	
23:00	消 燈, 就 寝	消 燈, 就 寝	

セッションの内容は, 主として「話し合い」ですが, 「やりたいこと」の提案をどんどんして, グループの人々との深いつながりをもちましょう。

話し合い合宿参加申し込み（'74.10.17）

- A) 計 画
- (1) 昭和 49 年 11 月 2 日 (土) ～ 11 月 4 日 (月)
 - (2) 金沢大学共同研修センター (TEL. 076151-4000)
(能美郡辰口町下徳山)
 - (3) 費用 約 4,000 円 (宿泊費, 食費, 交通費その他すべて)
 - (4) 責任者 浦田肇, 山口浩洋, 横川絃一, 北島丕
(金沢二水高校教諭)
 - (5) 助言者 多田治夫先生 (金沢大学教養部)
 - (6) 所持品 洗面具, ねまき, 運動のしやすい服装。
- B) 目 的
- (1) 日常の高校生活の中では経験しにくい「人間関係」(自己理解と他者理解)の場を, 教師は, 参加者と協力してつくり出す。
 - (2) 「人間信頼」を体験によって知る。

C) 申し込み

上記の合宿に _____ を参加させていただきますので, 4,000 円をそえて申し込みます。

石川県立金沢二水高校長 蓮 池 進 暢 殿

保護者名 _____

㊞

話し合い合宿について（'74.10.18）

金沢二水高校相談室

「合宿に参加する」と申し出てくださって、相談室の私たちは、大へん よろこんでいます。時間をかけて、お互い心と心が、かよい合うように 努力しましょう。

10月18日（金）現在、参加希望者は36名です。男子18人、女子18人です。ところで、12名ずつのグループに分けたいと考えていますが、どんな話をしてみたいか、あるいは、どんなことをやってみたいかを書いてください。

また、1年生、2年生、3年生の混合のグループがよいか、学年別の方がよいかなども書いて下さい。

- 例 1. テーマを決めないで、自由に話したい。
- 例 2. 「男女交際」というテーマで話したい。
- 例 3. 歌をうたったり、ゲームをして、あそびたい。
- 例 4. 1年生だけで話したい。
- 例 5. 先生が機械的にグループ分けをすればよい。
- 例 6. 先輩や先生方と話したい。

⊗ 参加費を未納の人は、10月24日（木）までに、相談室の山口先生か浦田先生に、あるいは校務室の北島先生に参加申し込み書にそえておさめて下さい。

グループ分けについての希望

（何でも自由に書いてください）

ホーム 氏名

話し合い合宿に参加するみなさんへ '74.10.31

金沢二水高校
相談室

此の間は、アンケートに答えてくださって、ありがとうございました。アンケートの結果、男女混合、学年もまじったグループにすることになりました。1年生の中で「1年生だけで……」という人もありましたが、1年生だけで、グループをくみたい人の数が少なすぎて、御期待に応えられませんでした。もしよかったら「何故、1年生だけになりたかったか」を話してもらえたら、その気持ちにみんなで、応えることが、できるのではないかと思います。歌やゲームやクイズやフォークダンスなど楽しい時を過したいという意見も沢山ありましたし、全員で集りたいという希望もありました。これらは、時間割の中に組みいれたいと思っています。また話し合いのテーマは「何でも思ったことを話したい」ということで、「友情、恋愛、今、自分に関心のあることを話したい」というふうになって、アンケートに表われていますので、各グループの自由にまかせたいと思います。

「話し合い合宿」と他の合宿の違いについて

たしかに、ゲーム、歌、フォークダンスなどで、お互い仲良くなれますが、もうひとつ「お互いを深く理解し合える」ように努力するのが、この合宿の目標です。そのためには、できるだけ自分のことを卒直に話すように、また他の人に関心をもって、耳を傾けるように努力しましょう。そしてだれにでも弱いところ、かなしく思うところ、つまらなく思うところなど「自分の内側」をのぞくとあるものです。普通の学校生活では、お互いそろそろしい関係というか、自分が居ても居なくても大して関係のない感じというか、先生ともクラスメートとも、それほど深い友情は感じられていないのではないのでしょうか。この合宿で、楽しくあたたかい雰囲気の中で自己に眼を向けたり、相手のことを理解しようと努めたり、みんなと一緒にいることの意味があるように努めましょう。

次に合宿についての連絡事項をあげておきます。

- 集合時刻 11月2日(土)午後1時 相談室前
- 所持品 筆記用具、洗面用具、運動ぐつ、ねまき、スラックス
- 合宿場所は、金沢大学共同研修センターですから (tel. 076151-4000) かならず 家の人に連絡先を知らせておくこと。
- ギターなど、楽器のある人は、もって来て下さい。

Questionnaire (1974, 11. 8) 氏名 _____

1. 「合宿を終えて」と題して、何んでも自由に感想を述べて下さい。

2. 話し合いの中での先生の言葉や態度で、理解できなかったことがあったら、遠慮なく書いて下さい。

3. 同じグループの人で、あなたが かなりよく理解できた人があれば、その人の名前をあげて、その人をどのように理解したかも述べて下さい。何んでもいいです。

4. グループの中で言いのこしたことがあったら、ここに書いて下さい。

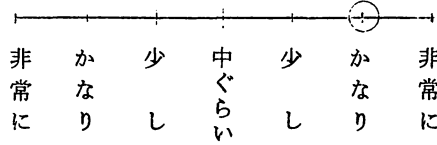
5. 上記以外の点で、気付いたこと、述べておきたいことがあれば、何でも書いて下さい。（たとえば、もう一度 集まって話し合ってみたい……）

S D 法に使用した用紙

№

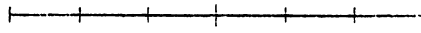
氏名

(例) 気が長い



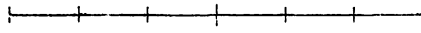
気が短い

個性的な



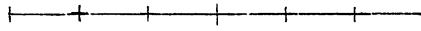
個性のない

敏感な



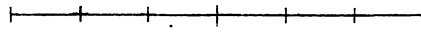
鈍感な

きびしい



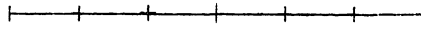
やさしい

明るい



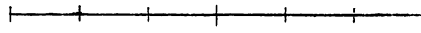
暗い

暖かい



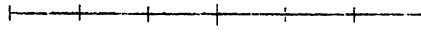
冷たい

満足した



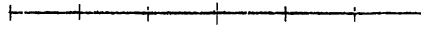
不満な

地味な



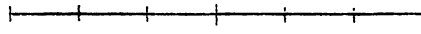
派手な

ふまじめな



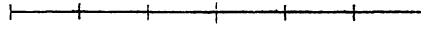
まじめな

こまかい



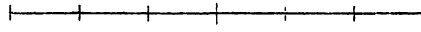
大まかな

強気な



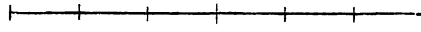
弱気な

せっかちな



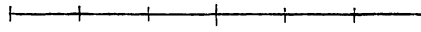
のんびりした

臆病な



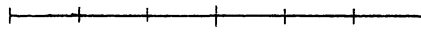
勇敢な

感情的



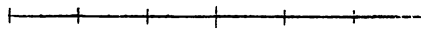
理性的

幸福な



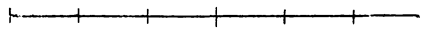
不幸な

積極的



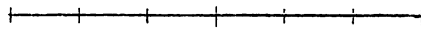
消極的

不誠実な



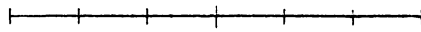
誠実な

軽そつな



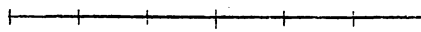
慎重な

不安な



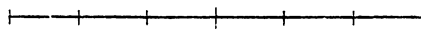
安定した

意欲的



無気力

たよりない



たのもし

あ　と　が　き

この「高校生のためのグループ・カウンセリング」が、今回出版の運びに至りましたのは、畠瀬稔、村山正治両先生をはじめとする人間関係研究会の御支援と御協力によるものと、深く感謝しています。最初、この記録は私たちの反省資料として、ガリ刷りにして関係者にお送りしたのですが、畠瀬先生から印刷にしてみても、というお言葉をいただきました。更に、人間関係研究会の皆様から激励のお言葉をいただきました。地方に住む高校教師にとって、自分たちの実践記録に、このように関心をよせ、御助言いただけることは、何にもましてありがたいことだと感謝しています。

はじめて、本校の生徒を対象にグループ・カウンセリングを実施したのは、今から4年前の1971年でした。この私たちの新しい試みを、教育活動の中に採択してくださり、御指導いただいたのは、当時の校長であった古道正進先生と、中村外治教頭先生でした。そして今回のレポートに報告した第5回グループ・カウンセリングが、ファシリティーター確保や生徒課・ホーム担任・相談室の連携のもとで、それなりの成果をあげ得たのは、前校長の蓮池進暢先生と現教頭の高島誠一先生の御理解と御配慮によるものです。今年度は、新たに現校長大高彰八先生のもとで、新入生のためのグループを、主として小規模中学出身者を対象に行いました。私たちがこの4年間に7回にわたって学校行事としてグループ・カウンセリングを実施できたのは、これら歴代の校長先生と諸先生方の生徒への暖かい思いやりが背景となっており、ひとえに教師間の共通理解と協力の賜物だと感謝しています。また、さかのぼって考えますと、本校の相談室活動が今日のように定着できたのは、1960年代において、数年にわたり、独創的なカウンセリング・ルーム運営をされた花山勝道先生に負うところが甚大であると思うのですが、今回のレポート作成に際しても、自ら筆をいれくださるなど、格別の御協力をいただき感謝しています。

金沢大学の多田治夫先生には、第1回から第7回まで、毎回全日程グループに参加してただけでなく、グループ・カウンセリングの効果測定法などについても御指導いただきました。多田先生の熱心で適切なスーパービジョンがなければ、私たちの力だけでは、到底やれなかっただろうと思います。多田先生はじめ、この「高校生のためのグループ・カウンセリング」に、ファシリティーターとして御協力くださった児童生活指導センターの海野保男先生、本校の西谷隆、村田進、中谷元子、山口浩洋、浦田肇、横川紘一の先生方には、このように印刷することがきまりましてからも、原稿整理などで大変お世話になりました。

このようにして、このレポートは数々の先生方の暖かい御配慮と御協力によってできあがったものです。ここに深く感謝申しあげます。

1976年2月11日

石川県立金沢二水高校教諭　北　島　丕

著者略歴	1931年	鳥取市に生まれる。
	1954年	金沢大学法文学部英米文学科卒業
現　　職		石川県立金沢二水高等学校教諭

人間関係研究会について

人間関係研究会は、エンカウンター・グループを中心とした人間関係の改善と促進の方法についての研究と実践を目的として、1970年春に発足しました。この研究会は、人間関係の分野に関心をもつ研究者と実践家が閉鎖性をうち破り、新しい人間関係をもとに組織と集団や個人生活のあり方に、より真実で創造的・建設的なものを求めることを課題としています。人間関係こそは、私たち人間の生き続ける限り、世界・国家・社会を通じての大きな課題であり、障壁・闘争・破滅につながると同時に、成長・建設・福祉への道でもあります。この新しい分野に関心をもたれる方々が、この研究会を利用し、経験と知識を交換しあうことを希望しています。

この研究会は、年間二十数回のワークショップやセミナーを開催し、文献資料の配布を行っており、機関誌の発行も計画中です。希望者は、人間関係研究会の各地区事務局へお問い合わせ下さい。

人間関係研究会 刊行資料

人間関係研究会では、グループ活動に関連する資料を刊行しています。自分のグループ体験を掘りさげて見つめるためにも、一読をお勧めします。また、“こんなことに関する資料がほしい”という様な御希望もお知らせいただけると幸いです。

- №1 畠 瀬 稔 : 身体接触を伴う人間関係促進の一技法 (改訂増補), 1972
(価 200 円 ㊦ 120 円…40 g)
- №2 小 野 修 : 自分がよみがえった — エンカウンター・グループへの参加経験 —, 1971 (価 200 円 ㊦ 120 円…40 g)
- №3 ロジャーズ, 1967 (小野 修訳) : 自己指示的教育組織の変革のための計画, 1971
(価 200 円 ㊦ 120 円…45 g)
- №4 畠 瀬 稔 : エンカウンター・グループについて — 来談者中心療法の行動科学的発展 — (「教育の医学」18 巻 1 号より転載)
(価 200 円 ㊦ 120 円…30 g)
- №5 ジェンドリン&ビービー, 1968 (小野 修訳) : 体験グループ — グループのためのインストラクション — (増補改題), 1972 (価 200 円 ㊦ 120 円…40 g)
- №6 北 畠 丕 : 高校生のためのグループ・カウンセリング, 1976
(価 800 円 ㊦ 240 円…180 g)
- №7 増田 実, 東山 紘久, 清水 信介 : ラ・ホイヤ・プログラムへの参加経験, 1977
(価 200 円 ㊦ 120 円…40 g)
- №8 畠 瀬 稔 : 企業における人間関係の改善について — エンカウンター・グループの導入 —, 1979 (価 200 円 ㊦ 120 円…30 g)
- 清 水 信 介編 : エンカウンター・グループ文献リスト, 1975 (価 200 円 ㊦ 120 円…40 g)

これらの文献資料の購入申し込み、またはお問い合わせは、各プログラムの「問い合わせ先、または下記までどうぞ。

一冊以上ほしい方は、重さを参考にして計算の上、郵送料をお送り下さい。250 g までは 240 円、500 g までは 350 円です。

人 間 関 係 研 究 会 事 務 局

〒145 東京都大田区上池台 1-34-26

渡 辺 協 子 方

ご送金は郵便振替 東京 9-37428 まで

人間関係研究会資料 No. 6

発行者 人間関係研究会

〒145 東京都大田区上池台1-34-26 渡辺協子方

TEL 03-729-3622

郵便振替 東京 9-37428

印刷者 〒769-15 香川県三豊郡豊中町 大西プリント社

発行日 第1刷 1976年3月15日

第2刷 1982年2月1日

著者 〒921 金沢市十一屋市15-17 北島 丕 ©

